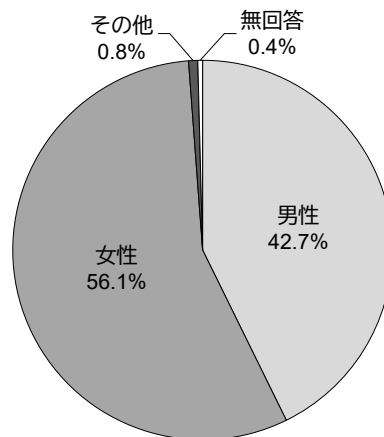


2 市民意識調査結果

回答者の属性

(1) 性別

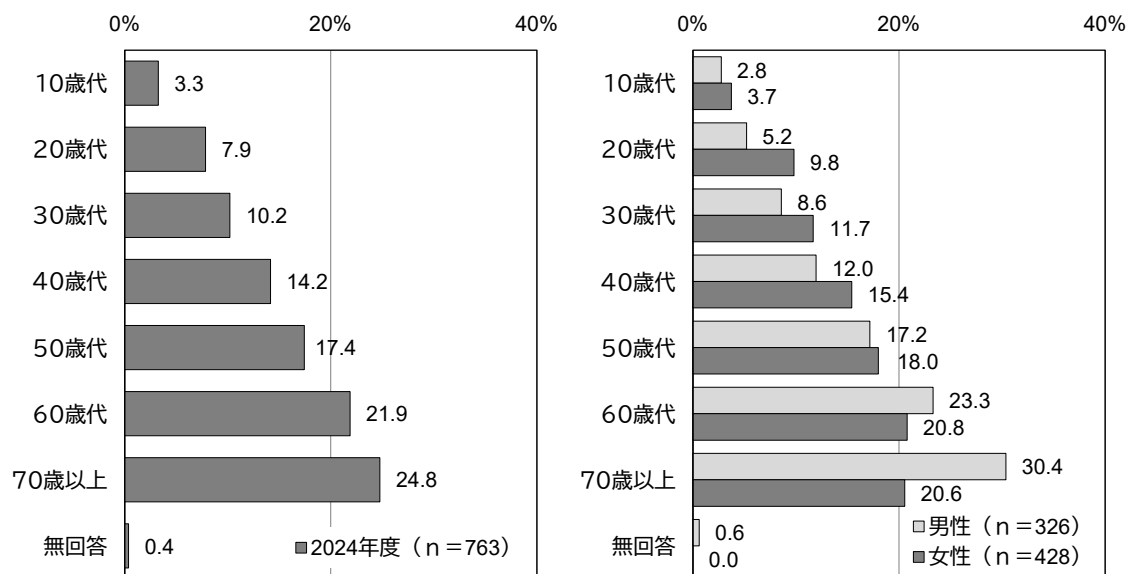
女性（56.1％）が男性（42.7％）より高くなっています。



(2) 年代

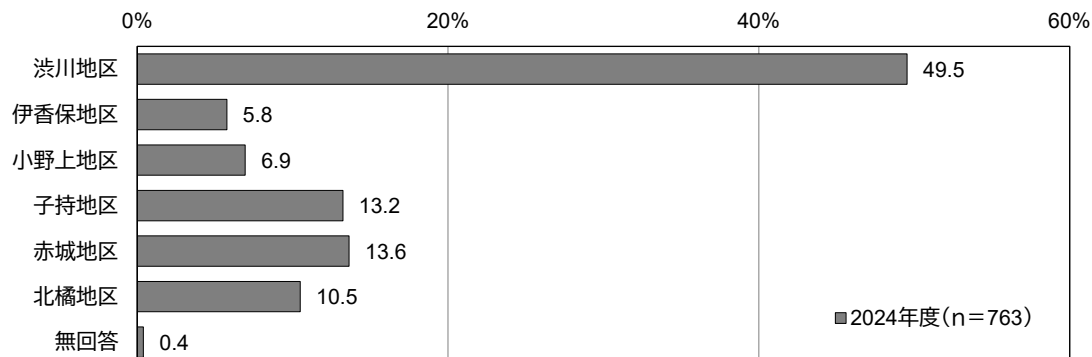
全体では、70 歳以上（24.8％）、60 歳代（21.9％）が 2 割以上、次いで 50 歳代（17.4％）が約 2 割となっています。

性別では、男性は 70 歳以上（30.4％）が 3 割以上で最も高く、女性は 60 歳代（20.8％）、70 歳以上（20.6％）が 2 割以上で同程度に高くなっています。



(3) 居住地区

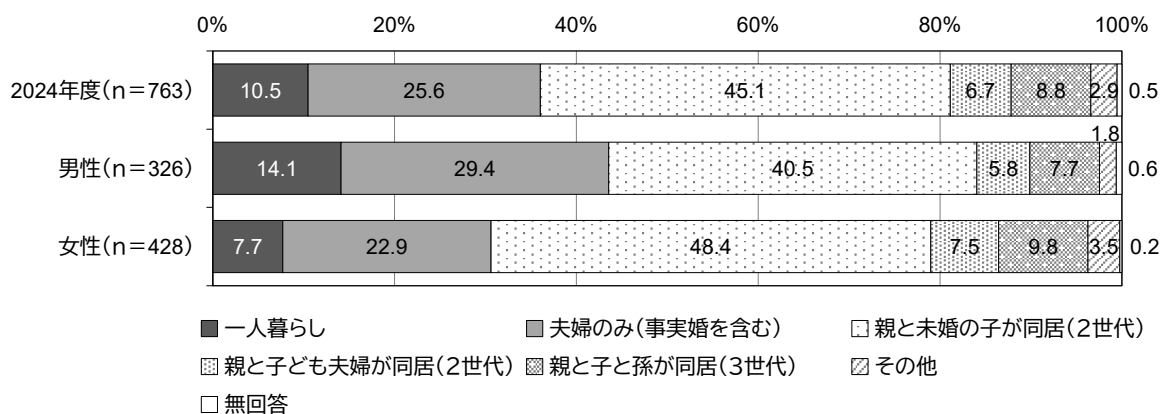
渋川地区（49.5%）が約5割で最も高く、次いで赤城地区（13.6%）、子持地区（13.2%）、北橘地区（10.5%）の3地区が1割以上となっています。



(4) 世帯構成

全体では、「親と未婚の子が同居（2世代）」（45.1%）が4割以上で最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚を含む）」（25.6%）が2割以上となっています。

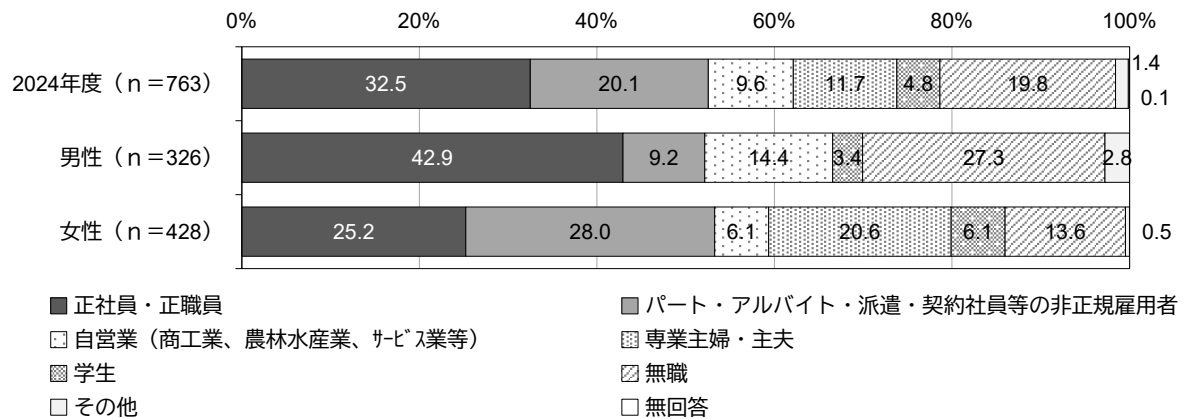
性別では、男女とも「親と未婚の子が同居（2世代）」（男性 40.5%、女性 48.4%）が4割以上で最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚を含む）」（男性 29.4%、女性 22.9%）となっています。



(5) 職業

全体では、「正社員・正職員」(32.5%)が3割以上で最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣・契約社員等の非正規雇用者」(20.1%)、「無職」(19.8%)の2項目が約2割となっています。

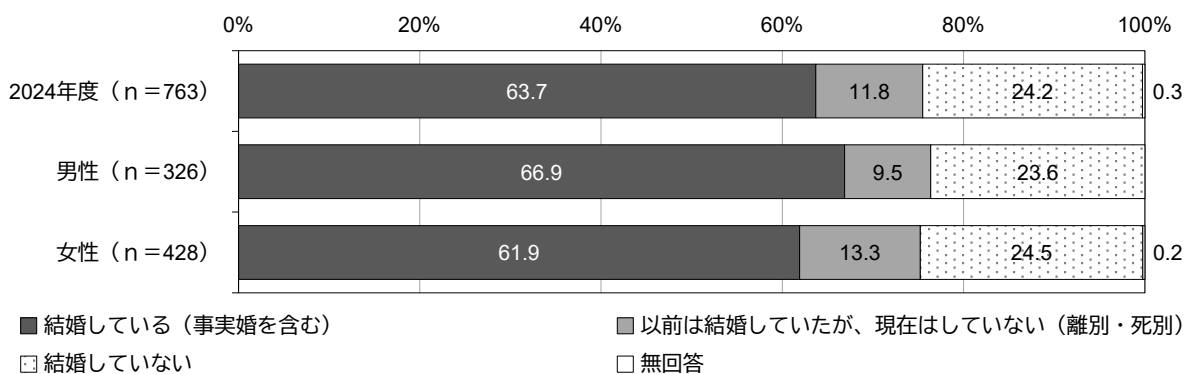
性別では、男性は「正社員・正職員」(42.9%)が4割以上、女性は「パート・アルバイト・派遣・契約社員等の非正規雇用者」(28.0%)が約3割で最も高くなっています。



(6) 結婚の状況

全体では、「結婚している(事実婚を含む)」(63.7%)が6割以上で最も高く、次いで「結婚していない」(24.2%)が2割以上となっています。

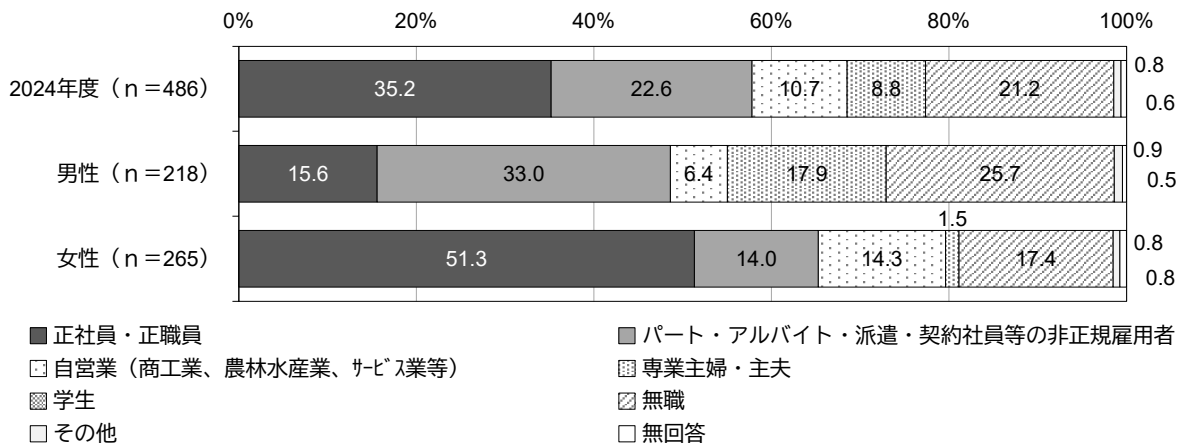
性別による大きな差は見られません。



(7) 配偶者・パートナーの職業

全体では、「正社員・正職員」(35.2%)が3割以上で最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣・契約社員等の非正規雇用者」(22.6%)、「無職」(21.2%)の2項目が2割以上となっています。

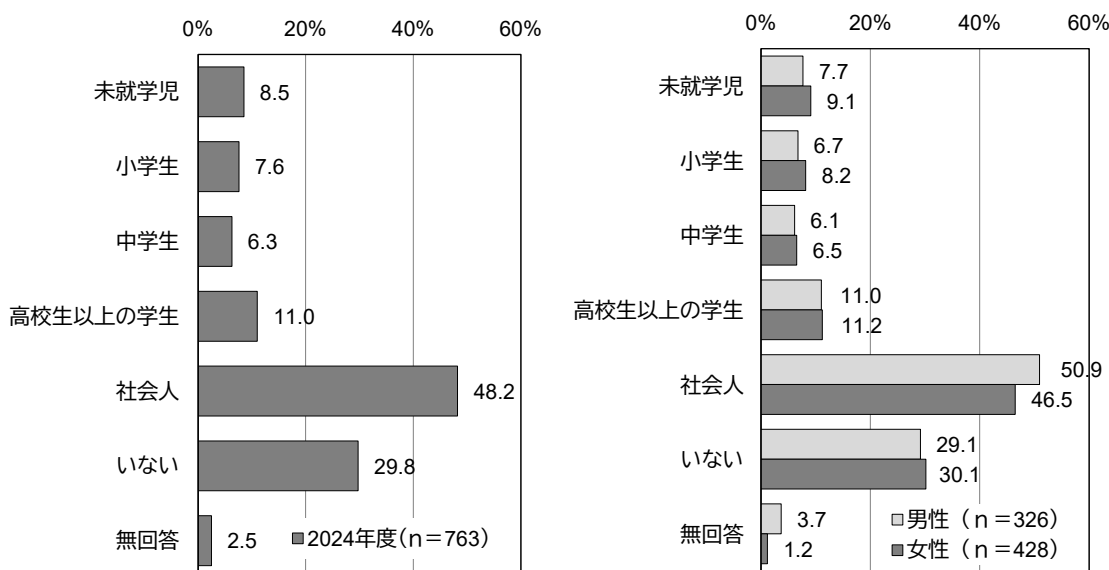
性別では、男性回答者の配偶者・パートナーは「パート・アルバイト・派遣・契約社員等の非正規雇用者」(33.0%)、女性回答者の配偶者・パートナーは「正社員・正職員」(51.3%)が5割以上で最も高くなっています。



(8) 子どもの状況(あてはまるもの全てに○)

全体では、「社会人」(48.2%)が約5割で最も高く、次いで「いない」(29.8%)が約3割となっています。

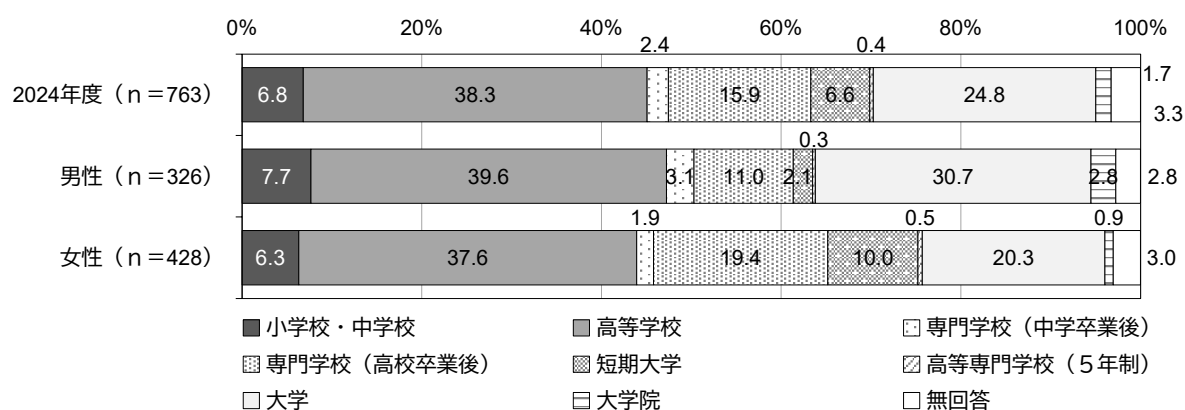
性別による大きな差は見られません。



(9) 最終学歴

全体では、「高等学校」(38.3%)が約4割で最も高く、次いで「大学」(24.8%)が2割以上となっています。

性別では、男女とも「高等学校」(男性 39.6%、女性 37.6%)が約4割で最も高く、次いで男性は「大学」(30.7%)が3割以上、女性は「大学」(20.3%)、「専門学校(高校卒業後)」(19.4%)の2項目が約2割で同程度に高くなっています。



1 各分野における男女の地位の平等感について

問1 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ1つに○)

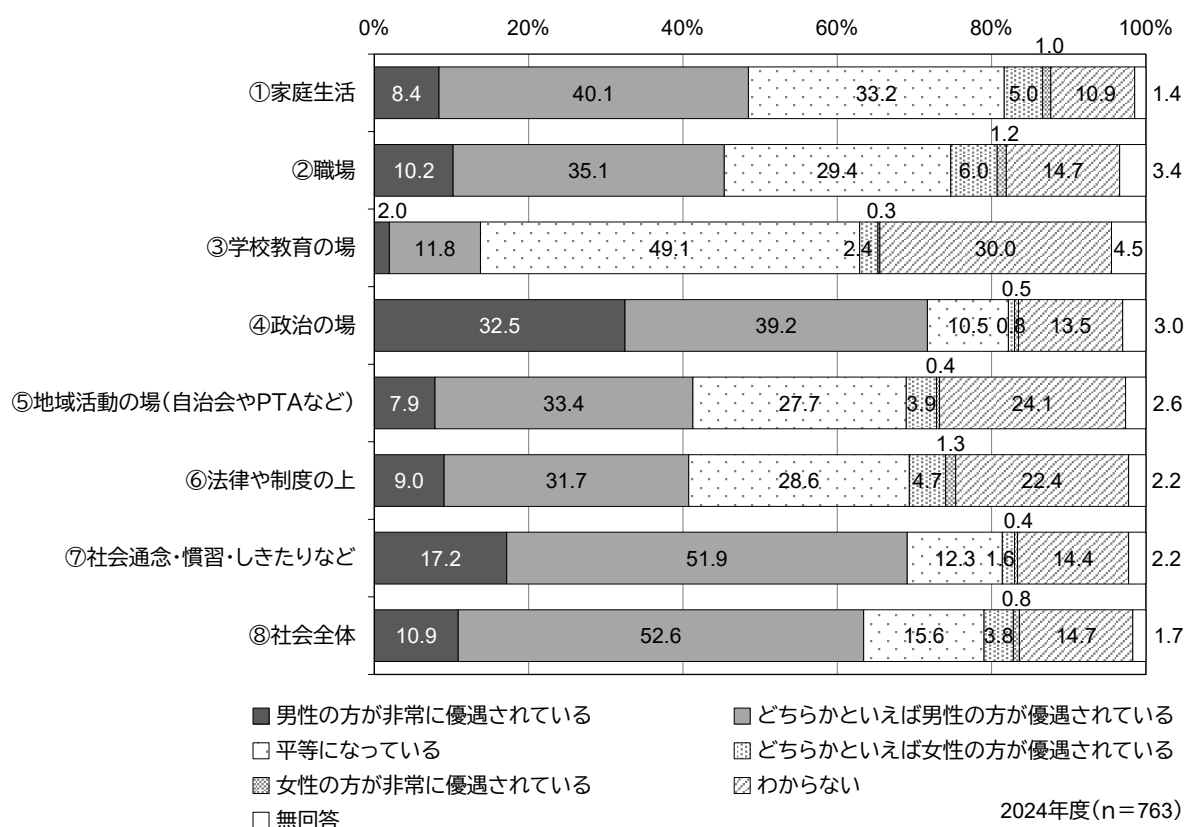
◆『男性優遇』は「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」が約7割、次いで「社会全体」が6割以上で高い

◆『女性優遇』はいずれも1割未満、『平等』は「学校教育の場」が約5割で最も高い

全体では、「③学校教育の場」を除き「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、「③学校教育の場」は「平等になっている」(49.1%) が約5割で最も高くなっています。

「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計値『男性優遇』は「④政治の場」(71.7%)、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」(69.1%) が約7割、次いで「⑧社会全体」(63.5%) が6割以上となっています。

一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」の合計値『女性優遇』はいずれも1割未満となっています。



*前回調査は「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が優遇されている」「どちらともいえない」「わからない」の7選択肢で設定

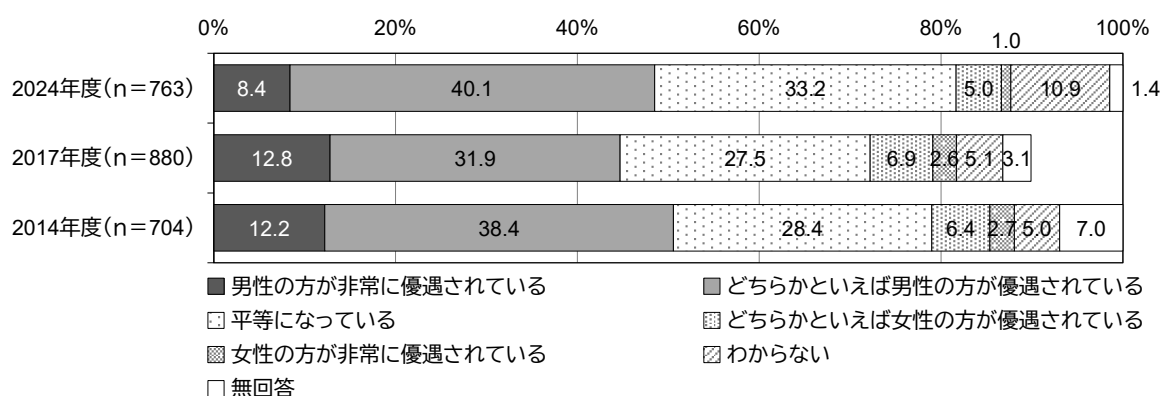
①家庭生活

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が4割以上で最も高く、合計値『男性優遇』は約5割で過去2回の調査と同程度

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(40.1%)が4割以上で最も高く、次いで「平等になっている」(33.2%)が3割以上となっています。

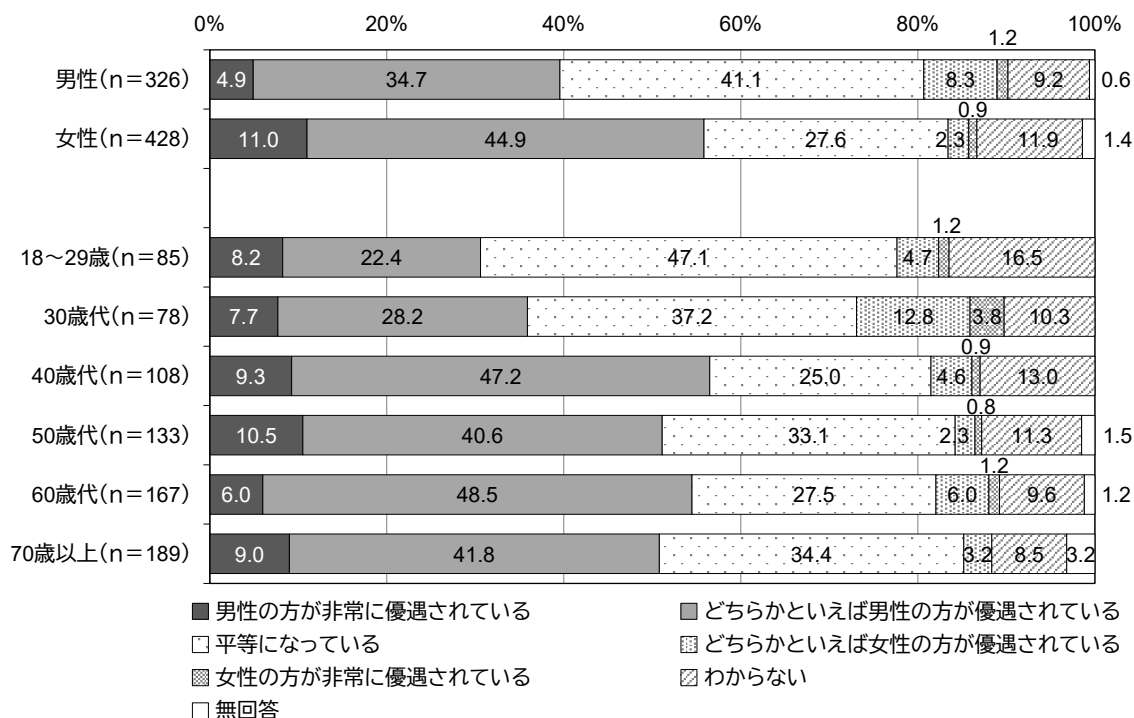
合計値『男性優遇』(48.5%)は約5割となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(44.7%)、前々回(50.6%)と同程度で大きな変化は見られません。

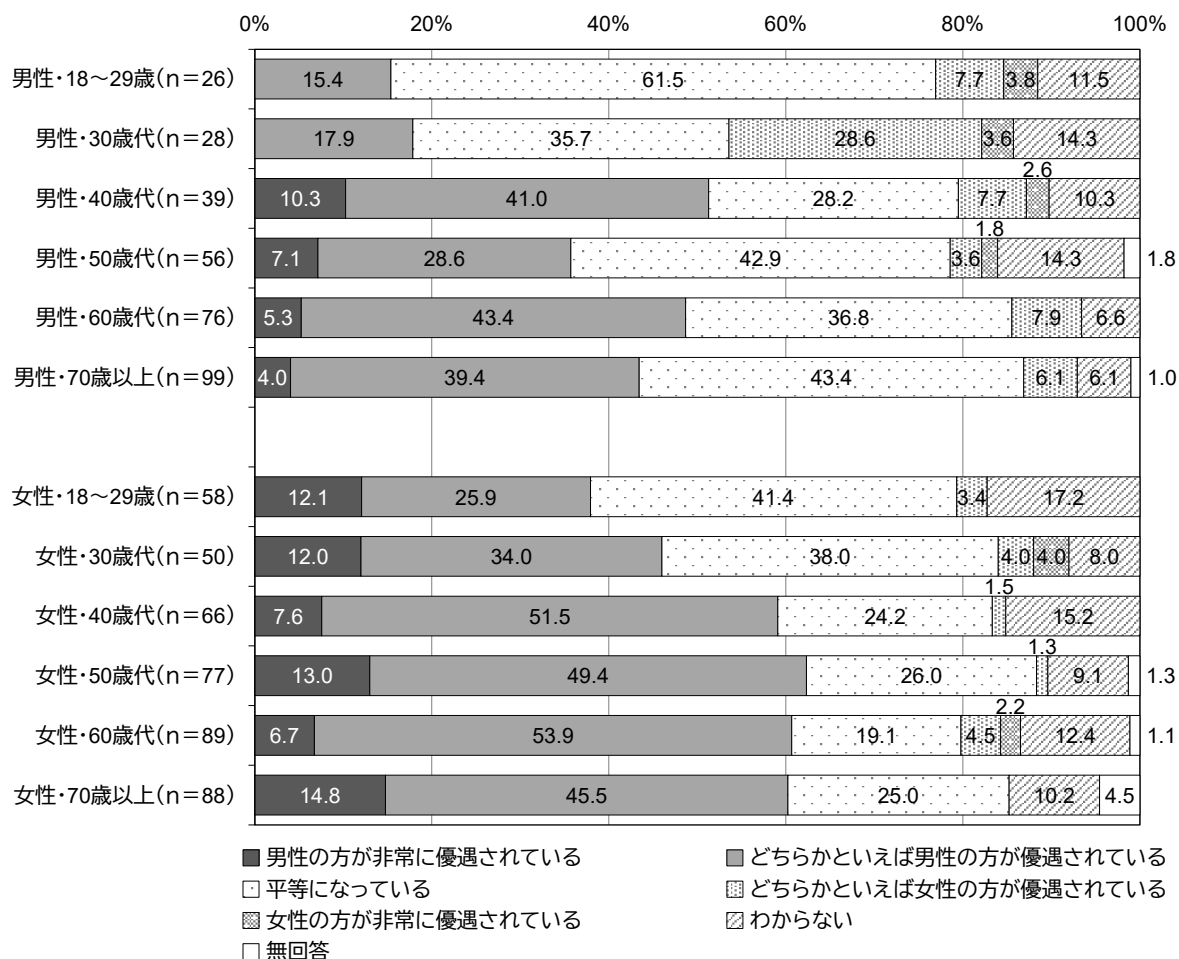


性別では、男性は「平等になっている」(41.1%)、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(44.9%)がそれぞれ4割以上で最も高くなっています。

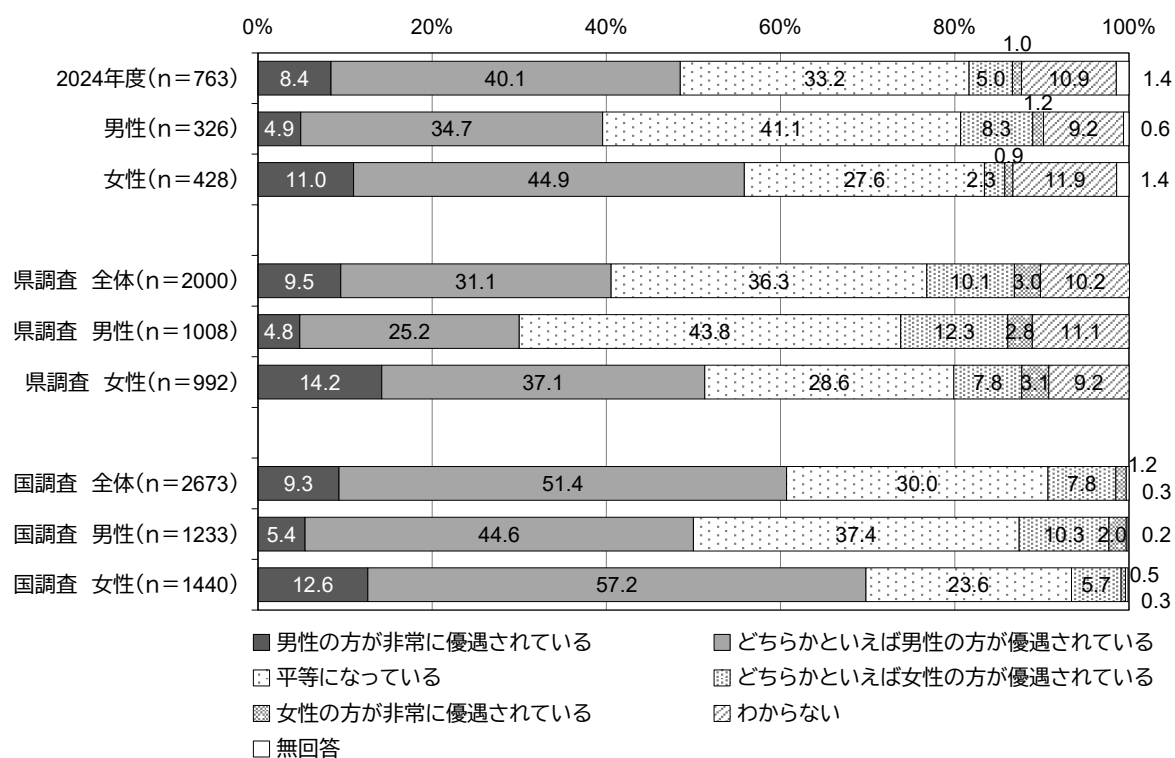
年代別では、30歳代以下は「平等になっている」(18~29歳47.1%、30歳代37.2%)、40歳代以上はいずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性は、30歳代以下と50歳代、70歳以上は「平等になっている」、40歳代と60歳代は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性18～29歳、30歳代は「男性の方が非常に優遇されている」の回答が見られません。女性は、30歳代以下は「平等になっている」（18～29歳41.4%、30歳代38.0%）が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』（男性 39.6%、女性 55.9%）は、男女とも県調査（男性 30.0%、女性 51.3%）より高く、国調査（男性 50.0%、69.8%）より低くなっています。



*国調査は「わからない」を除く5選択肢で設定（以下⑧まで同じ）

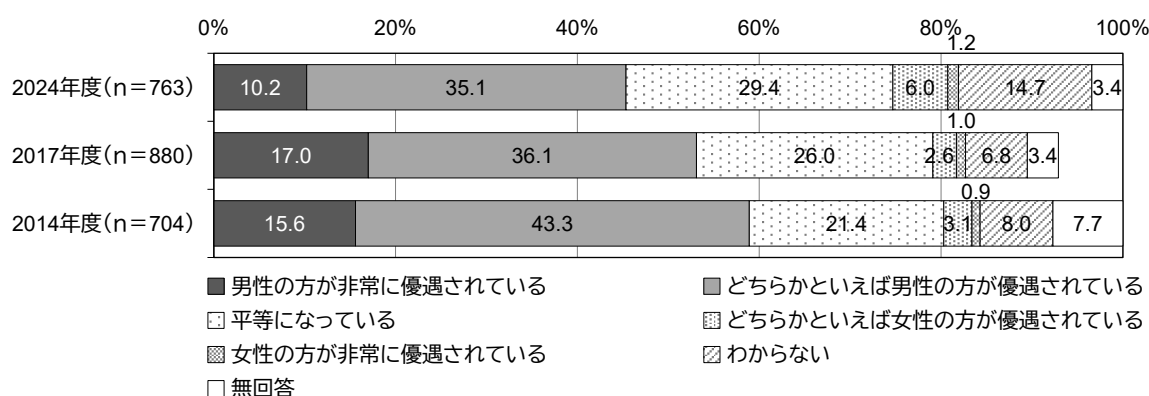
②職場

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が3割以上で最も高く、合計値『男性優遇』は4割以上で過去2回の調査より低くなる傾向

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(35.1%)が3割以上で最も高く、次いで「平等になっている」(29.4%)が約3割となっています。

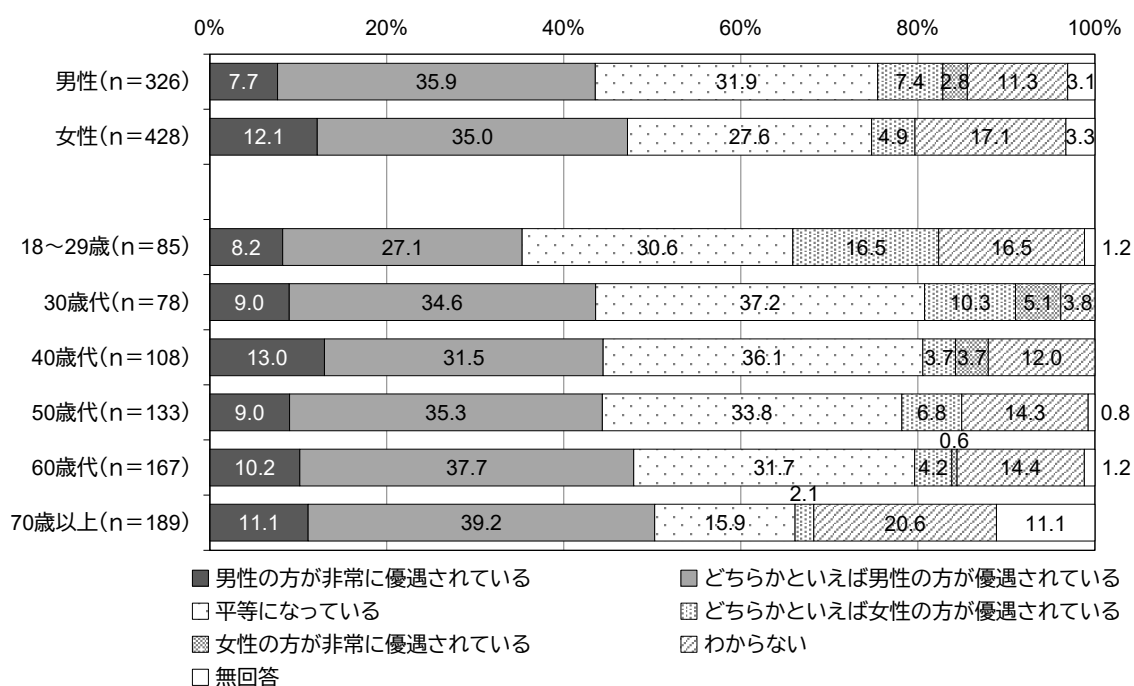
合計値『男性優遇』(45.3%)は4割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(53.1%)や前々回(58.9%)より低くなっています。

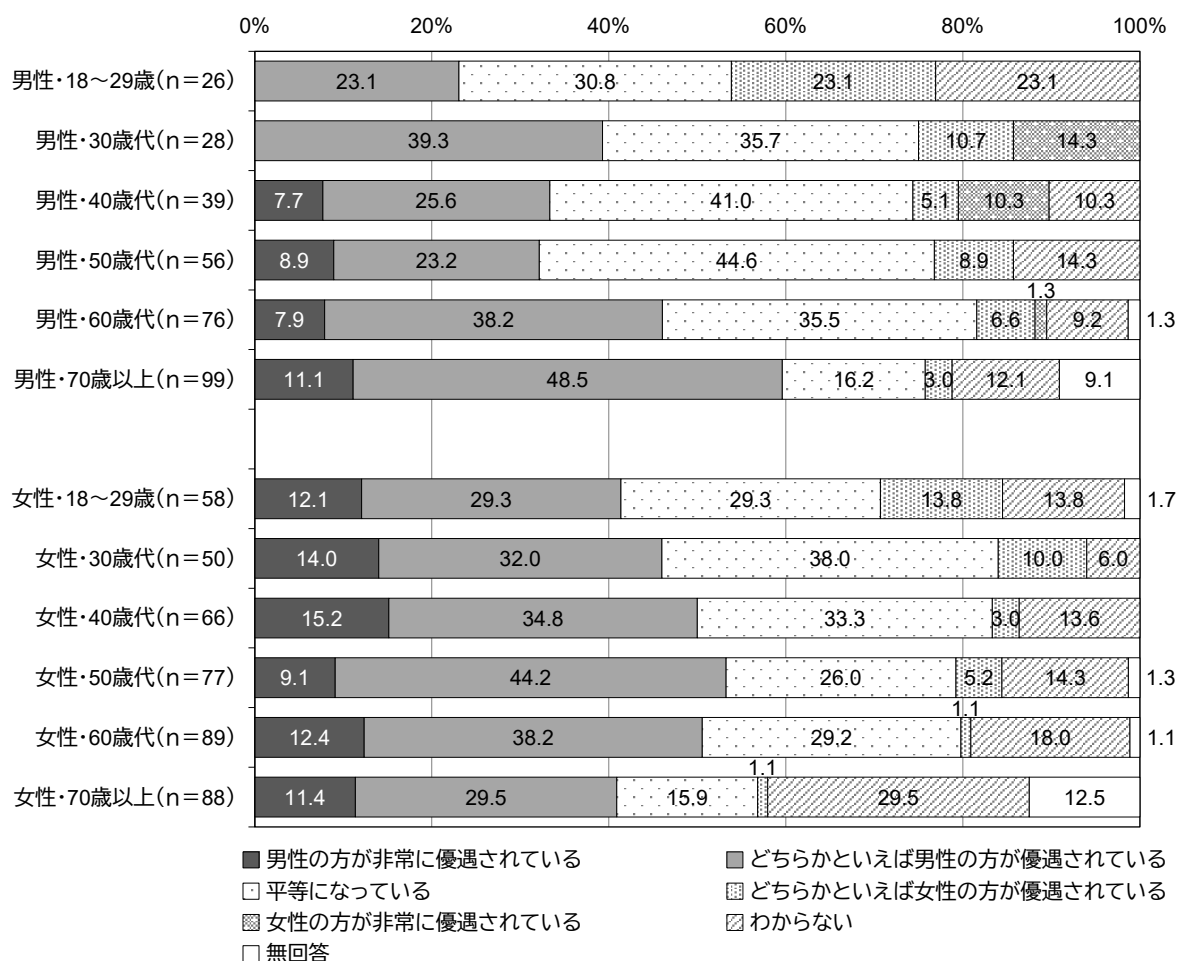


性別では、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(男性 35.9%、女性 35.0%)が3割以上、次いで「平等になっている」(男性 31.9%、女性 27.6%)が約3割となっています。

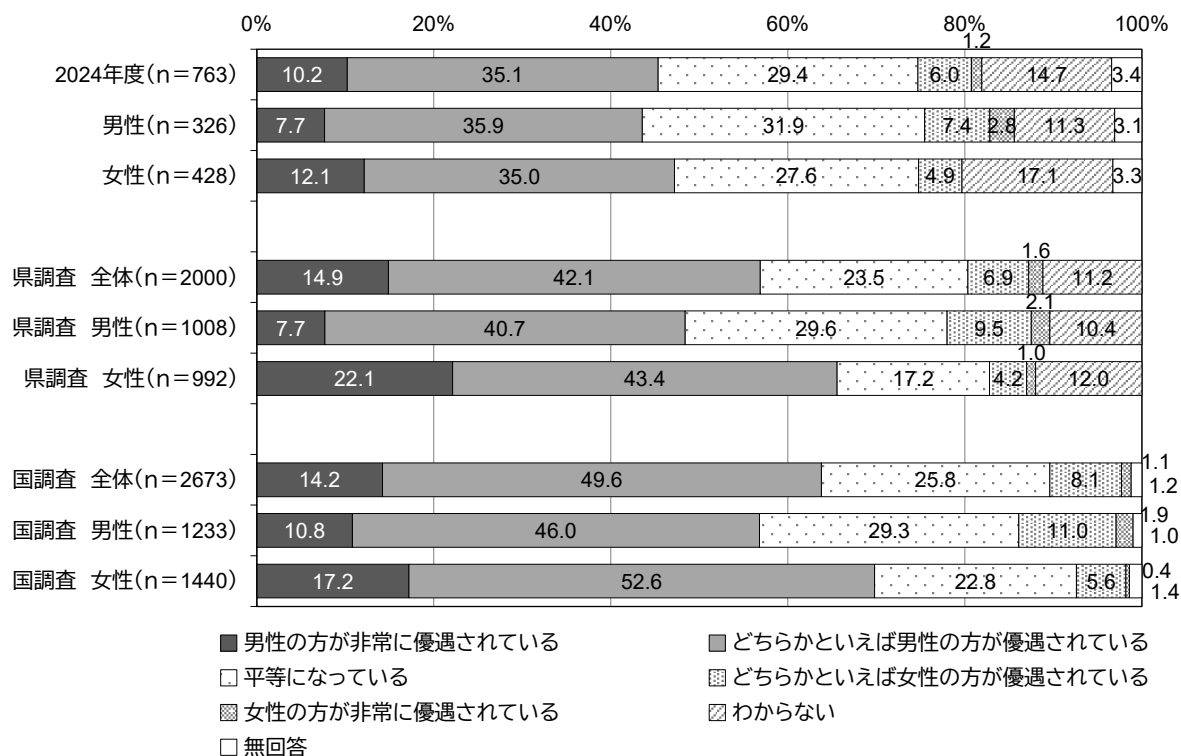
年代別では、40歳代以下は「平等になっている」、50歳代以上は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性は、18～29歳と40歳代、50歳代は「平等になっている」、それ以外は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。女性は70歳以上を除き「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等になっている」のいずれかが最も高く、70歳以上は「わからない」(29.5%)が「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と同値で最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』（男性 43.6%、女性 47.1%）は、男女とも県調査（男性 48.4%、女性 65.5%）や国調査（男性 56.8%、69.8%）より低くなっています。



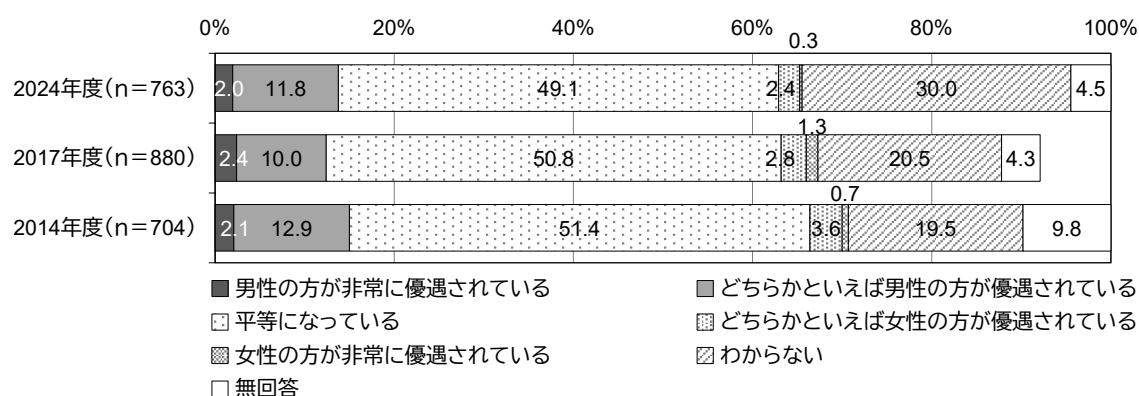
③学校教育の場

◆「平等」が約5割で最も高く、合計値『男性優遇』は1割以上で過去2回の調査と同程度

全体では、「平等になっている」(49.1%)が約5割で最も高く、次いで「わからない」(30.0%)が3割となっています。

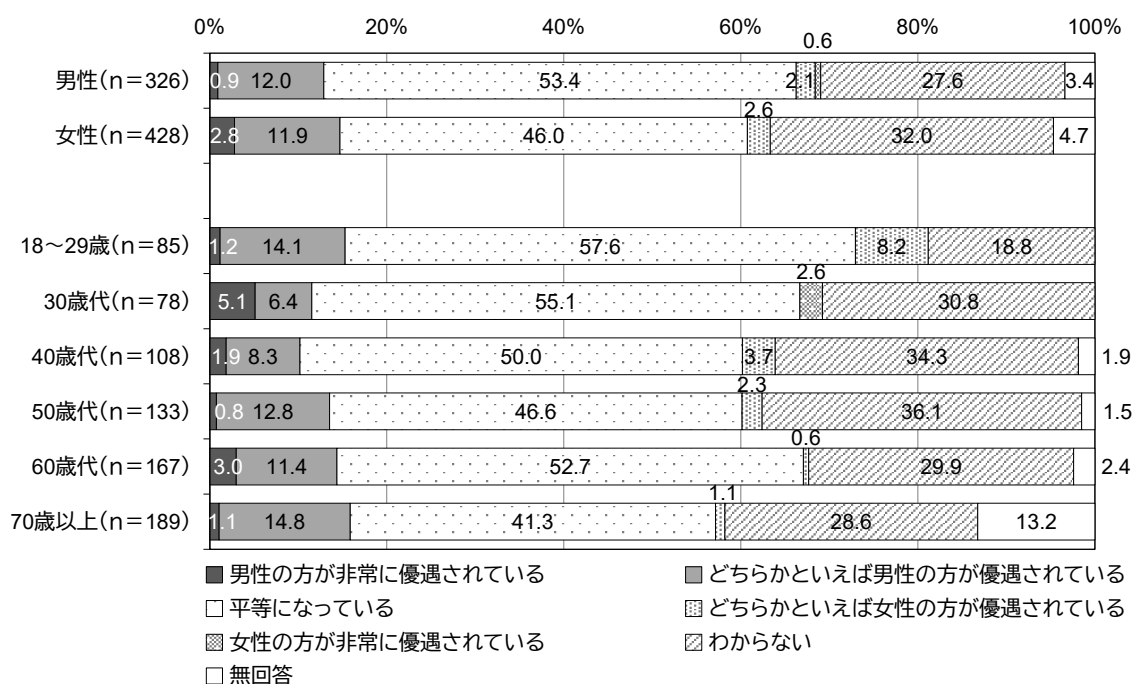
合計値『男性優遇』(13.8%)は1割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(12.4%)、前々回(15.0%)と同程度で大きな変化は見られません。

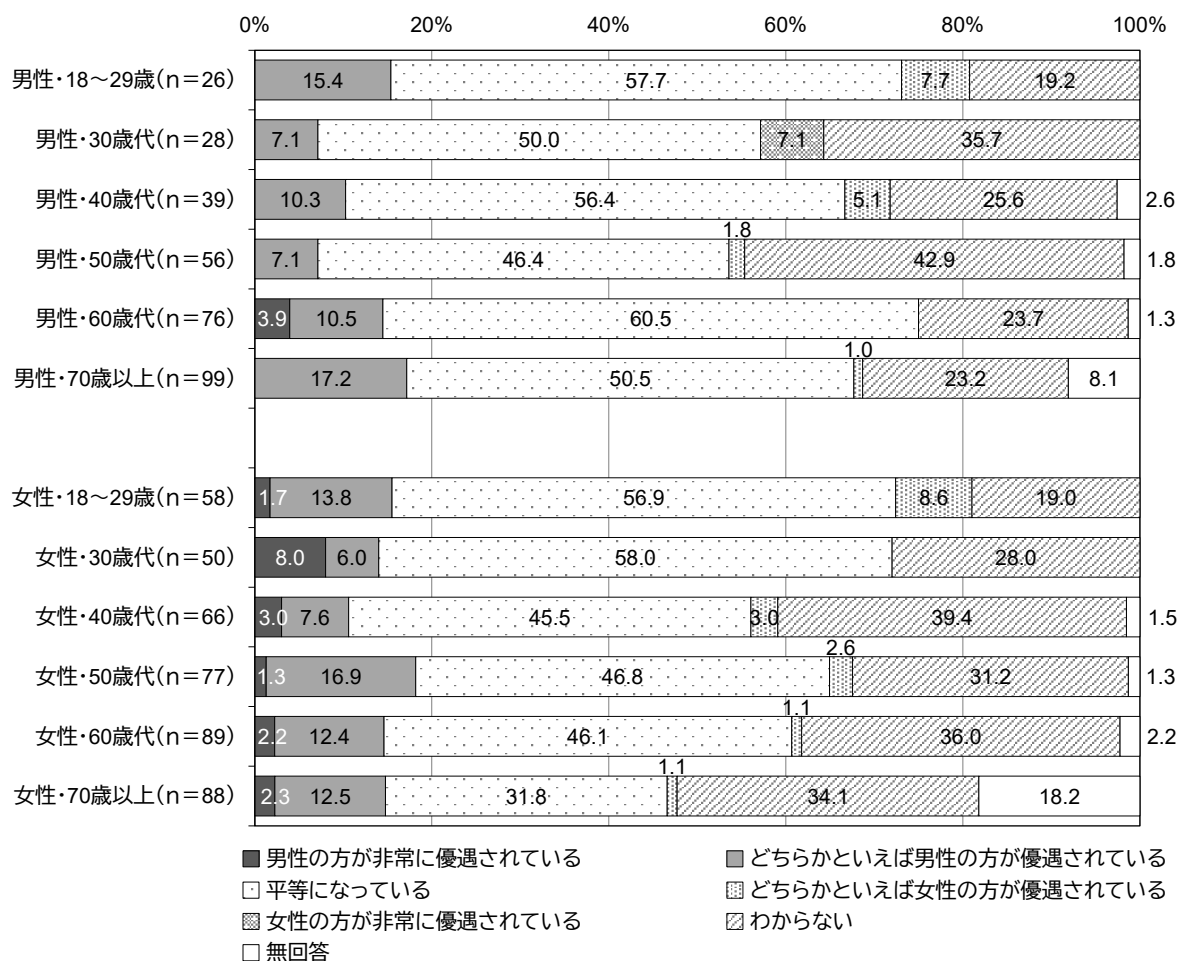


性別では、男女とも「平等になっている」(男性 53.4%、女性 46.0%)が約5割、次いで「わからない」(男性 27.6%、女性 32.0%)が約3割となっています。

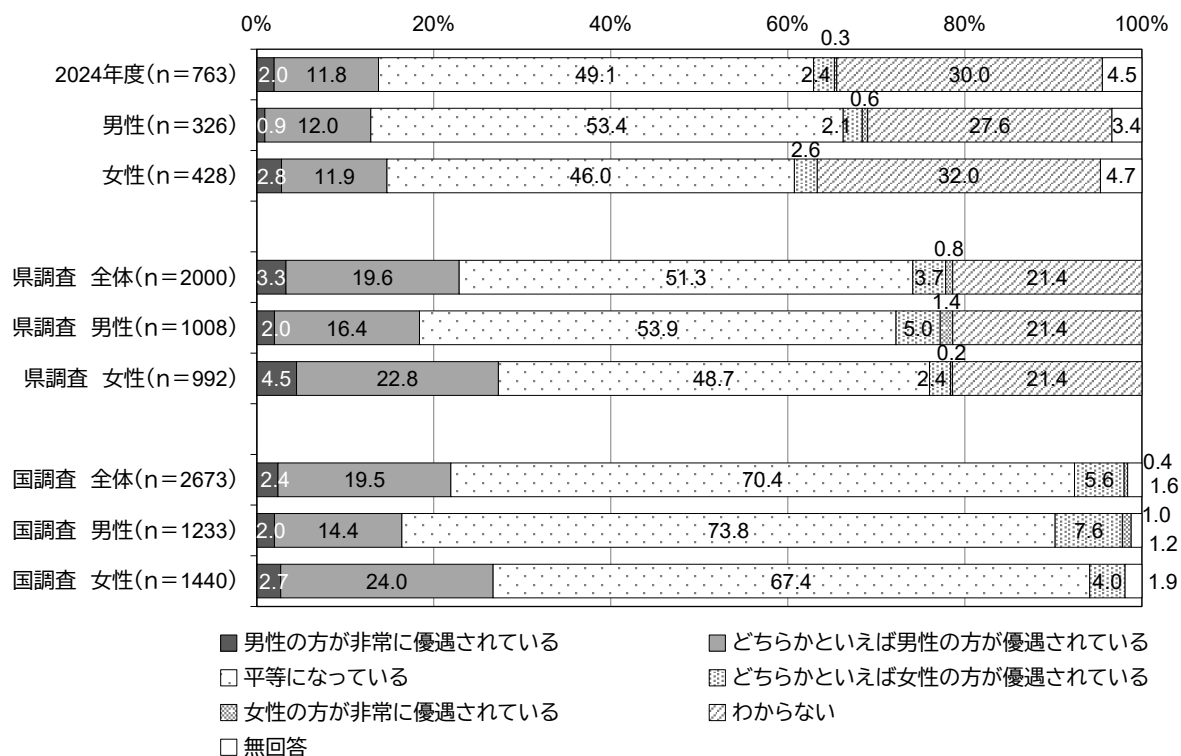
年代別では、いずれの年代も「平等になっている」が最も高く、次いで「わからない」が高くなっています。



性別×年代別では、女性 70 歳以上を除き、男女ともいずれの年代も「平等になっている」、女性 70 歳以上は「わからない」(34.1%) が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』（男性 12.9%、女性 14.7%）は、男女とも県調査（男性 18.4%、女性 27.3%）や国調査（男性 16.4%、26.7%）より低くなっています。



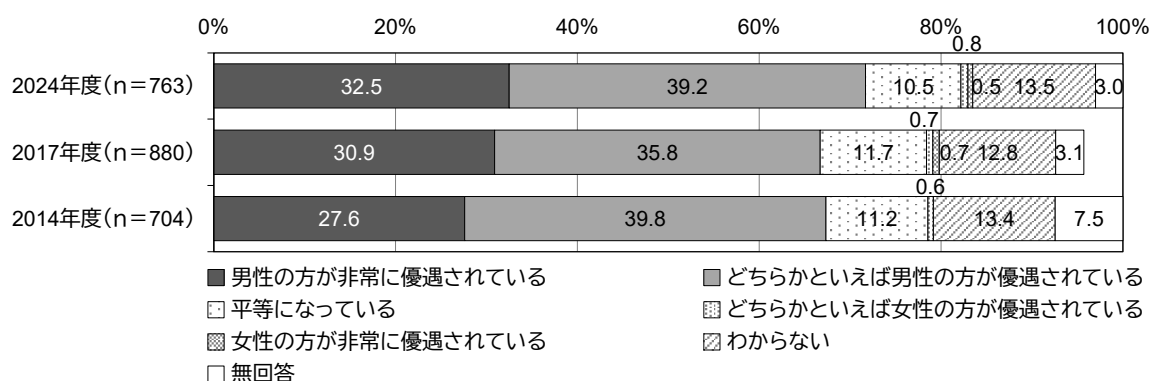
④政治の場

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が約4割で最も高く、合計値『男性優遇』は7割以上で過去2回の調査より高い

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.2%)が約4割で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(32.5%)が3割以上となっています。

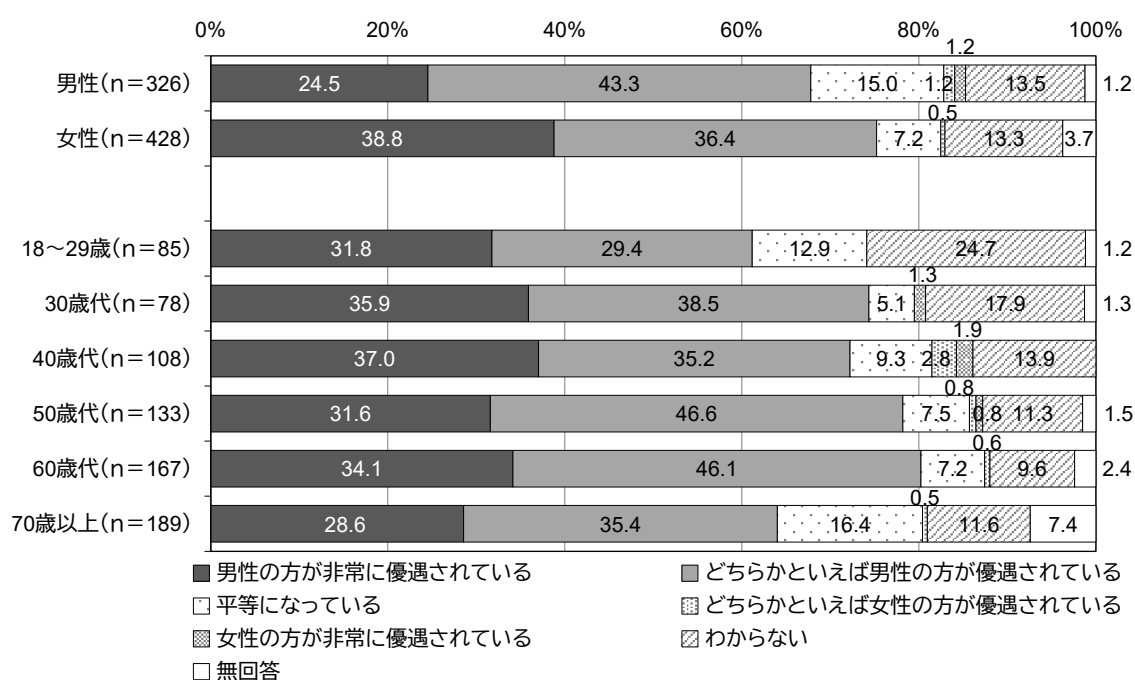
合計値『男性優遇』(71.7%)は7割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(66.7%)や前々回(67.4%)より高くなっています。

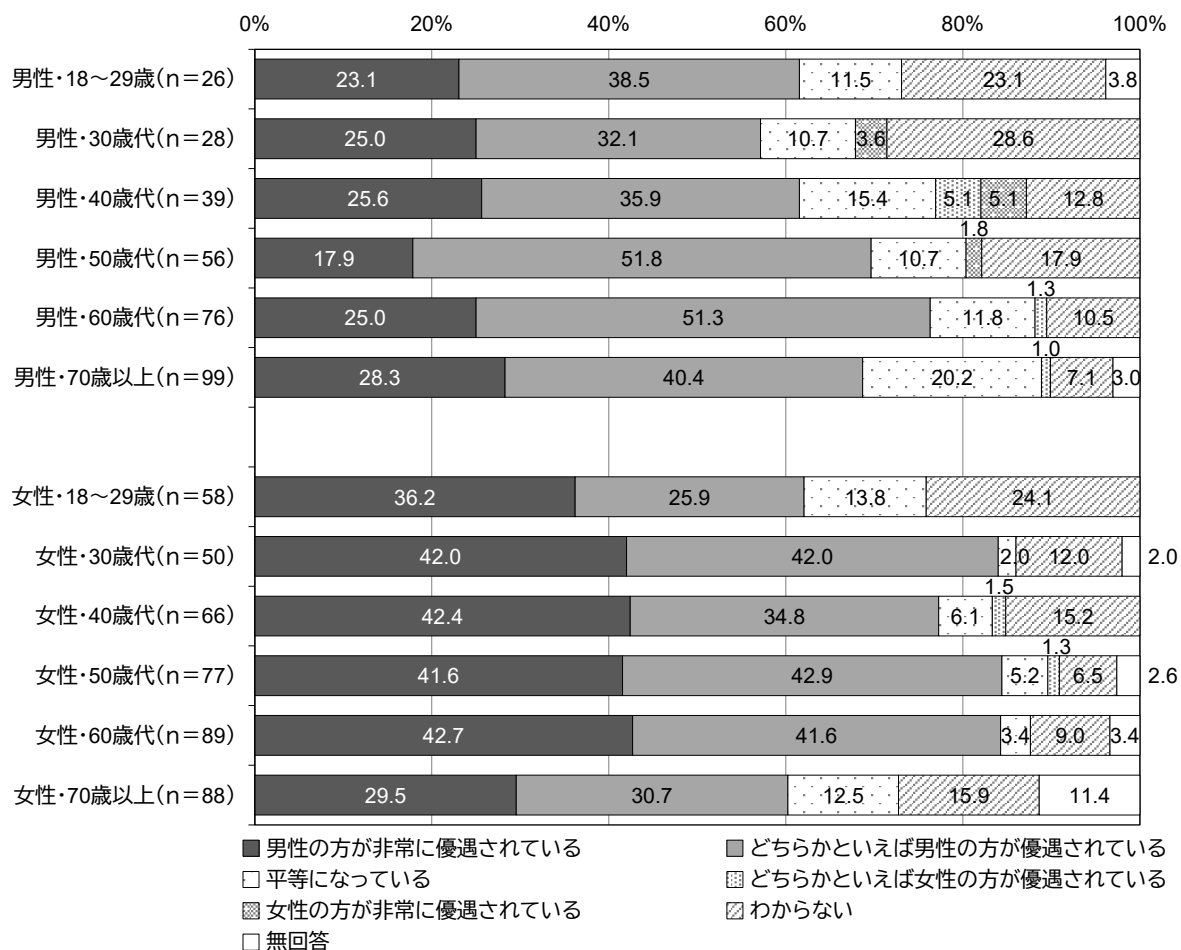


性別では、男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(43.3%)が4割以上で最も高く、女性は「男性の方が非常に優遇されている」(38.8%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(36.4%)が約4割で同程度に高くなっています。

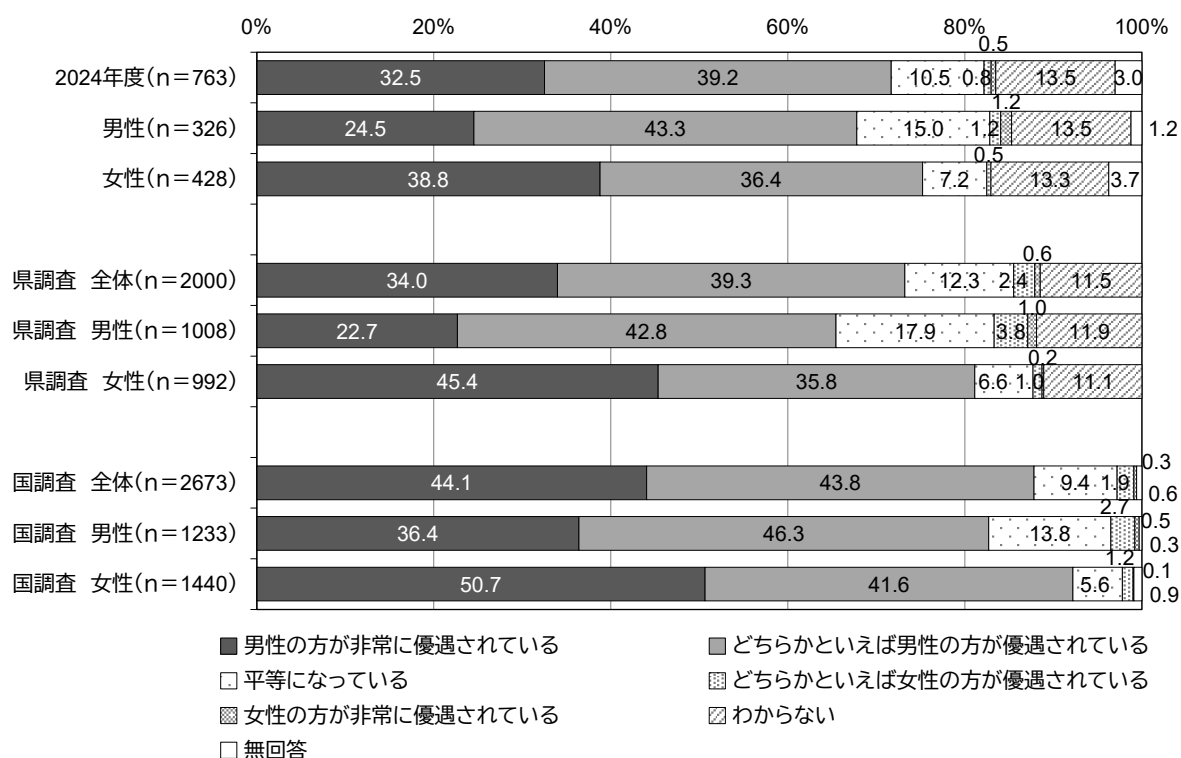
年代別では、18～29歳、40歳代を除き「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。18～29歳、40歳代は「男性の方が非常に優遇されている」(18～29歳31.8%、40歳代37.0%)が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性はいずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。女性は18～29歳、40歳代を除き「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が同程度に高く、18～29歳、40歳代は「男性の方が非常に優遇されている」（18～29歳36.2%、40歳代42.4%）が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』は、男女とも（男性 67.8%、女性 75.2%）、県調査（男性 65.5%、女性 81.2%）と同程度で、国調査（男性 82.7%、92.3%）より低くなっています。



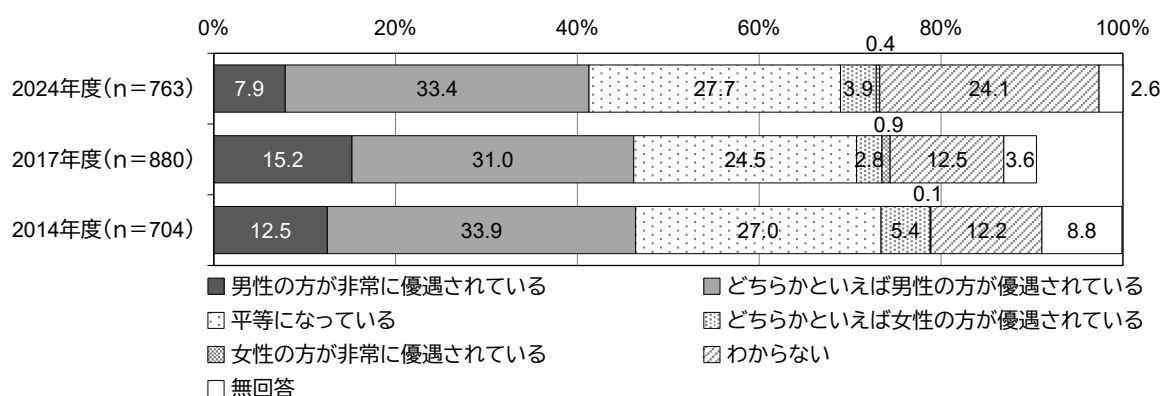
⑤地域活動の場（自治会やPTAなど）

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が3割以上で最も高く、合計値『男性優遇』は4割以上で過去2回の調査より若干低い

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（33.4%）が3割以上で最も高く、次いで「平等になっている」（27.7%）が約3割となっています。

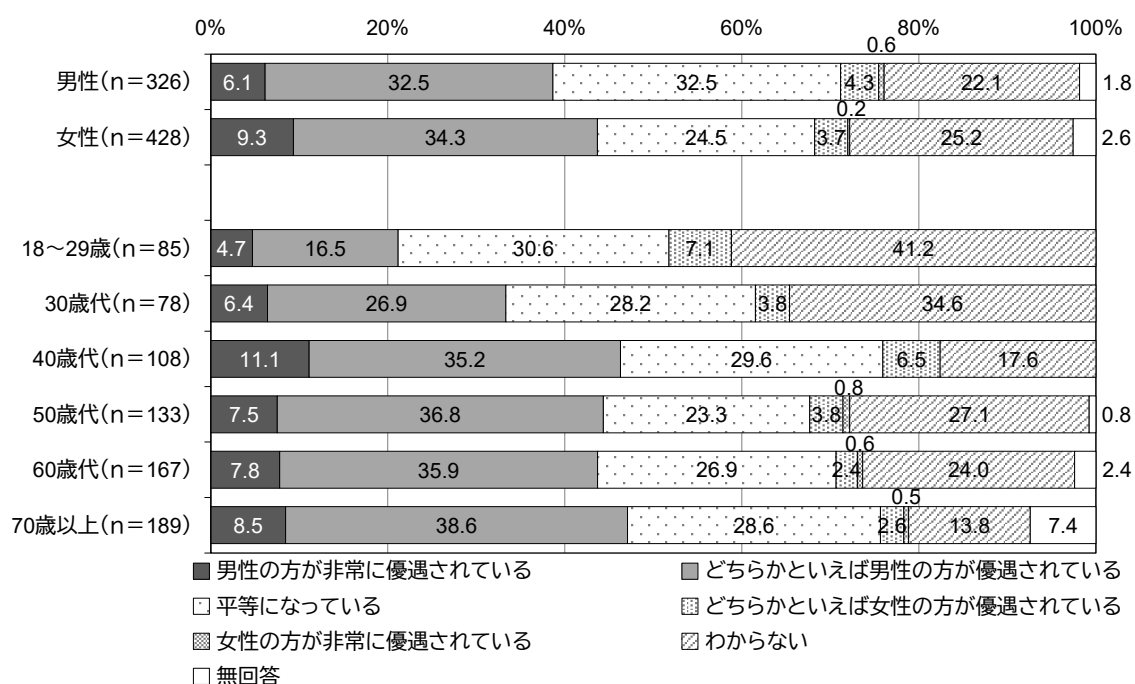
合計値『男性優遇』（41.3%）は4割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回（46.2%）や前々回（46.4%）より若干低くなっています。

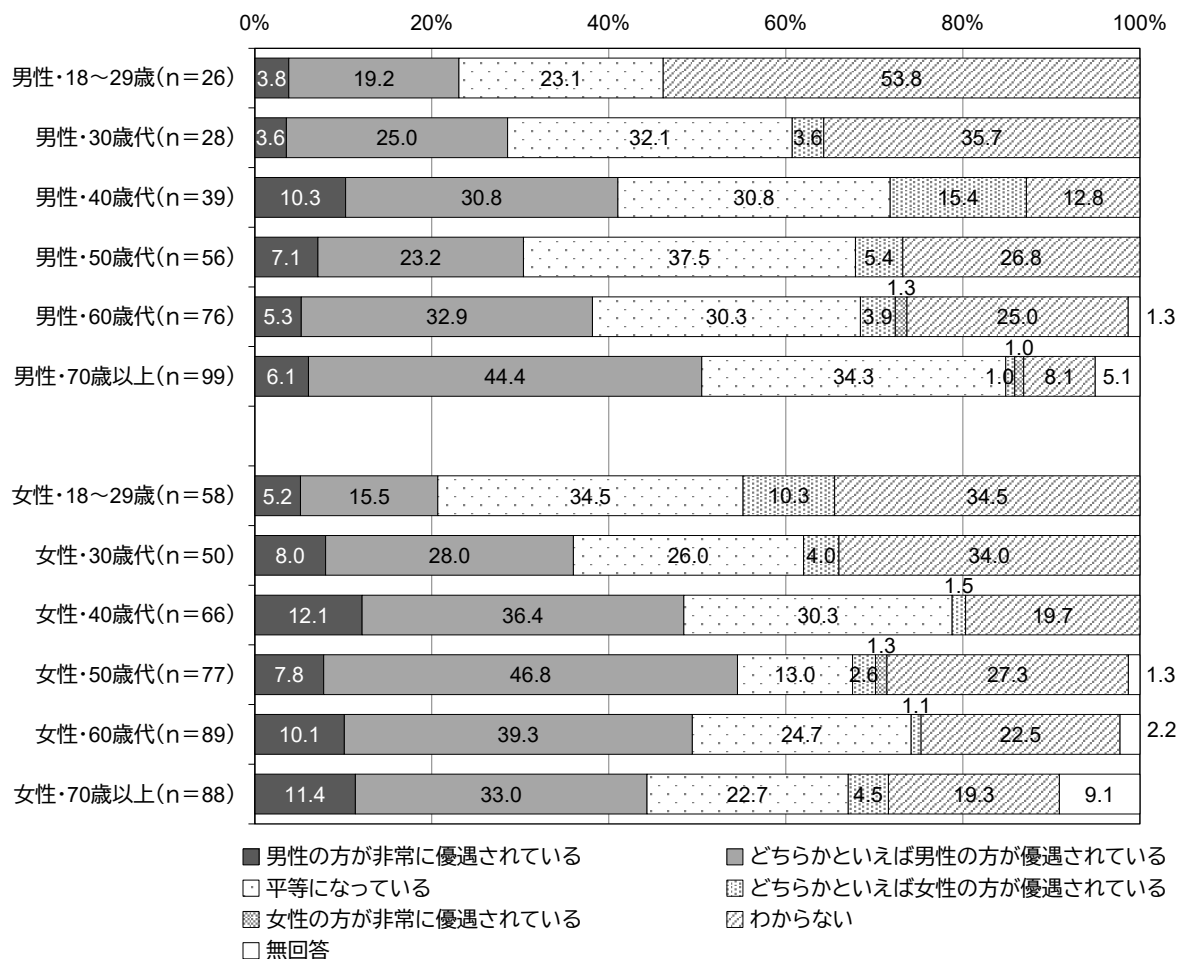


性別では、男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等になっている」が同値（32.5%）で3割以上、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（34.3%）が3割以上で最も高くなっています。次いで女性は「わからない」（25.2%）、「平等になっている」（24.5%）が2割以上で同程度に高くなっています。

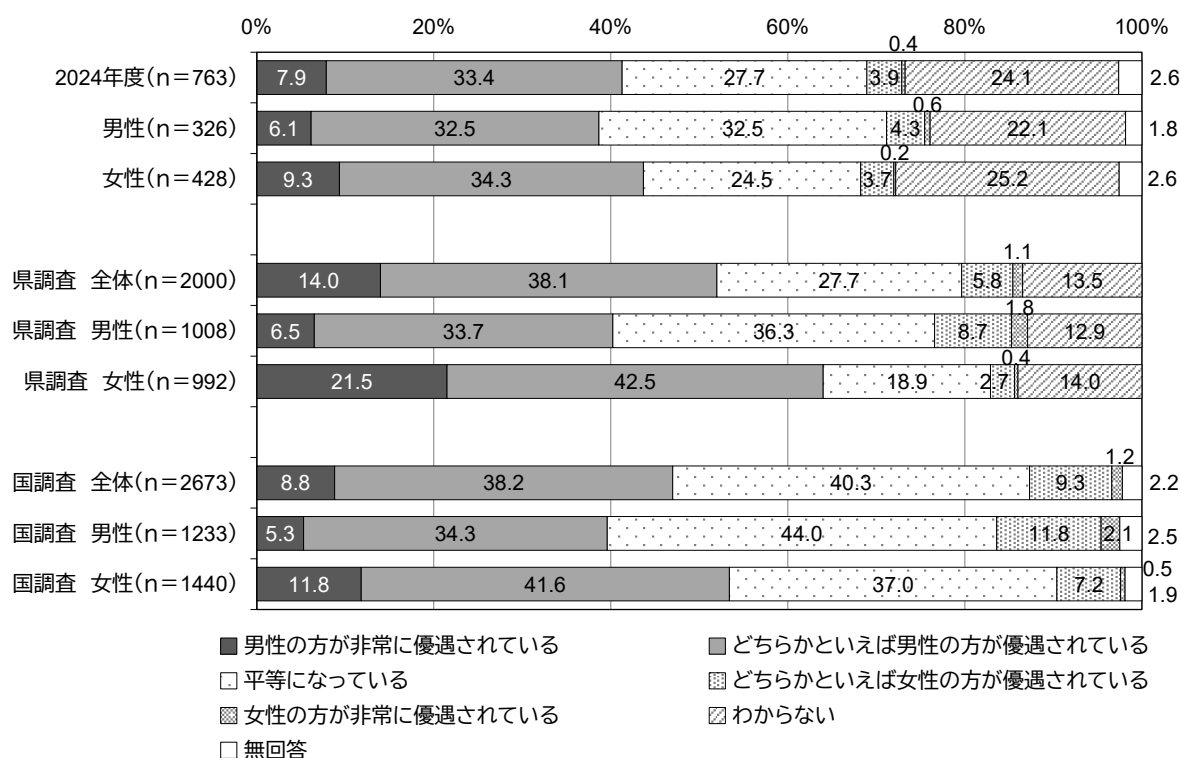
年代別では、30歳代以下は「わからない」（18～29歳 41.2%、30歳代 34.6%）、40歳以上は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男女とも 30 歳代以下は「わからない」（女性 18～29 歳は「平等になっている」と同値で 34.5%）、40 歳代以上は男性 50 歳代を除き「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（男性 40 歳代は「平等になっている」と同値で 30.8%）、男性 50 歳代は「平等になっている」（37.5%）が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』は、男性（38.6%）では県調査（40.2%）や国調査（39.6%）と同程度、女性（43.6%）では県調査（64.0%）や国調査（53.4%）より低くなっています。



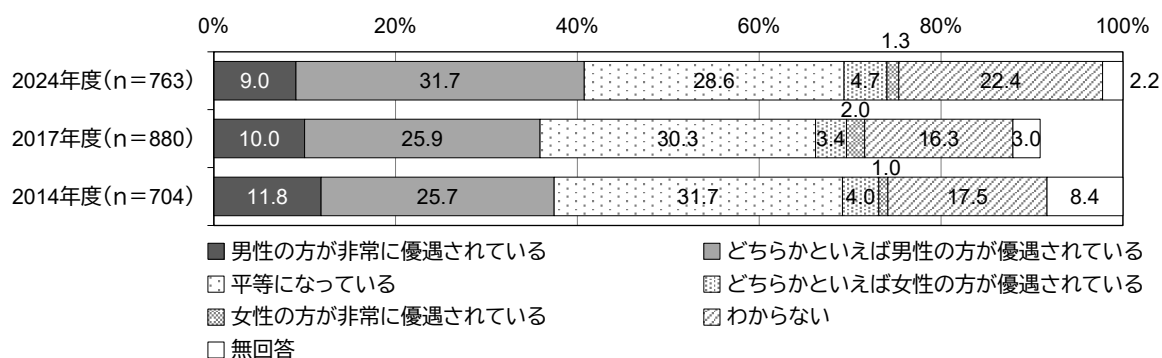
⑥法律や制度の上

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が3割以上で最も高く、合計値『男性優遇』は4割以上で過去2回の調査より若干高い

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.7%)が3割以上で最も高く、次いで「平等になっている」(28.6%)が約3割となっています。

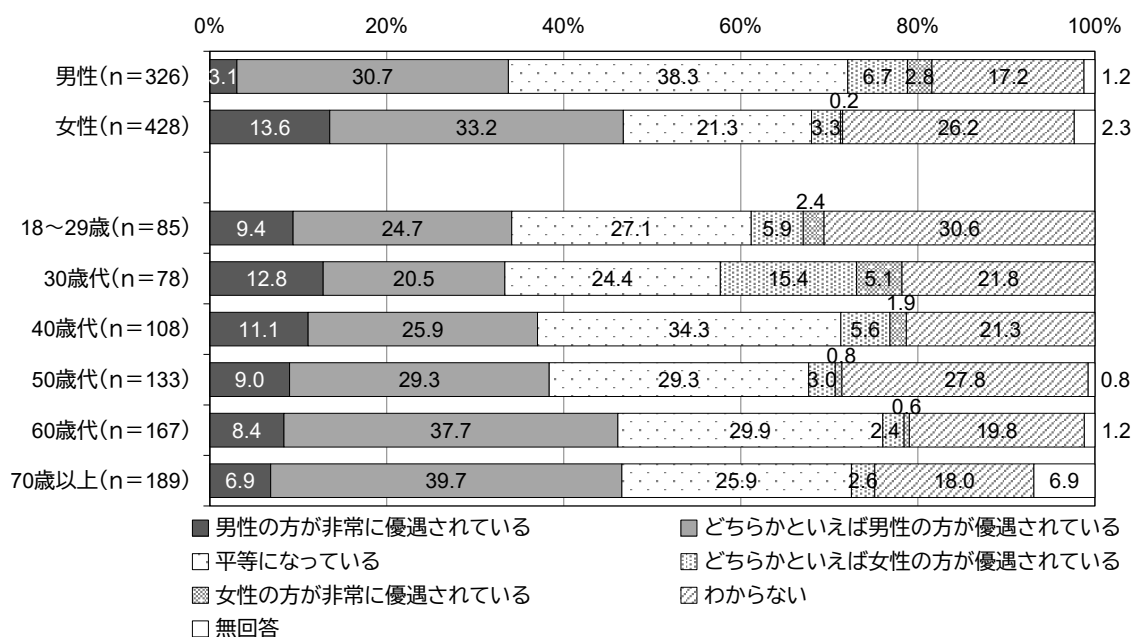
合計値『男性優遇』(40.7%)は4割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(35.9%)や前々回(37.5%)より若干高くなっています。

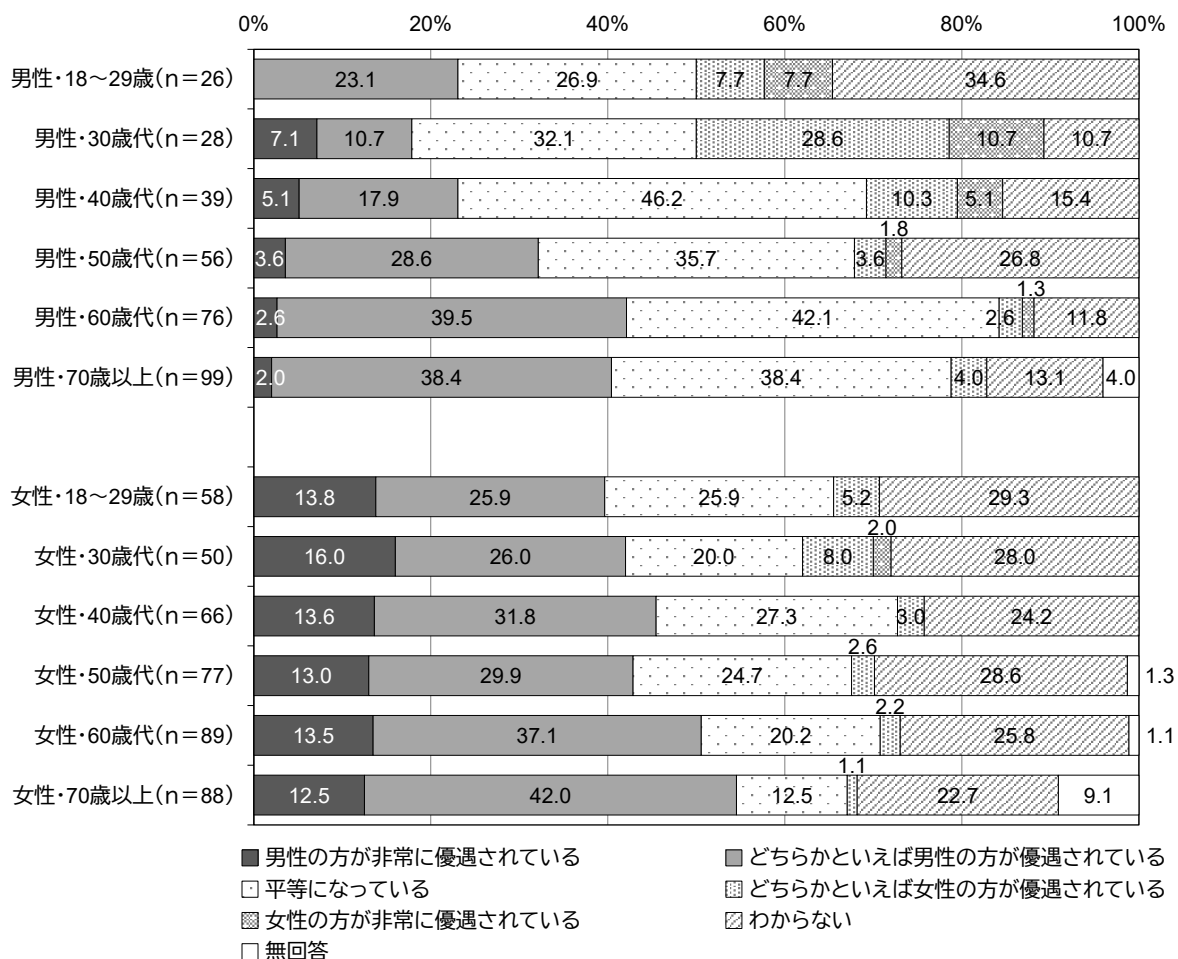


性別では、男性は「平等になっている」(38.3%)が約4割、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.2%)が3割以上で最も高く、次いで男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(30.7%)が3割以上、女性は「わからない」(26.2%)、「平等になっている」(21.3%)が2割以上となっています。

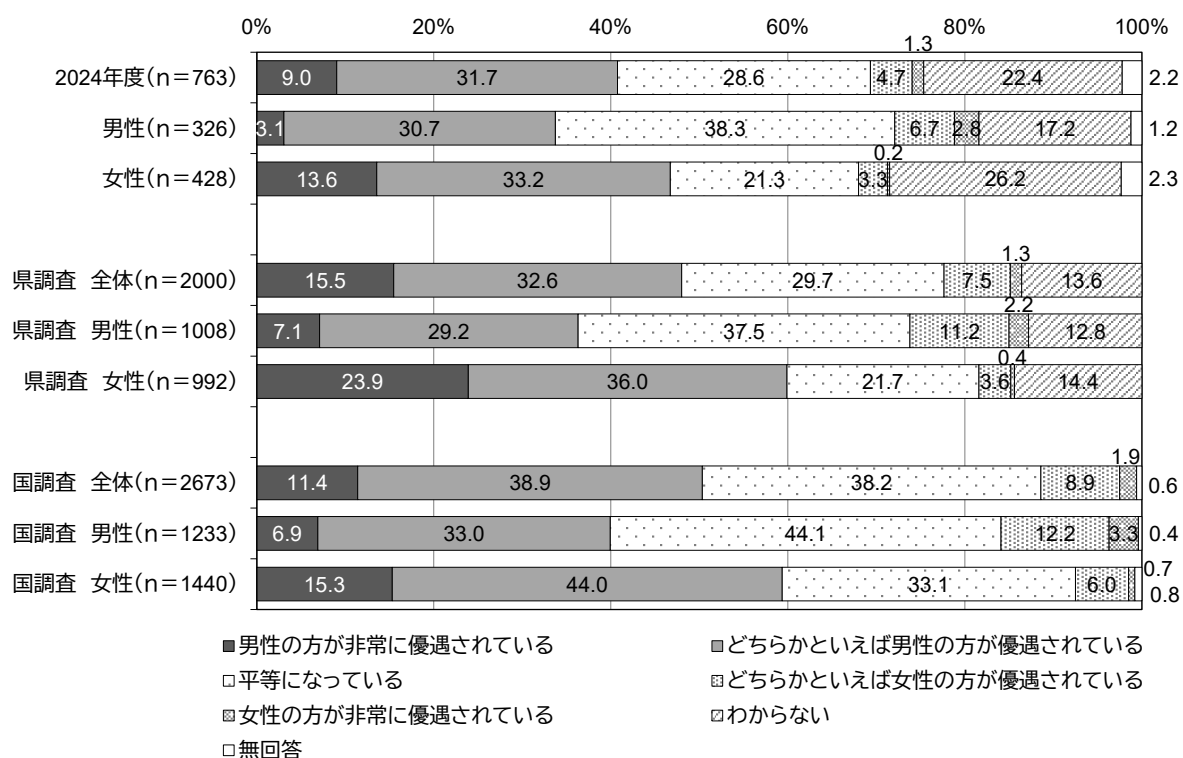
年代別では、18～29歳は「わからない」(30.6%)、30～50歳代は「平等になっている」(50歳代は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と同値で29.3%)、60歳代以上は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(60歳代37.7%、70歳以上39.7%)がそれぞれ最も高くなっています。



性別×年代別では、男性は18～29歳を除き「平等になっている」（70歳代は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と同値で38.4%）、18～29歳は「わからない」（34.6%）が最も高くなっています。女性は、30歳代以下では「わからない」（18～29歳29.3%、30歳代28.0%）、40歳代以上は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』は、男性（33.8%）では県調査（36.3%）や国調査（39.9%）より若干低く、女性（46.8%）では県調査（59.9%）や国調査（59.3%）より低くなっています。



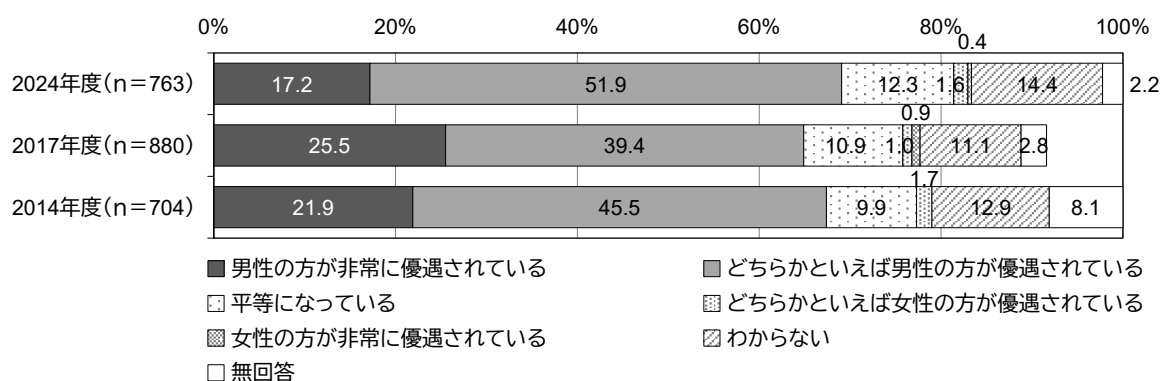
⑦社会通念・慣習・しきたりなど

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が5割以上で最も高く、合計値『男性優遇』は約7割で過去2回の調査と同程度

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(51.9%)が5割以上で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(17.2%)が約2割となっています。

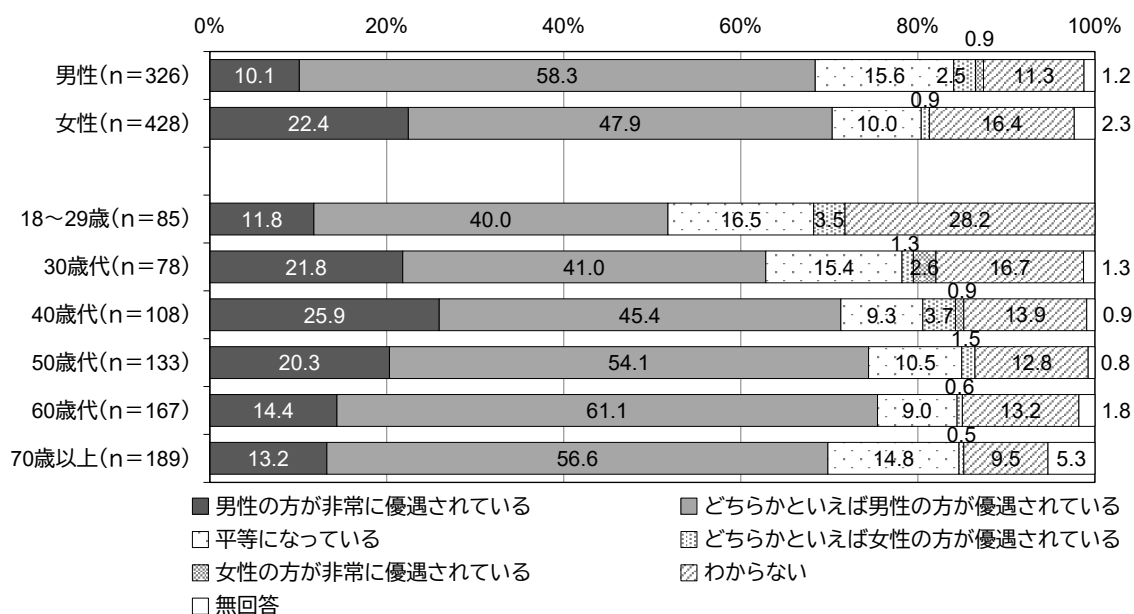
合計値『男性優遇』(69.1%)は約7割となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(64.9%)や前々回(67.4%)と同程度で大きな変化は見られません。

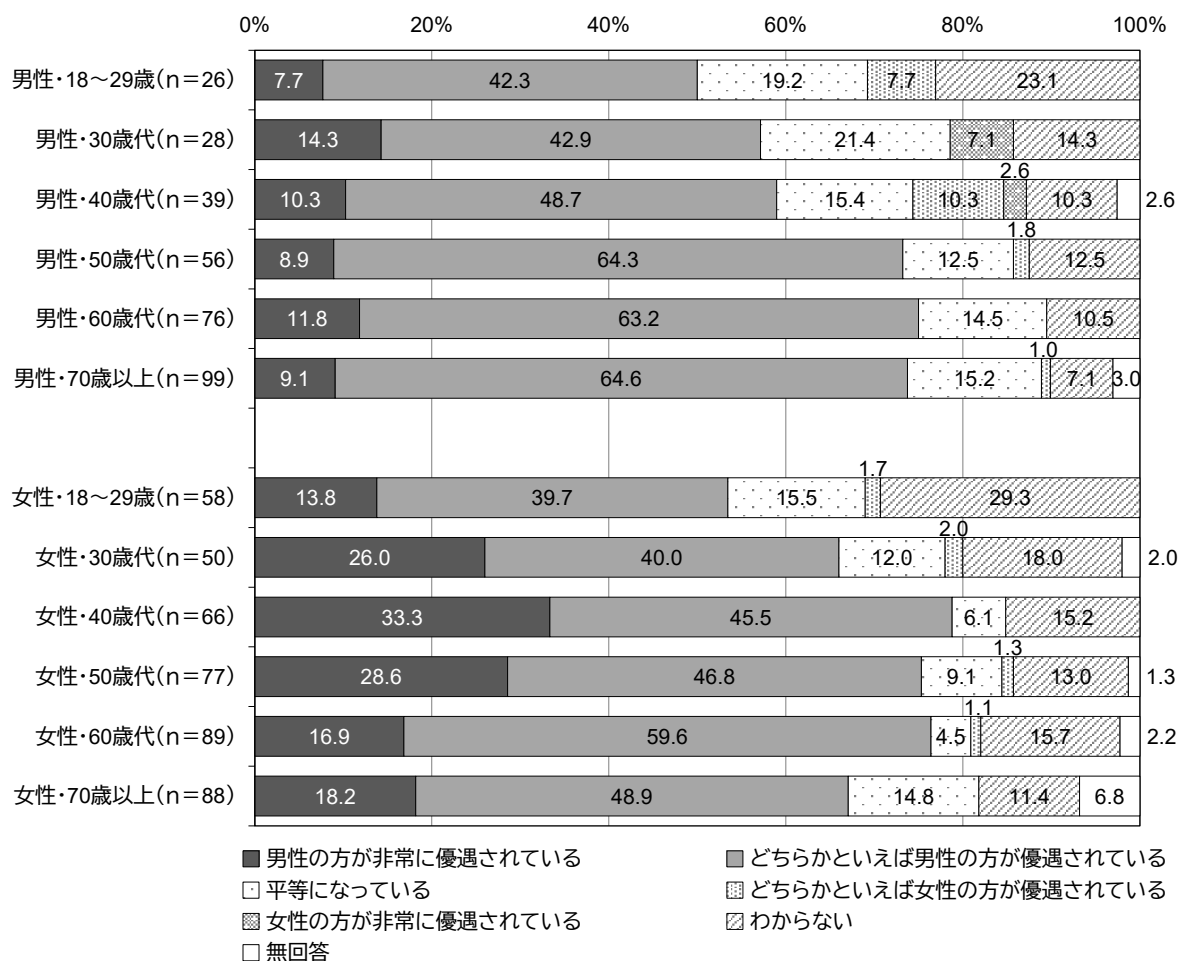


性別では、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、男性(58.3%)は約6割、女性(47.9%)は約5割となっています。次いで男性は「平等になっている」(15.6%)、「わからない」(11.3%)、「男性の方が非常に優遇されている」(10.1%)の3項目が1割以上、女性は「男性の方が非常に優遇されている」(22.4%)が2割以上となっています。

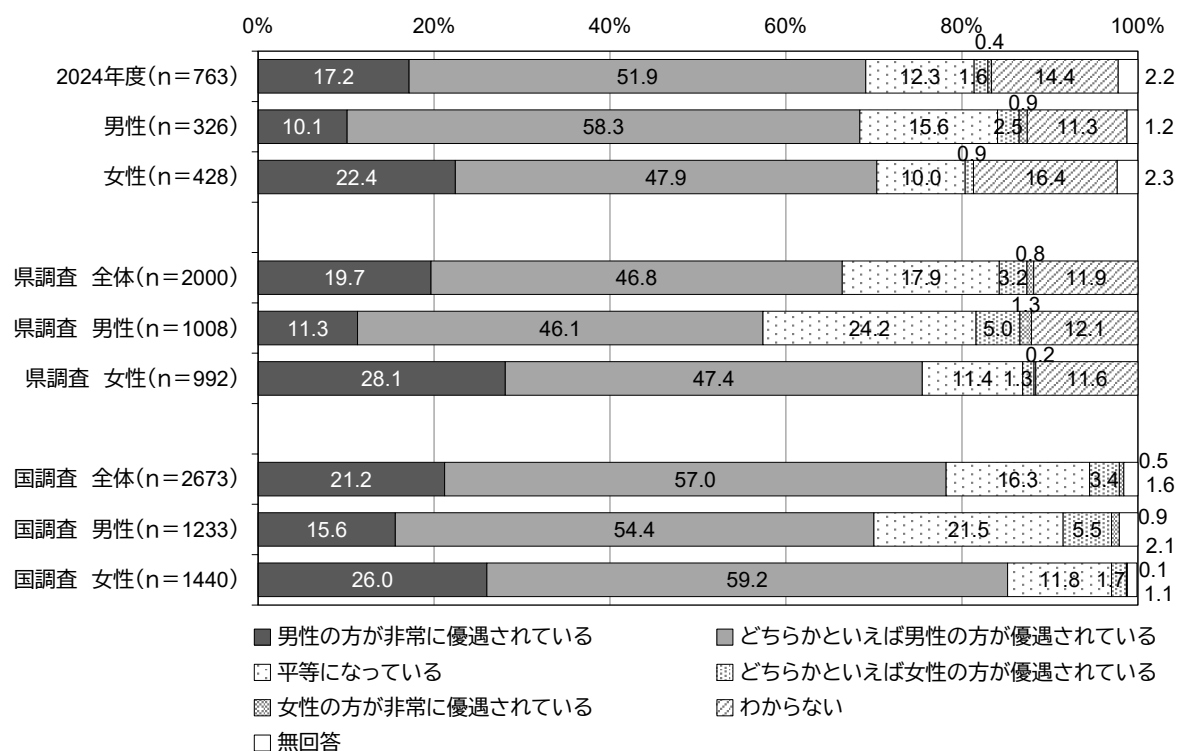
年代別では、いずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、次いで18~29歳、70歳以上を除き「男性の方が非常に優遇されている」、18~29歳は「わからない」(28.2%)、70歳以上は「平等になっている」(14.8%)が高くなっています。



性別×年代別では、男女ともいずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』は、男性（68.4%）では県調査（57.4%）より高く、国調査（70.0%）と同程度となっています。女性（70.3%）では県調査（75.5%）や国調査（85.2%）より低くなっています。



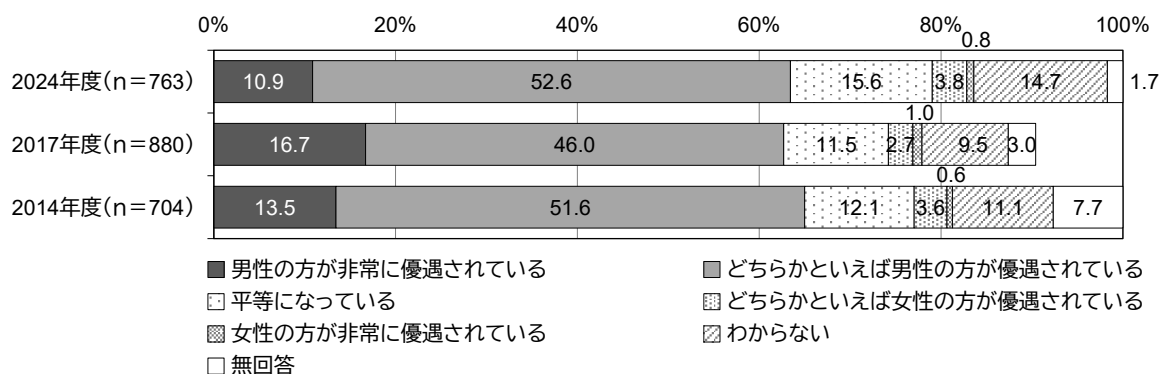
⑧社会全体

◆「どちらかといえば男性の方が優遇」が5割以上で最も高く、合計値『男性優遇』は6割以上で過去2回の調査と同程度

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(52.6%)が5割以上で最も高く、次いで「平等になっている」(15.6%)、「わからない」(14.7%)、「男性の方が非常に優遇されている」(10.9%)の3項目が1割以上となっています。

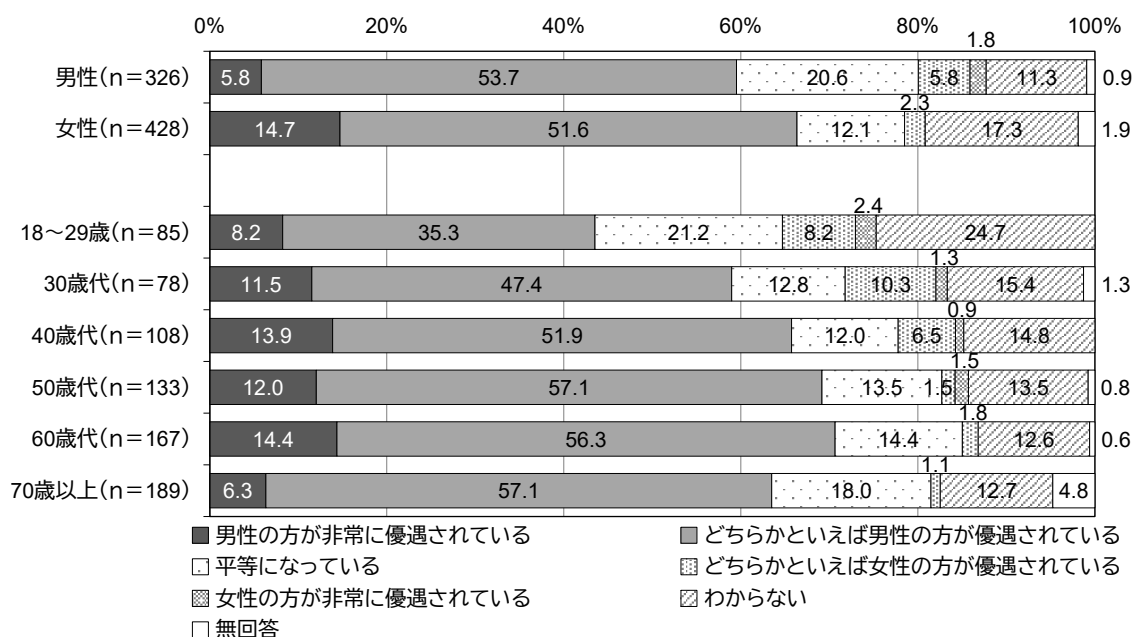
合計値『男性優遇』(63.5%)は6割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、『男性優遇』は前回(62.7%)や前々回(65.1%)と同程度で大きな変化は見られません。

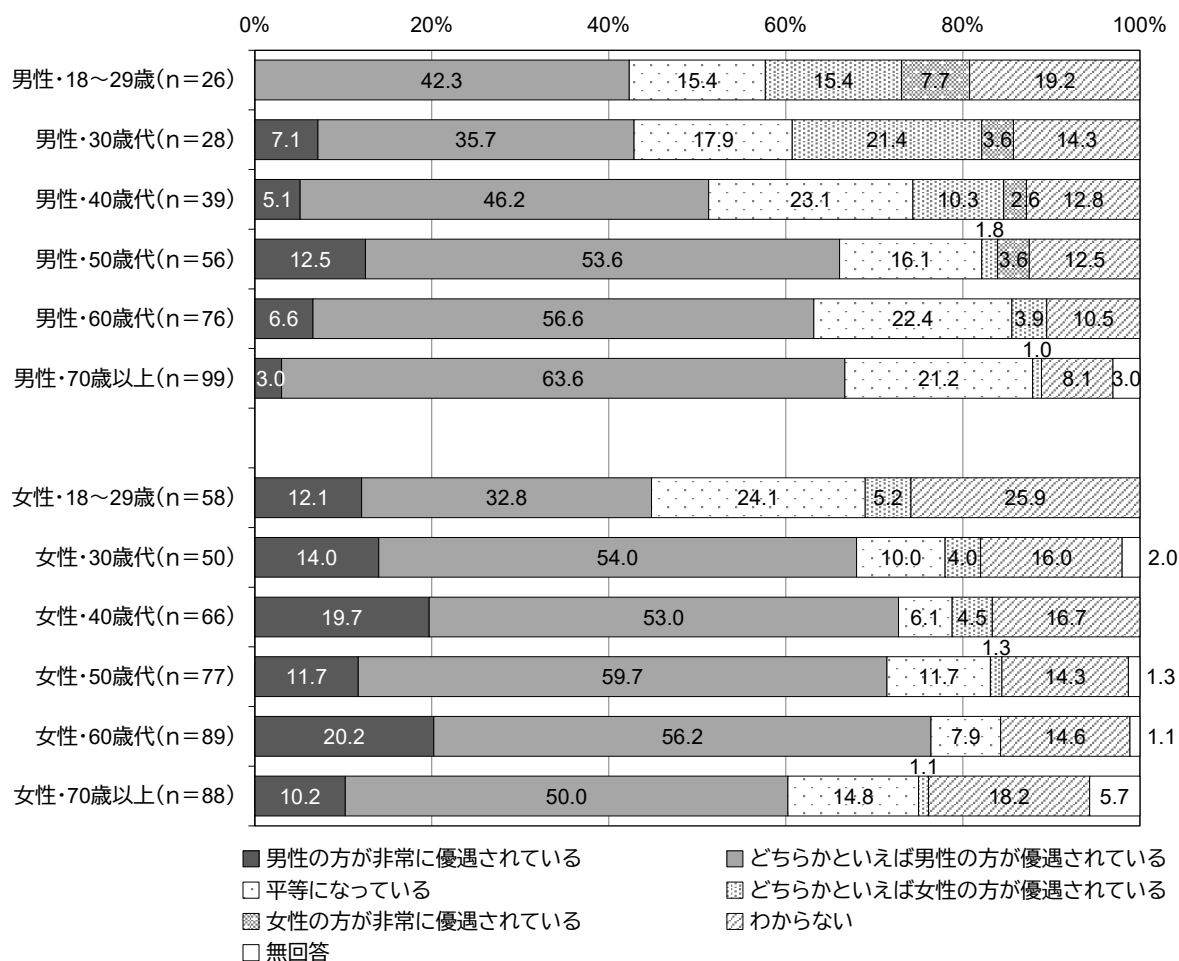


性別では、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(男性 53.7%、女性 51.6%)が5割以上で最も高く、次いで男性は「平等になっている」(20.6%)が2割以上、女性は「わからない」(17.3%)が約2割となっています。

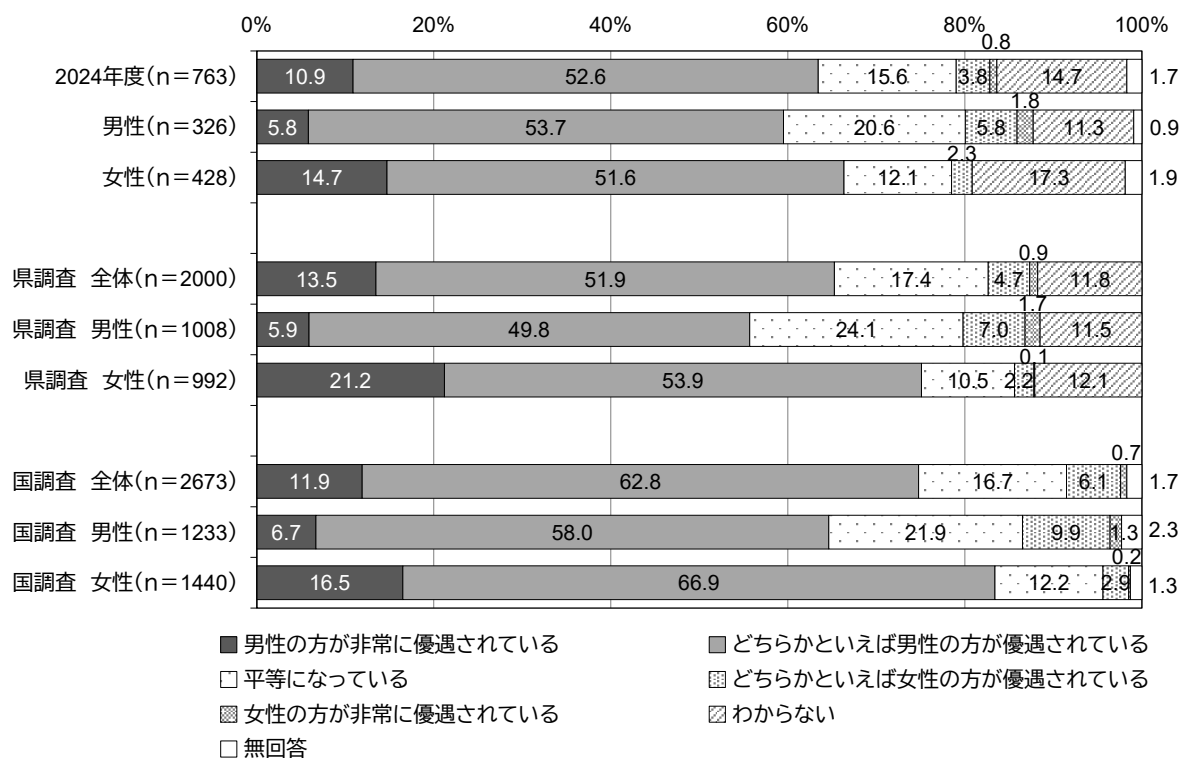
年代別では、いずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、次いで40歳代以下は「わからない」、50歳代以上は「平等になっている」(50歳代は「わからない」と同値で13.5%、60歳代は「男性の方が非常に優遇されている」と同値で14.4%)が高くなっています。



性別×年代別では、男女ともいずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



県や国の調査と比較すると、『男性優遇』は、男性（59.5%）では県調査（55.7%）より若干高く、国調査（64.7%）より若干低くなっています。女性（66.3%）では県調査（75.1%）や国調査（83.4%）より低くなっています。

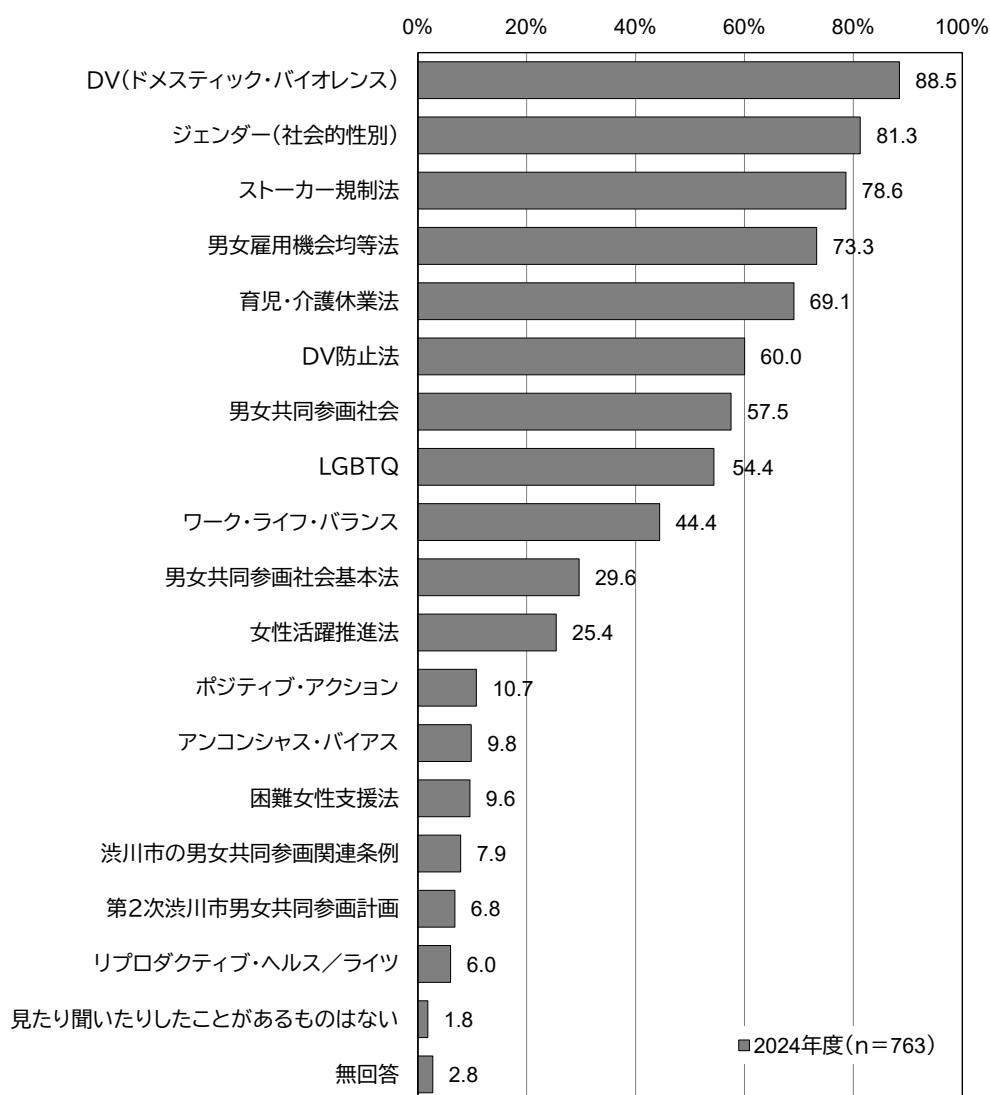


2 男女共同参画に関する制度等の認知度

問2 あなたは、次の言葉や制度のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

◆「DV」が約9割で最も高く、次いで「ジェンダー」「ストーカー規制法」が約8割

全体では、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」（以下「DV」、88.5%）が約9割で最も高く、次いで「ジェンダー（社会的性別）」（以下「ジェンダー」、81.3%）、「ストーカー規制法」（78.6%）が約8割となっています。



* 上図において以下の選択肢を省略して表示

ワーク・ライフ・バランス：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

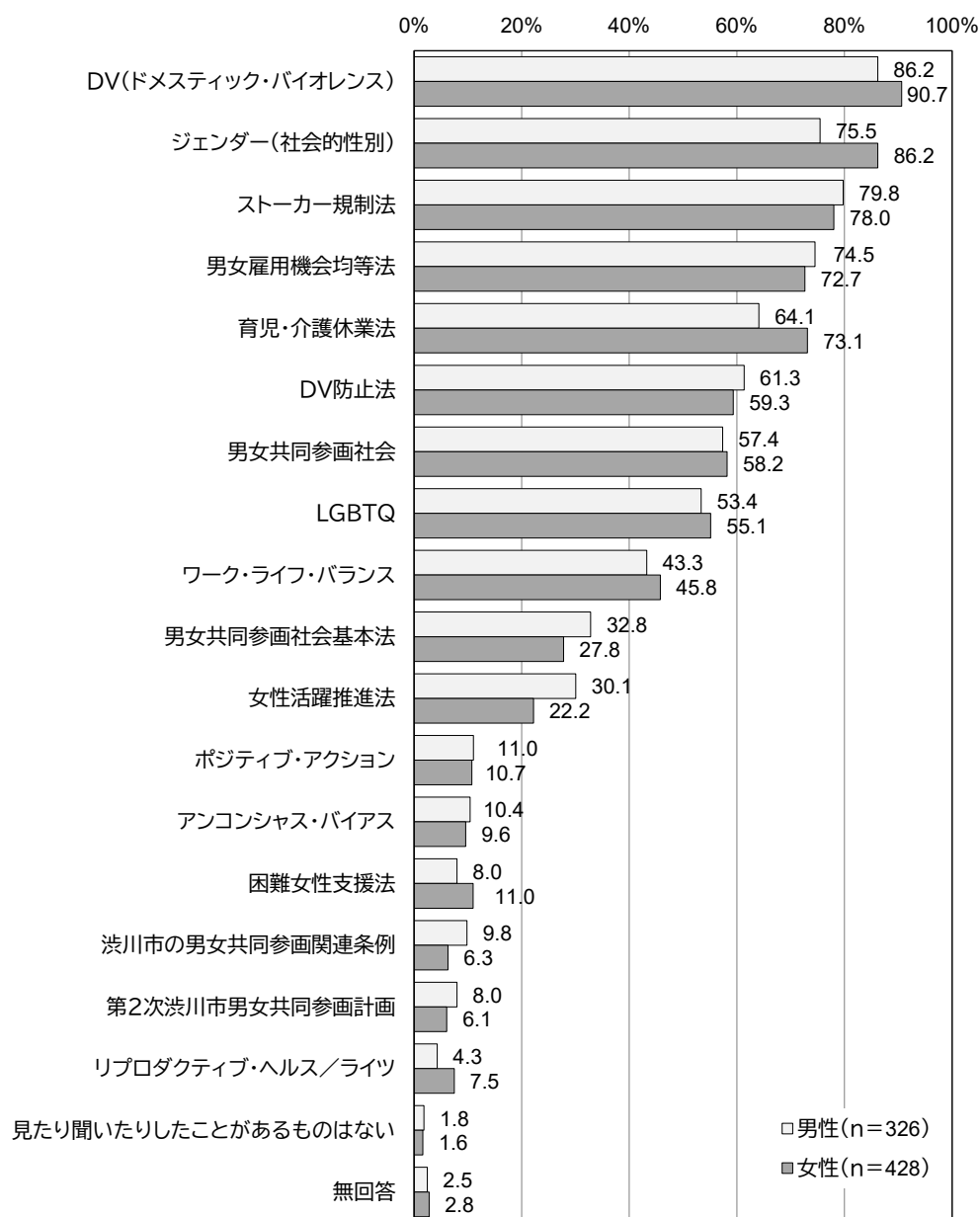
ポジティブ・アクション：ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

アンコンシャス・バイアス：アンコンシャス・バイアス（性別等による無意識の思い込み）

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）

渋川市の男女共同参画関連条例：渋川市男女共同参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例

性別では、男女とも「DV」が最も高く、男性（86.2%）は8割以上、女性（90.7%）は9割以上となっています。次いで男性は「ストーカー規制法」（79.8%）が約8割、女性は「ジェンダー」（86.2%）が8割以上となっています。



*上図及び以降の図表において以下の選択肢を省略して表示

ワーク・ライフ・バランス：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

ポジティブ・アクション：ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

アンコンシャス・バイアス：アンコンシャス・バイアス（性別等による無意識の思い込み）

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）

渋川市の男女共同参画関連条例：渋川市男女共同参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例

年代別では、いずれの年代も「DV」が最も高く、30歳代以下は「ジェンダー」（18～29歳 92.9%、30歳代 91.0%）も9割以上で同程度に高くなっています。

	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	85	78	108	133	167	189
DV(ドメスティック・バイオレンス)	95.3	93.6	96.3	94.0	90.4	73.5
ジェンダー(社会的性別)	92.9	91.0	88.0	90.2	83.8	60.3
ストーカー規制法	54.1	75.6	88.0	87.2	89.2	71.4
男女雇用機会均等法	81.2	75.6	73.1	75.9	74.9	66.1
育児・介護休業法	63.5	88.5	71.3	69.9	73.7	58.2
DV防止法	52.9	60.3	62.0	64.7	64.1	56.1
男女共同参画社会	69.4	70.5	47.2	54.9	55.7	56.1
LGBTQ	82.4	73.1	66.7	65.4	46.7	26.5
ワーク・ライフ・バランス	76.5	59.0	49.1	49.6	39.5	22.2
男女共同参画社会基本法	61.2	50.0	21.3	25.6	22.8	20.6
女性活躍推進法	25.9	37.2	28.7	31.6	23.4	16.4
ポジティブ・アクション	11.8	11.5	5.6	9.0	13.8	11.6
アンコンシャス・バイアス	14.1	16.7	12.0	9.8	10.2	3.7
困難女性支援法	1.2	10.3	9.3	9.8	14.4	9.0
渋川市の男女共同参画関連条例	2.4	7.7	9.3	5.3	9.0	10.6
第2次渋川市男女共同参画計画	1.2	2.6	2.8	2.3	10.2	13.8
リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	10.6	9.0	3.7	3.0	9.0	3.7
見たり聞いたりしたことがあるものはない	3.5	1.3	0.0	1.5	1.8	2.6
無回答	0.0	1.3	0.9	0.8	0.6	8.5

*各年代で最も高い値を網掛け表示

性別×年代別では、男性は60歳代、70歳以上を除き「DV」、60歳代、70歳代は「ストーカー規制法」（60歳代 90.8%、70歳以上 75.8%）が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「DV」（女性 18～29歳は「ジェンダー」と同値で 96.6%）が最も高くなっています。

	男性						女性					
	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	26	28	39	56	76	99	58	50	66	77	89	88
DV(ドメスティック・バイオレンス)	96.2	96.4	92.3	92.9	88.2	72.7	96.6	92.0	98.5	94.8	93.3	73.9
ジェンダー(社会的性別)	88.5	92.9	82.1	89.3	80.3	53.5	96.6	90.0	92.4	90.9	87.6	67.0
ストーカー規制法	65.4	67.9	82.1	85.7	90.8	75.8	50.0	80.0	90.9	88.3	88.8	65.9
男女雇用機会均等法	80.8	78.6	66.7	73.2	81.6	70.7	82.8	74.0	77.3	77.9	69.7	60.2
育児・介護休業法	50.0	89.3	64.1	64.3	76.3	51.5	70.7	88.0	75.8	74.0	71.9	64.8
DV防止法	42.3	57.1	56.4	66.1	71.1	60.6	58.6	62.0	63.6	63.6	59.6	51.1
男女共同参画社会	57.7	64.3	48.7	51.8	56.6	61.6	75.9	74.0	45.5	57.1	55.1	51.1
LGBTQ	80.8	75.0	66.7	60.7	57.9	27.3	84.5	72.0	66.7	68.8	37.1	23.9
ワーク・ライフ・バランス	69.2	71.4	51.3	44.6	44.7	23.2	81.0	52.0	48.5	53.2	34.8	21.6
男女共同参画社会基本法	65.4	53.6	25.6	33.9	28.9	23.2	60.3	48.0	19.7	19.5	18.0	18.2
女性活躍推進法	26.9	39.3	28.2	42.9	30.3	22.2	25.9	36.0	30.3	23.4	16.9	10.2
ポジティブ・アクション	11.5	14.3	7.7	8.9	15.8	9.1	12.1	10.0	4.5	9.1	12.4	14.8
アンコンシャス・バイアス	15.4	14.3	12.8	7.1	17.1	4.0	13.8	18.0	12.1	11.7	4.5	3.4
困難女性支援法	3.8	14.3	5.1	12.5	6.6	7.1	0.0	8.0	12.1	7.8	21.3	11.4
渋川市の男女共同参画関連条例	7.7	10.7	7.7	5.4	11.8	12.1	0.0	6.0	10.6	5.2	5.6	9.1
第2次渋川市男女共同参画計画	3.8	3.6	2.6	3.6	11.8	12.1	0.0	2.0	3.0	1.3	9.0	15.9
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	7.7	7.1	2.6	1.8	6.6	3.0	12.1	10.0	4.5	3.9	11.2	4.5
見たり聞いたりしたことがあるものはない	3.8	0.0	0.0	1.8	0.0	4.0	1.7	2.0	0.0	1.3	3.4	1.1
無回答	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	7.1	0.0	2.0	0.0	1.3	1.1	10.2

*各年代で最も高い値を網掛け表示

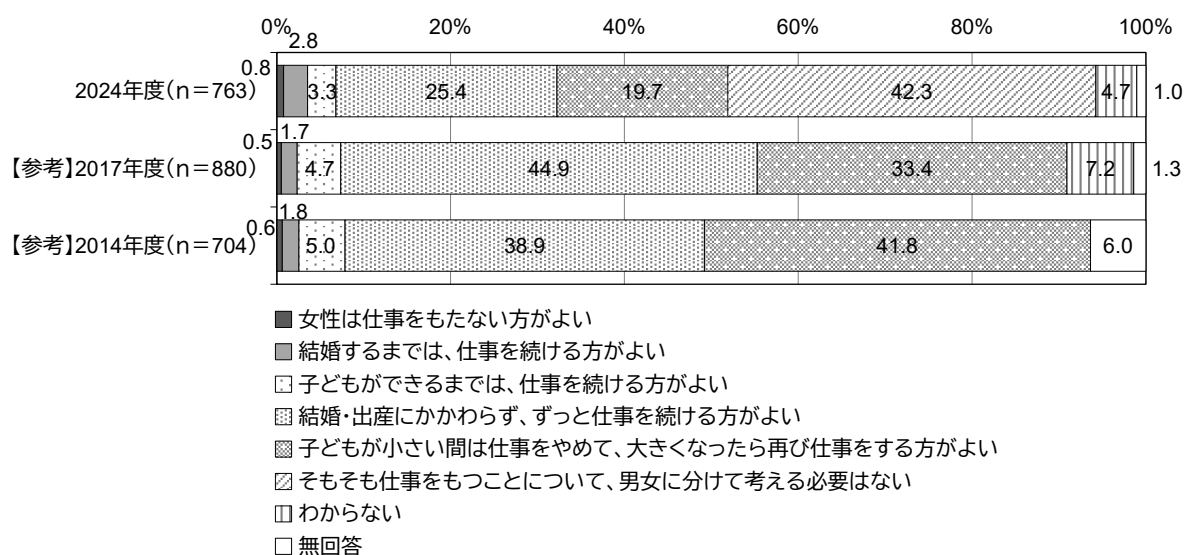
3 進路や仕事と性別について

問3 一般的に女性が仕事をもつことについて、どう思いますか。(1つに○)

◆「男女に分けて考える必要はない」が4割以上で最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず続ける方がよい」が2割以上

全体では、「そもそも仕事をもつことについて、男女に分けて考える必要はない」(42.3%)が4割以上で最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」(25.4%)が2割以上となっています。

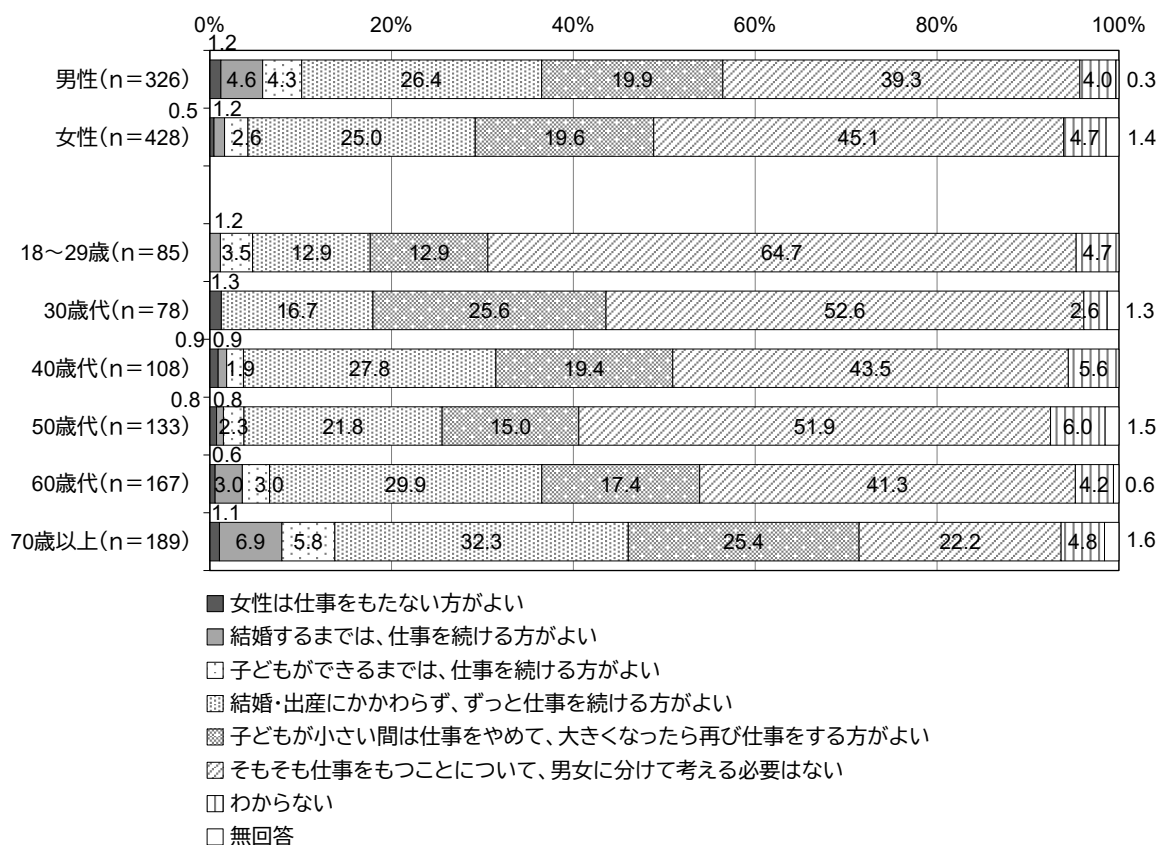
過去2回の調査とは選択肢が異なるため、参考に表示します。



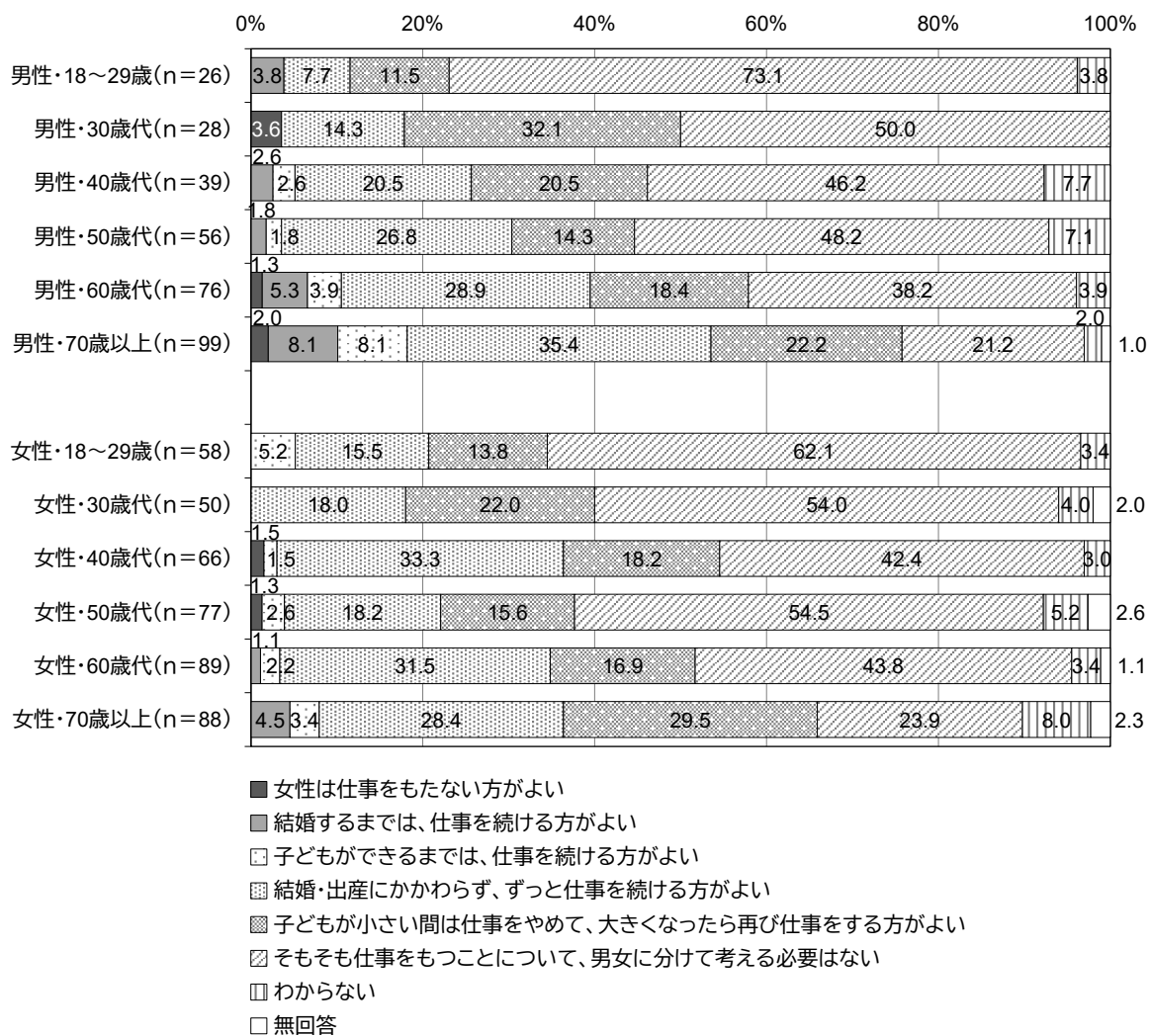
* 前回調査は「女性は職業をもたない方がよい」「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」「子どもができて、職業を続ける方がよい」「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」「その他」「わからない」の7選択肢で設定

性別では、男女とも「そもそも仕事をもつことについて、男女に分けて考える必要はない」が最も高く、男性（39.3％）は約4割、女性は（45.1％）4割以上となっています。次いで男女とも「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」（男性 26.4％、女性 25.0％）が2割以上となっており、性別による大きな差は見られません。

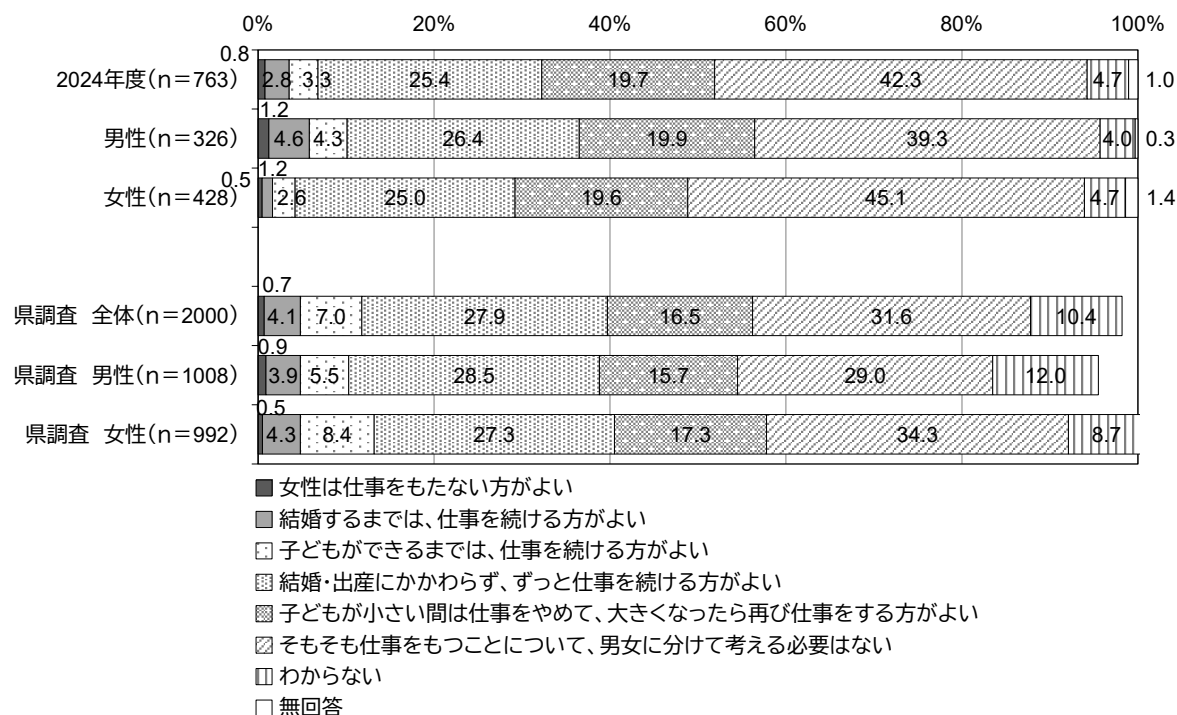
年代別では、70歳以上を除き「そもそも仕事をもつことについて、男女に分けて考える必要はない」が最も高く、70歳以上は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」（32.3％）が3割以上で最も高くなっています。



性別×年代別では、男女とも 70 歳以上を除き「そもそも仕事をもつことについて、男女に分けて考える必要はない」が最も高く、男性 70 歳以上は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」(35.4%) が 3 割以上、女性 70 歳以上は「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」(29.5%)、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」(28.4%) が約 3 割で同程度に高くなっています。



県調査と比較すると、選択肢の表現が異なることを考慮する必要がありますが、概ね同様の傾向となっています。



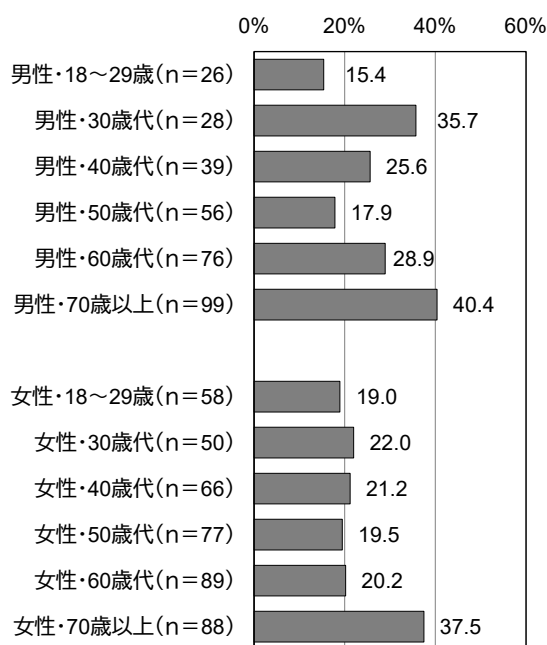
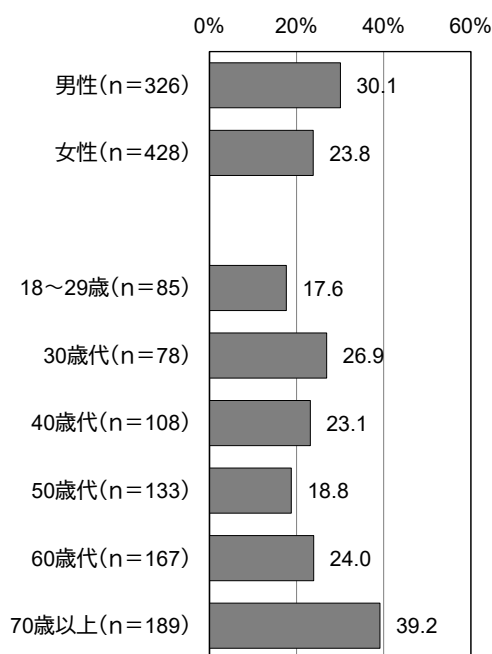
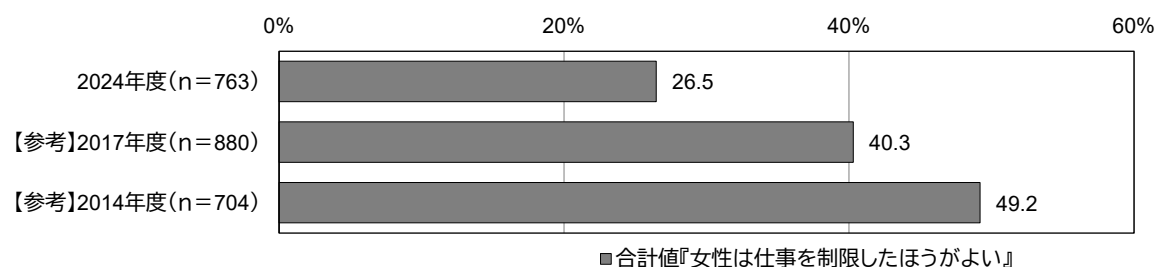
*県調査は、問文を『女性の働き方』について、あなたはどのように思いますか、「結婚するまでは仕事を続けるほうがよい」「子どもができるまでは、仕事を続けるほうがよい」「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」「女性は仕事に就かないほうがよい」「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」「その他」「わからない」の8選択肢で設定

女性が仕事をもつことへの、結婚や出産などのライフステージの変化を含めた「制限」について、「女性は仕事をもたない方がよい」「結婚するまでは、仕事を続ける方がよい」「子どもができるまでは、仕事を続ける方がよい」「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」の4項目の合計値『女性は仕事を制限した方がよい』で見ると、本調査（26.5%）は約3割で、参考に表示した前回（40.3%）、前々回（49.2%）より低くなる傾向が見られます。

性別では、男性（30.1%）が3割以上、女性（23.8%）が2割以上で、男性の方が高くなっています。

年代別では、70歳以上（39.2%）が約4割で最も高く、18～29歳（17.6%）、50歳代（18.8%）が2割未満で低くなっています。

性別×年代別では、男女とも70歳以上（男性40.4%、女性37.5%）が約4割で最も高く、女性は60歳代以下では年代による大きな違いは見られませんが、男性は年代によるばらつきが見られ、男性30歳代（35.7%）も3割以上で高くなっています。



■ 合計値『女性は仕事を制限したほうがよい』

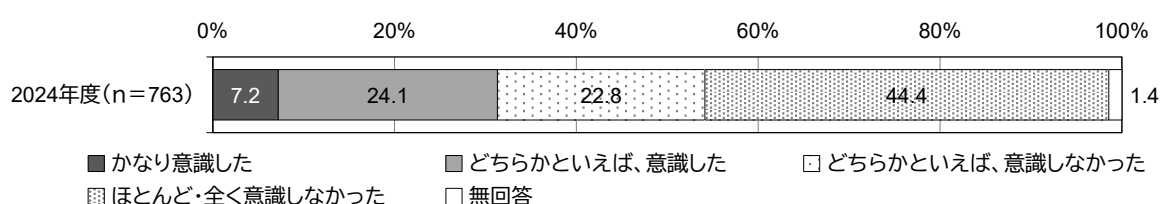
■ 合計値『女性は仕事を制限したほうがよい』

問4 あなたは、進路や職業を選択する際に自分の性別を意識したことがありますか。
(1つに○)

◆「ほとんど・全く意識しなかった」が4割以上で最も高く、合計値『意識しなかった』は約7割、合計値『意識した』は3割以上

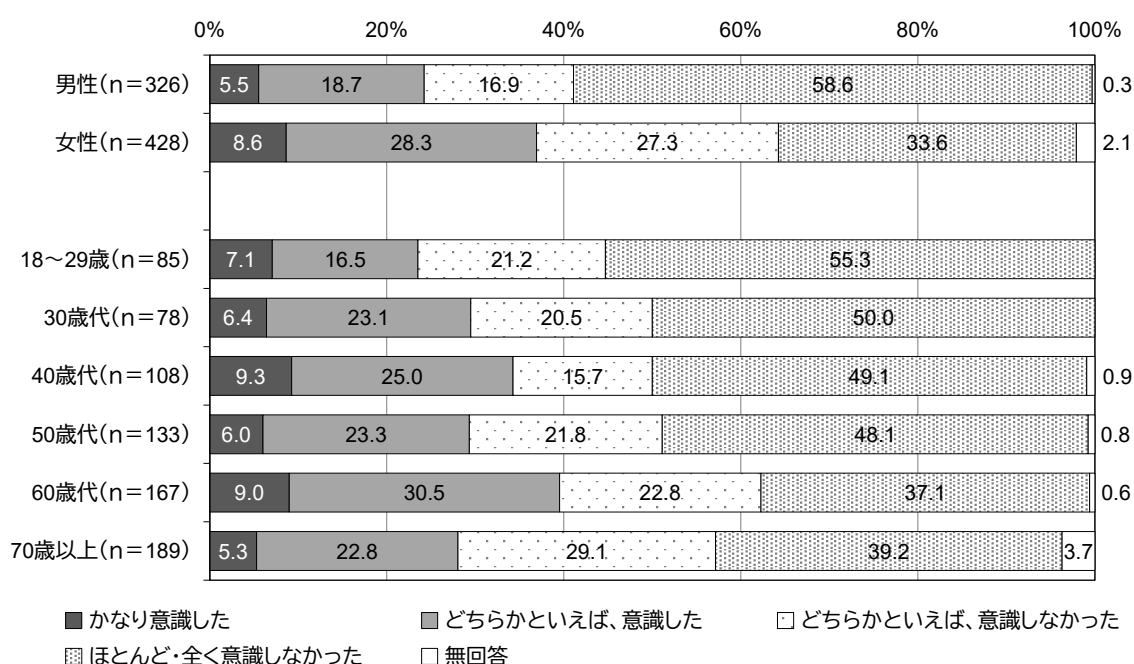
全体では、「ほとんど・全く意識しなかった」(44.4%)が4割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば、意識した」(24.1%)、「どちらかといえば、意識しなかった」(22.8%)が2割以上となっています。

「かなり意識した」(7.2%)、「どちらかといえば、意識した」の合計値『意識した』(31.3%)は3割以上、「どちらかといえば、意識しなかった」「ほとんど・全く意識しなかった」の合計値『意識しなかった』(67.2%)は約7割となっています。

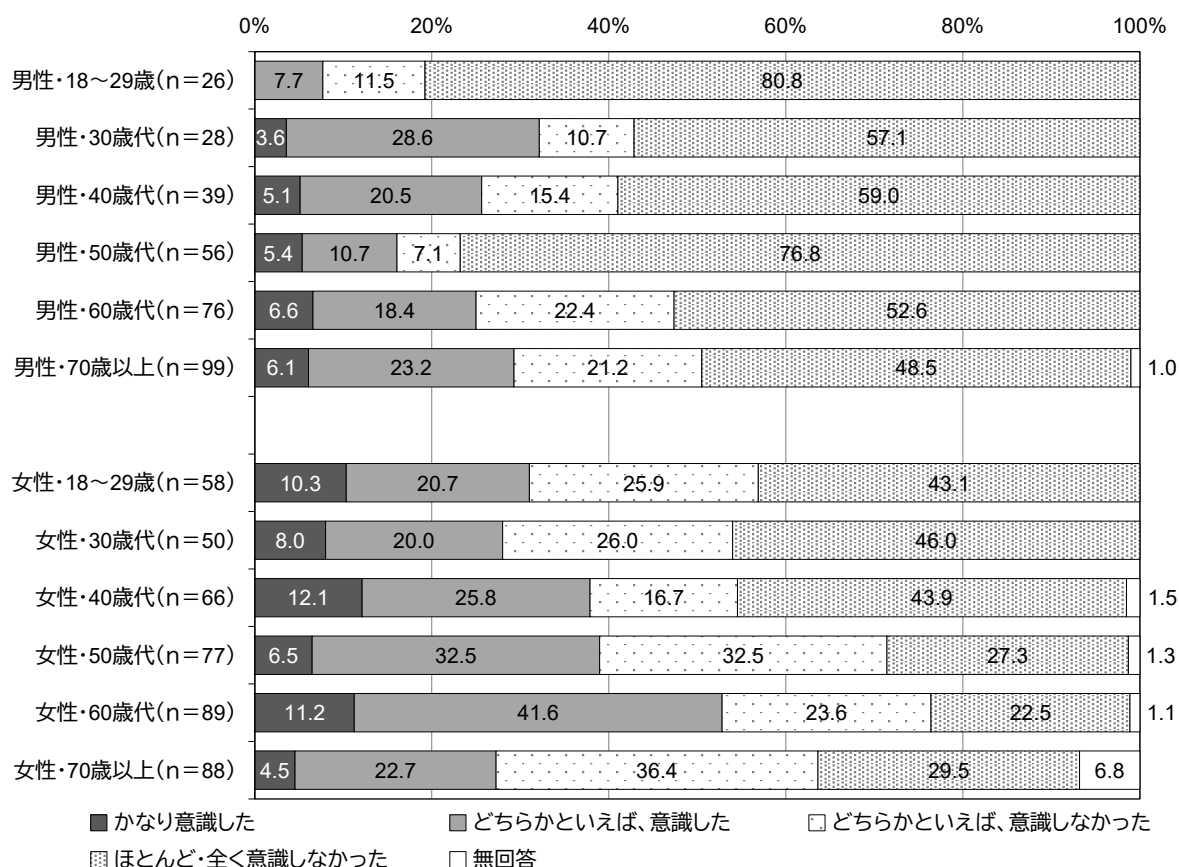


性別では、男女とも「ほとんど・全く意識しなかった」が最も高く、男性(58.6%)は約6割、女性(33.6%)は3割以上で差が大きくなっています。次いで男女とも「どちらかといえば、意識した」(男性18.7%、女性28.3%)、「どちらかといえば、意識しなかった」(男性16.9%、女性27.3%)が男性は約2割、女性は約3割となっています。

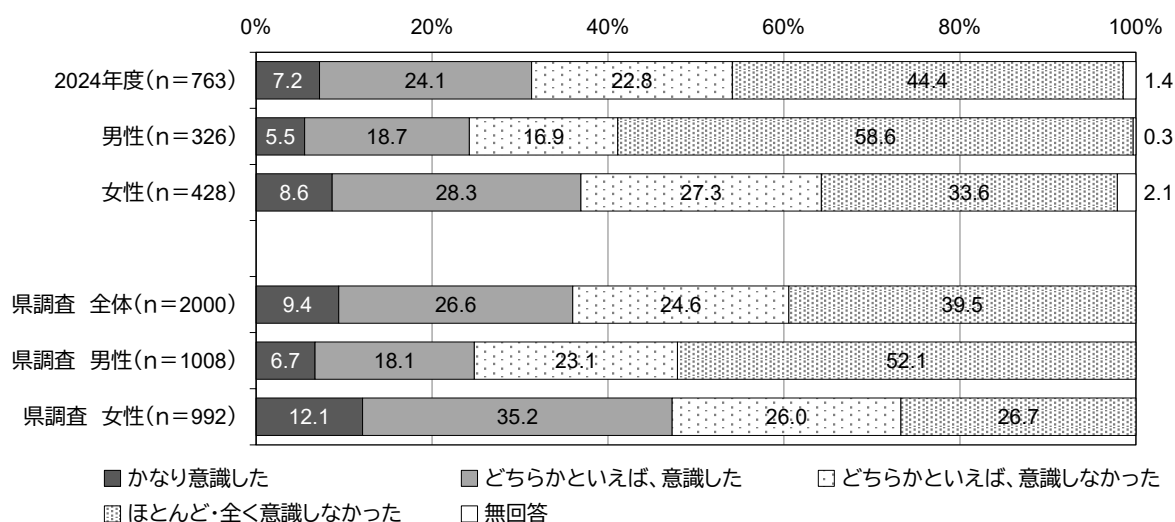
年代別では、いずれの年代も「ほとんど・全く意識しなかった」が最も高く、次いで18～29歳、70歳以上を除き「どちらかといえば、意識した」、18～29歳、70歳以上は「どちらかといえば、意識しなかった」(18～29歳21.2%、70歳以上29.1%)が高くなっています。



性別×年代別では、男性はいずれの年代も「ほとんど・全く意識しなかった」が最も高くなっています。女性は、40歳代以下は「ほとんど・全く意識しなかった」、50歳代、60歳代は「どちらかといえば、意識した」（50歳代「どちらかといえば、意識しなかった」と同値で32.5%、60歳代41.6%）、70歳以上は「どちらかといえば、意識しなかった」（36.4%）が最も高くなっています。



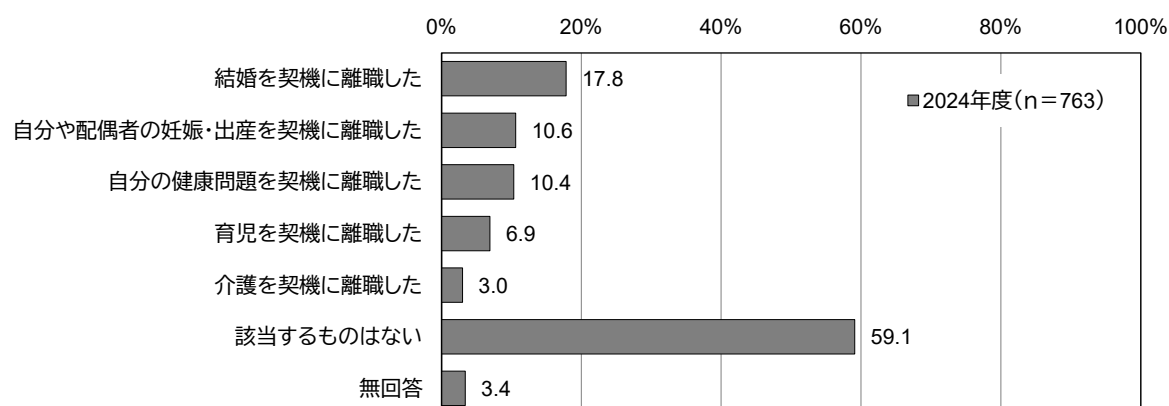
県調査と比較すると、『意識した』は、男性（24.2%）では県調査（24.8%）と同程度、女性（36.9%）では県調査（47.3%）より低くなっています。



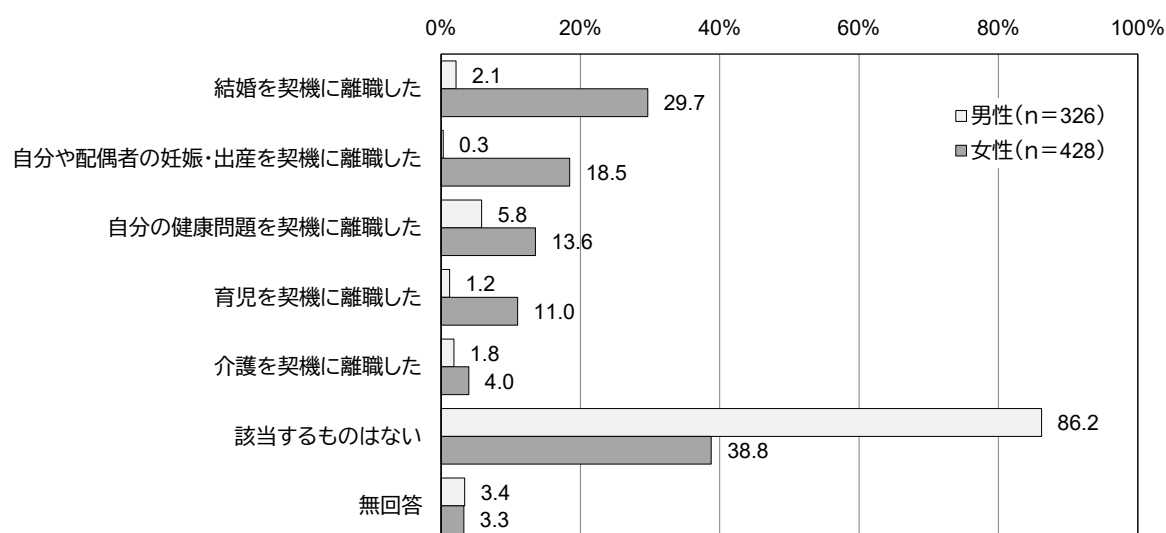
問5 あなたには、今までに次のような理由で離職した経験がありますか。
(あてはまるもの全てに○)

◆「該当するものはない」が約6割で最も高く、次いで「結婚を契機に離職」が約2割

全体では、「該当するものはない」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「結婚を契機に離職した」(17.8%)が約2割となっています。



性別では、男女とも「該当するものはない」が最も高く、男性(86.2%)は8割以上、女性(38.8%)は約4割となっています。次いで「結婚を契機に離職した」が女性(29.7%)は約3割で、男性(2.1%)との差が大きくなっています。男性は「該当するものはない」を除き1割以上の項目は見られません。



年代別では、いずれの年代も「該当するものはない」が最も高く、次いで40歳代以上は「結婚を契機に離職した」が約2割で比較的高くなっています。

	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	85	78	108	133	167	189
結婚を契機に離職した	3.5	15.4	19.4	18.0	22.2	20.6
自分や配偶者の妊娠・出産を契機に離職した	0.0	17.9	17.6	17.3	12.0	2.6
自分の健康問題を契機に離職した	3.5	16.7	13.9	10.5	9.6	9.5
育児を契機に離職した	1.2	10.3	11.1	8.3	7.2	4.8
介護を契機に離職した	0.0	0.0	1.9	3.0	4.8	4.8
該当するものはない	91.8	53.8	52.8	51.9	53.9	59.8
無回答	1.2	0.0	0.9	2.3	4.8	6.3

*各年代で最も高い値を網掛け表示

性別×年代別では、男性はいずれの年代も「該当するものはない」が最も高くなっています。女性は、50歳代以下は「該当するものはない」（50歳代は「自分や配偶者の妊娠・出産を契機に離職した」と同値で28.6%）、60歳代以上は「結婚を契機に離職した」（60歳代39.3%、70歳以上42.0%）が最も高くなっています。

	男性						女性					
	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	26	28	39	56	76	99	58	50	66	77	89	88
結婚を契機に離職した	0.0	0.0	0.0	5.4	2.6	2.0	5.2	24.0	28.8	27.3	39.3	42.0
自分や配偶者の妊娠・出産を契機に離職した	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	28.0	27.3	28.6	22.5	5.7
自分の健康問題を契機に離職した	0.0	14.3	5.1	3.6	3.9	8.1	5.2	18.0	18.2	15.6	14.6	10.2
育児を契機に離職した	0.0	0.0	2.6	5.4	0.0	0.0	1.7	16.0	15.2	10.4	13.5	9.1
介護を契機に離職した	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	4.0	0.0	0.0	3.0	5.2	6.7	5.7
該当するものはない	100.0	85.7	92.3	83.9	86.8	80.8	87.9	36.0	30.3	28.6	24.7	37.5
無回答	0.0	0.0	0.0	1.8	5.3	6.1	1.7	0.0	1.5	2.6	4.5	6.8

*各年代で最も高い値を網掛け表示

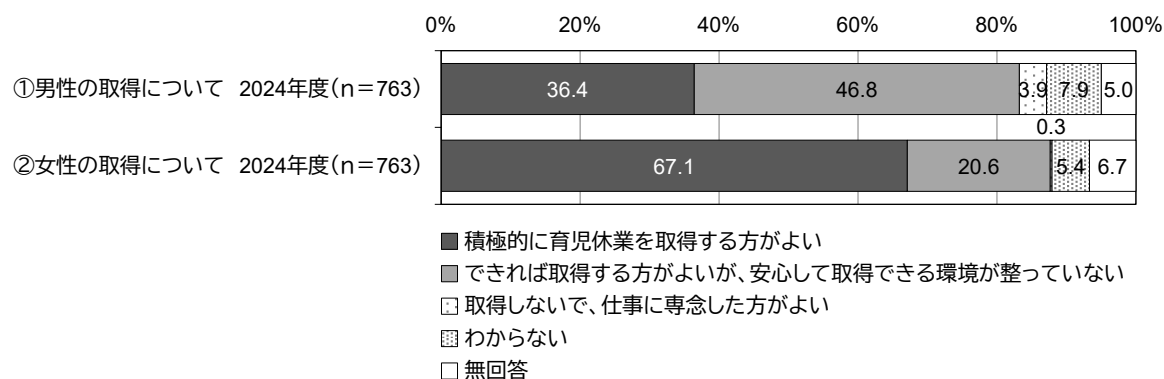
4 育児・介護休業の取得について

問6 育児休業を取得することについて、どう思いますか。(それぞれ1つに○)

◆男性の取得は「できれば取得する方がよいが、環境が整っていない」が約5割、女性の取得は「積極的に取得する方がよい」が約7割で最も高い

全体では、「①男性の取得について」は、「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」(46.8%)が約5割で最も高く、次いで「積極的に育児休業を取得する方がよい」(36.4%)が3割以上となっています。

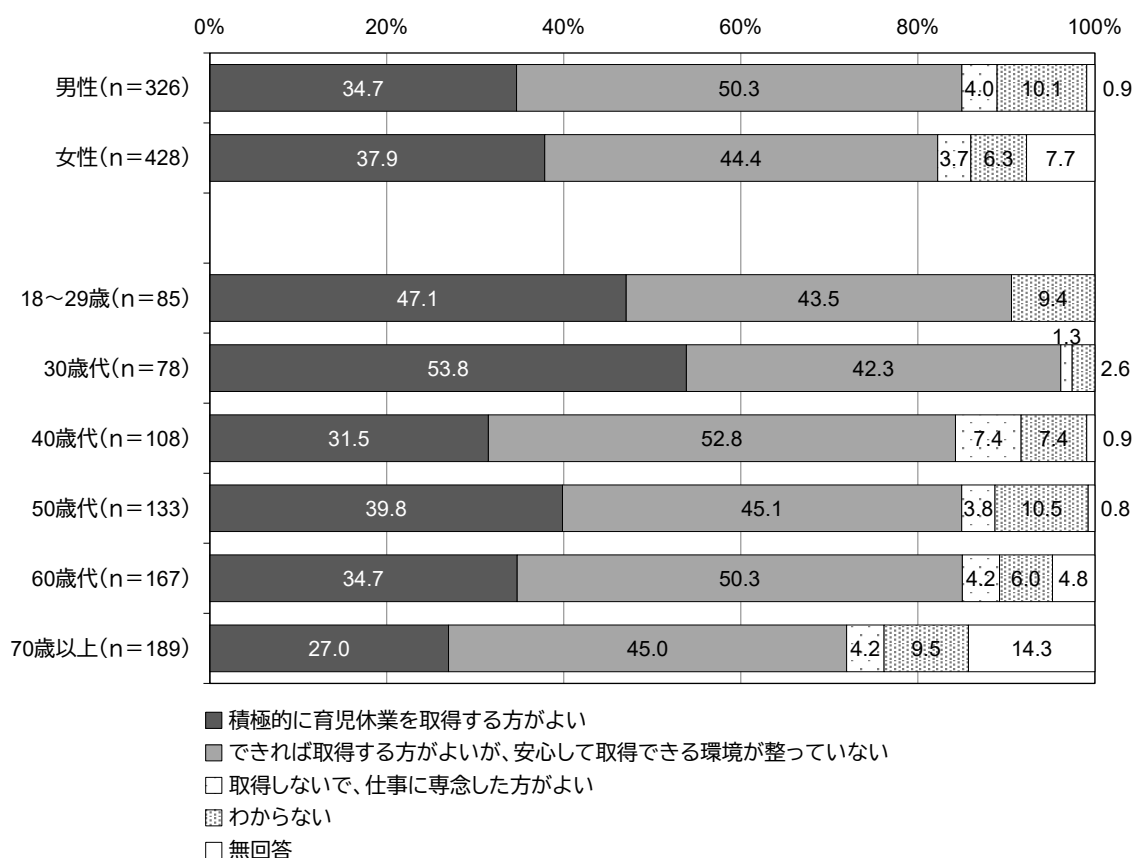
「②女性の取得について」は、「積極的に育児休業を取得する方がよい」(67.1%)が約7割で最も高く、次いで「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」(20.6%)が2割以上となっています。



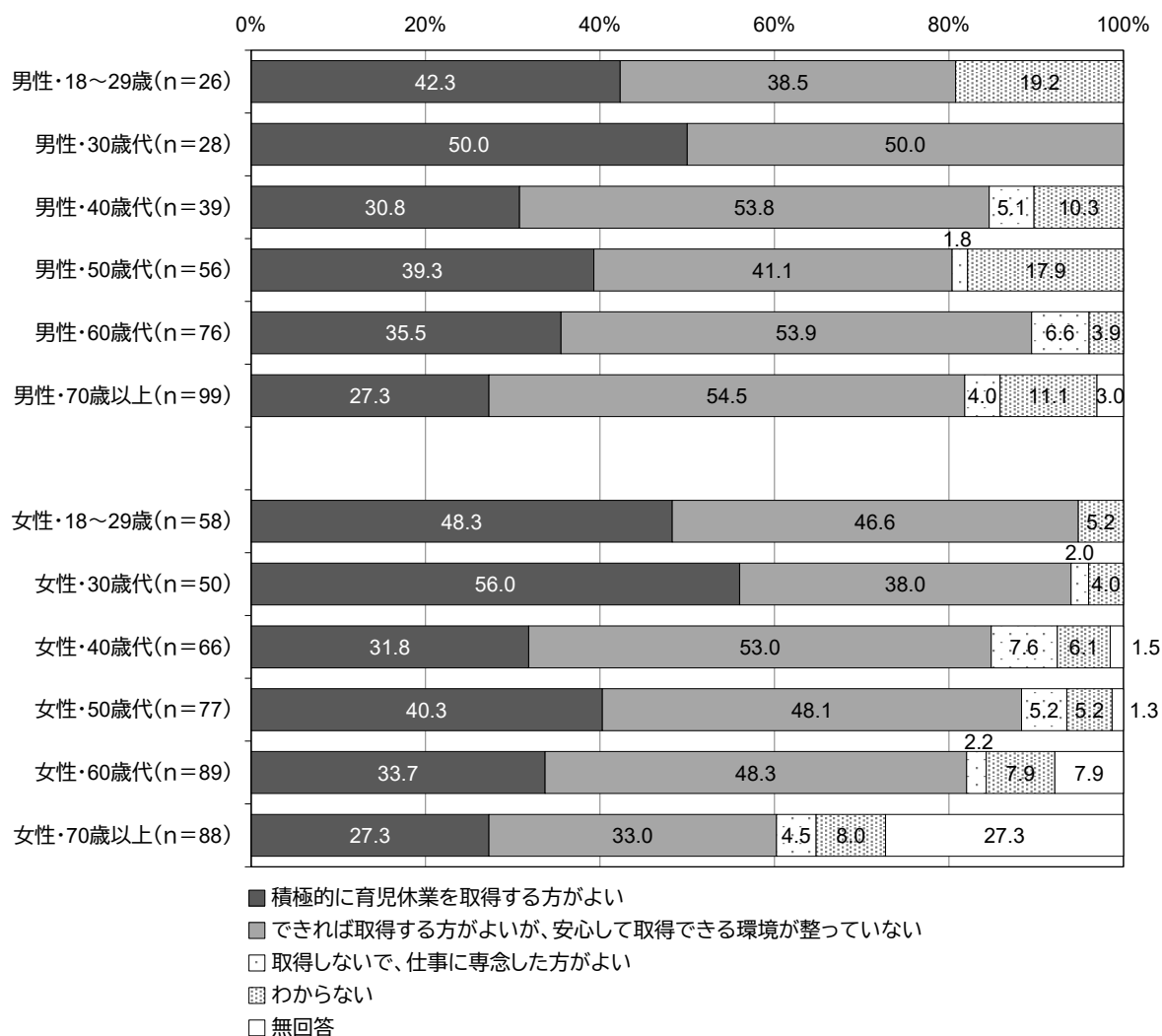
①男性の取得について

性別では、男女とも「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高く、男性（50.3%）は5割以上、女性（44.4%）は4割以上となっています。次いで男女とも「積極的に育児休業を取得する方がよい」が高く、男性（34.7%）は3割以上、女性（37.9%）は約4割となっており、性別による大きな差は見られません。

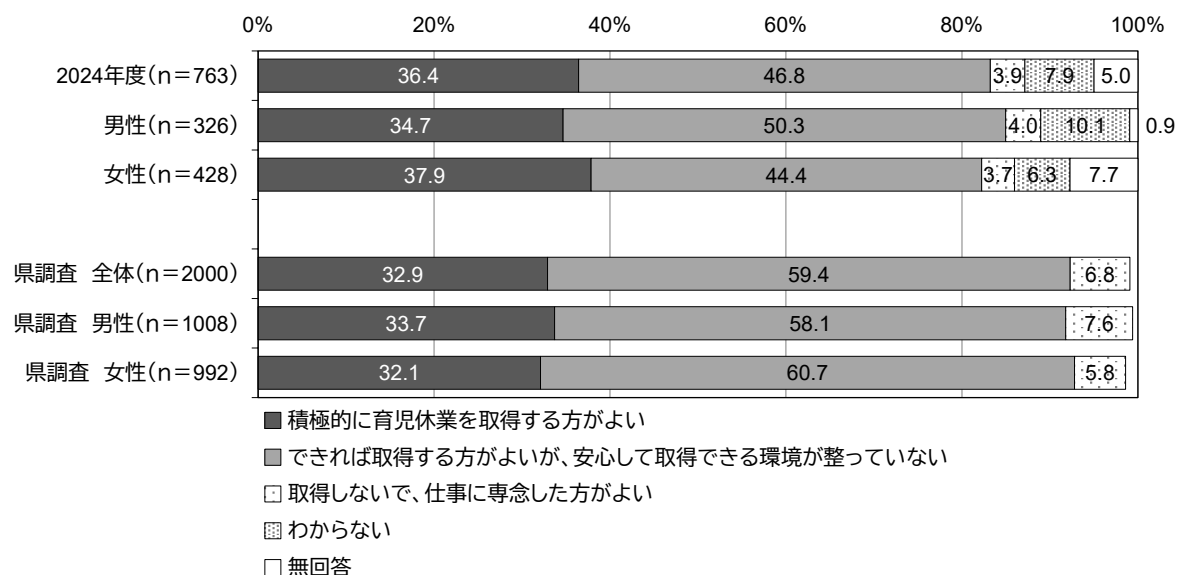
年代別では、30歳代以下は「積極的に育児休業を取得する方がよい」（18～29歳 47.1%、30歳代 53.8%）、40歳代以上は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男女とも 30 歳代以下は「積極的に育児休業を取得する方がよい」（男性 30 歳代は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」と同値で 50.0%）、40 歳代以上は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高くなっています。



県調査と比較すると、選択肢の表現が異なることを考慮する必要がありますが、男女とも「積極的に育児休業を取得する方がよい」（男性 34.7%、女性 37.9%）は県調査（男性 33.7%、女性 32.1%）と同程度、「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」（男性 50.3%、女性 44.4%）は県調査（男性 58.1%、女性 60.7%）より低くなっています。

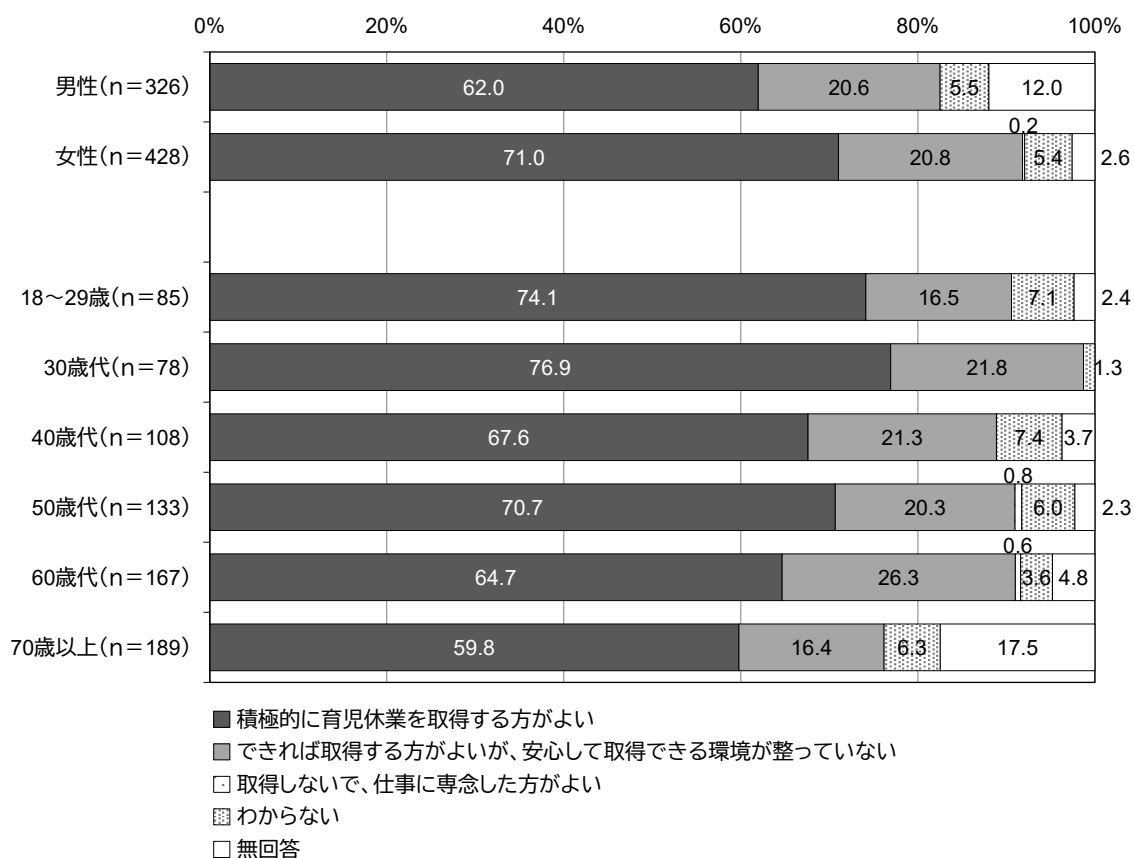


*県調査は、「男性も積極的に取得するほうがよい」「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」「男性は取得しないほうがよい」「その他」の4選択肢で設定

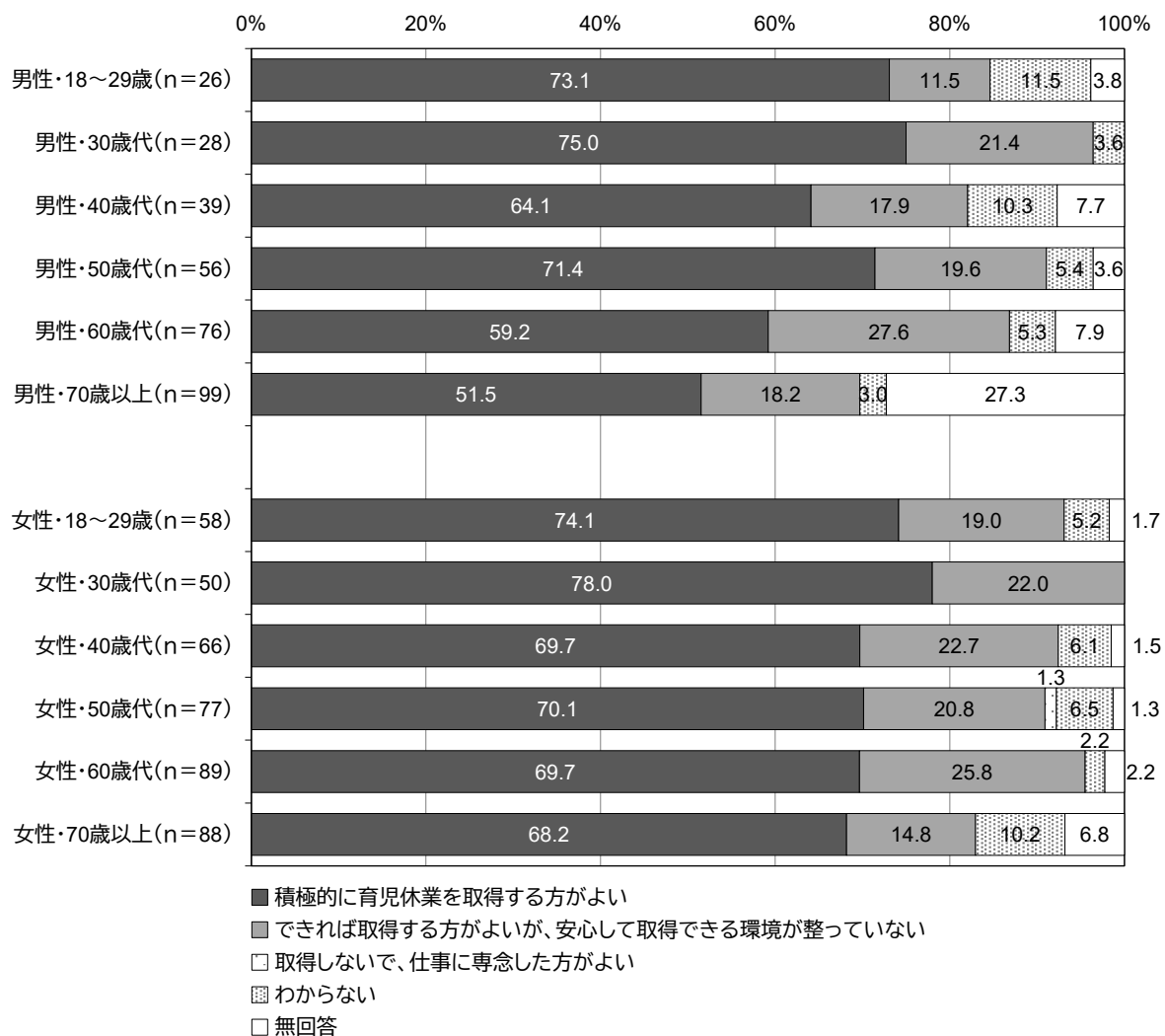
②女性の取得について

性別では、男女とも「積極的に育児休業を取得する方がよい」が最も高く、男性（62.0％）は6割以上、女性（71.0％）は7割以上となっています。次いで男女とも「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」（男性 20.6％、女性 20.8％）が2割以上となっています。

年代別では、いずれの年代も「積極的に育児休業を取得する方がよい」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男女ともいずれの年代も「積極的に育児休業を取得する方がよい」が最も高くなっています。

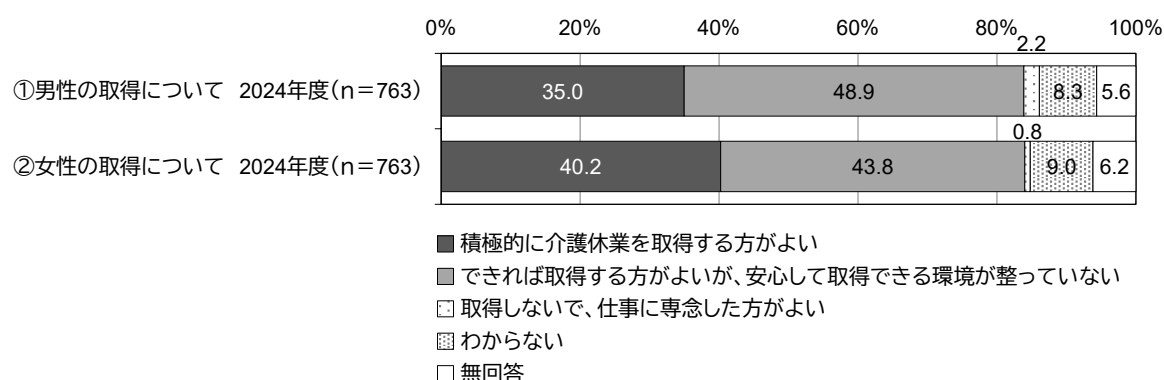


問7 介護休業を取得することについて、どう思いますか。(それぞれ1つに○)

◆男性の取得は「できれば取得する方がよいが、環境が整っていない」が約5割で最も高く、女性の取得は「できれば取得する方がよいが、環境が整っていない」「積極的に取得する方がよい」が4割以上で同程度に高い

全体では、「①男性の取得について」は、「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」(48.9%)が約5割で最も高く、次いで「積極的に介護休業を取得する方がよい」(35.0%)が3割以上となっています。

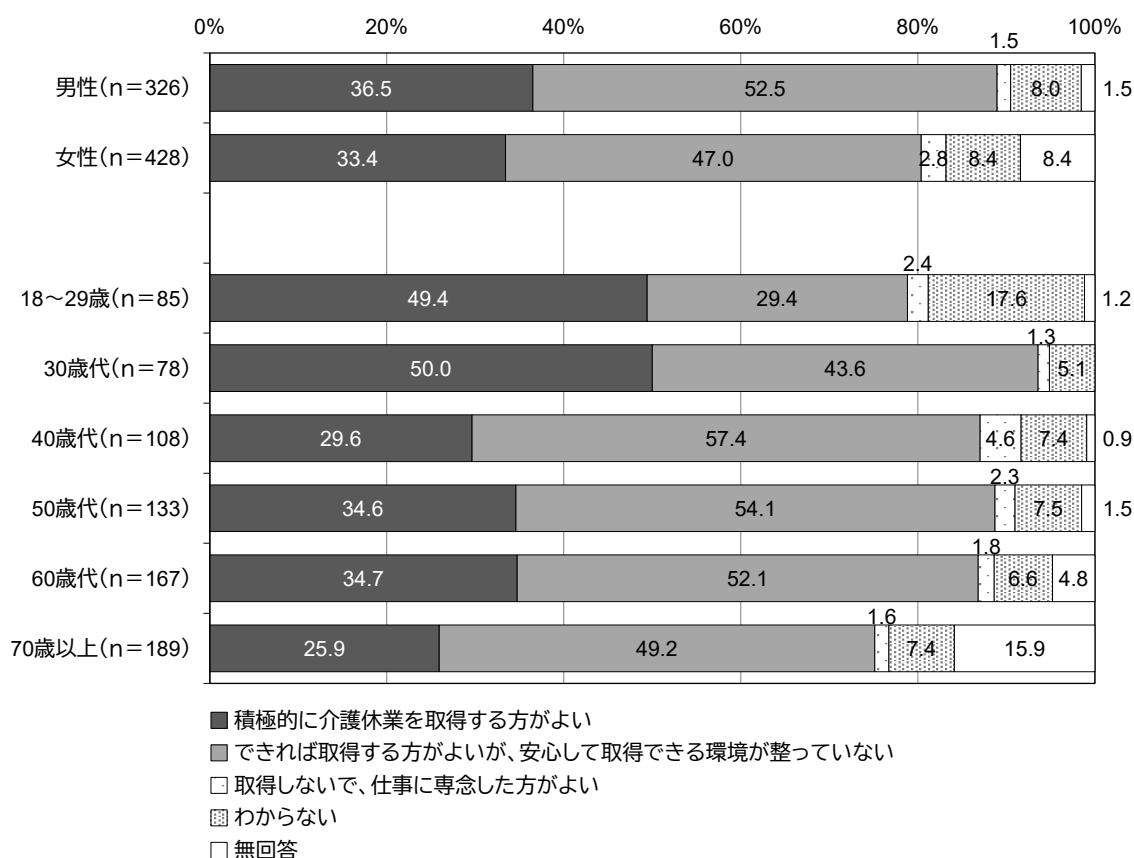
「②女性の取得について」は、「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」(43.8%)、「積極的に介護休業を取得する方がよい」(40.2%)が4割以上で同程度に高くなっています。



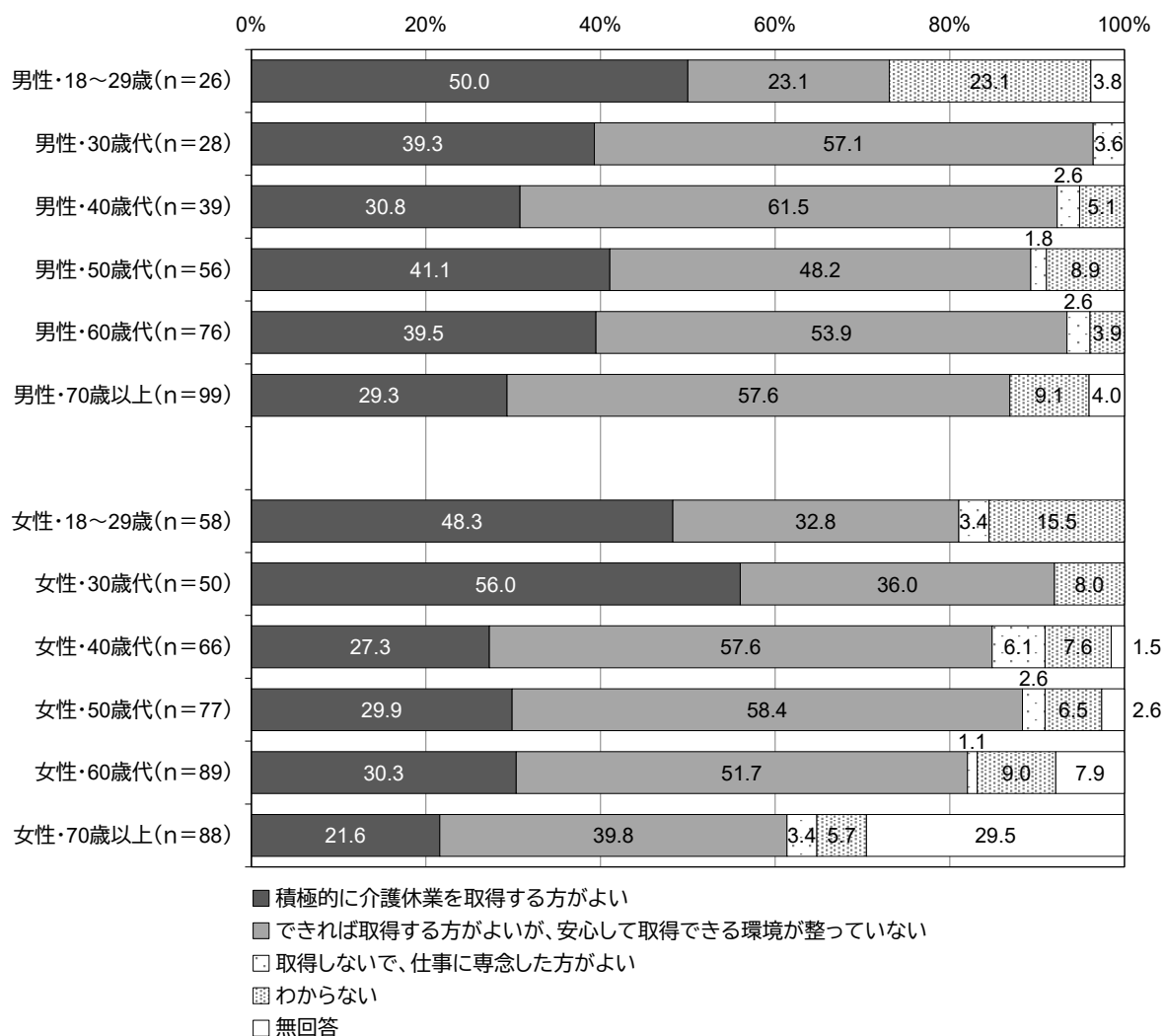
①男性の取得について

性別では、男女とも「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高く、男性（52.5%）は5割以上、女性（47.0%）は約5割となっています。次いで男女とも「積極的に介護休業を取得する方がよい」（男性 36.5%、女性 33.4%）が3割以上となっており、性別による大きな差は見られません。

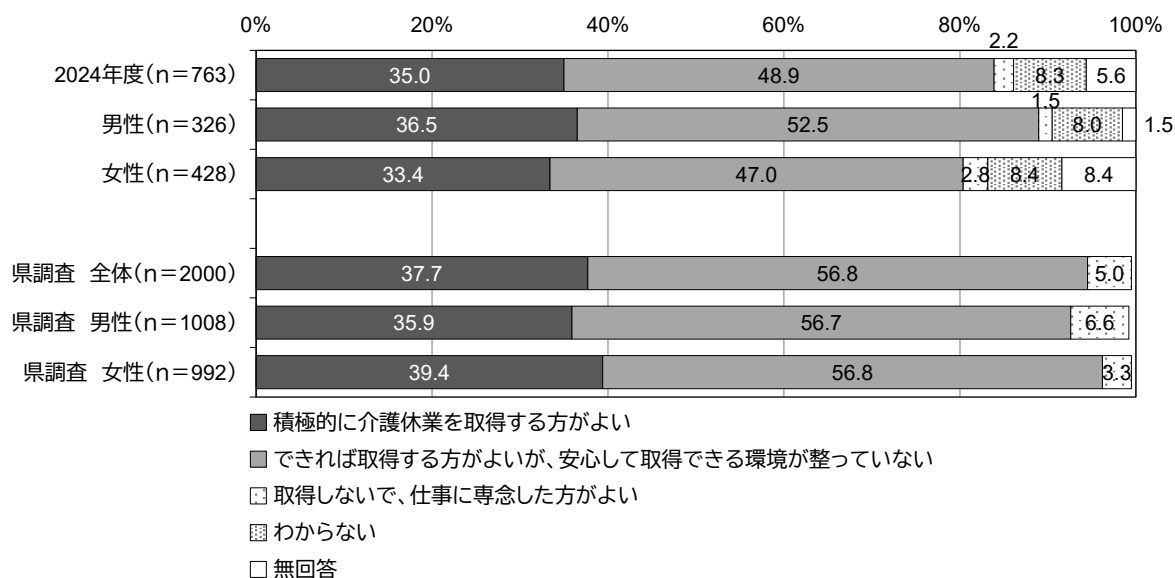
年代別では、30歳代以下は「積極的に介護休業を取得する方がよい」（18～29歳 49.4%、30歳代 50.0%）、40歳代以上は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性 18～29 歳、女性 30 歳代以下は「積極的に介護休業を取得する方がよい」、男性 30 歳代以上、女性 40 歳代以上は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高くなっています。



県調査と比較すると、選択肢の表現が異なることを考慮する必要がありますが、「積極的に育児休業を取得する方がよい」（男性 36.5%、女性 33.4%）は、県調査（男性 35.9%、女性 39.4%）と男性は同程度、女性は若干低くなっています。「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」（男性 52.5%、女性 47.0%）は、男女とも県調査（男性 56.7%、女性 56.8%）より低くなっています。

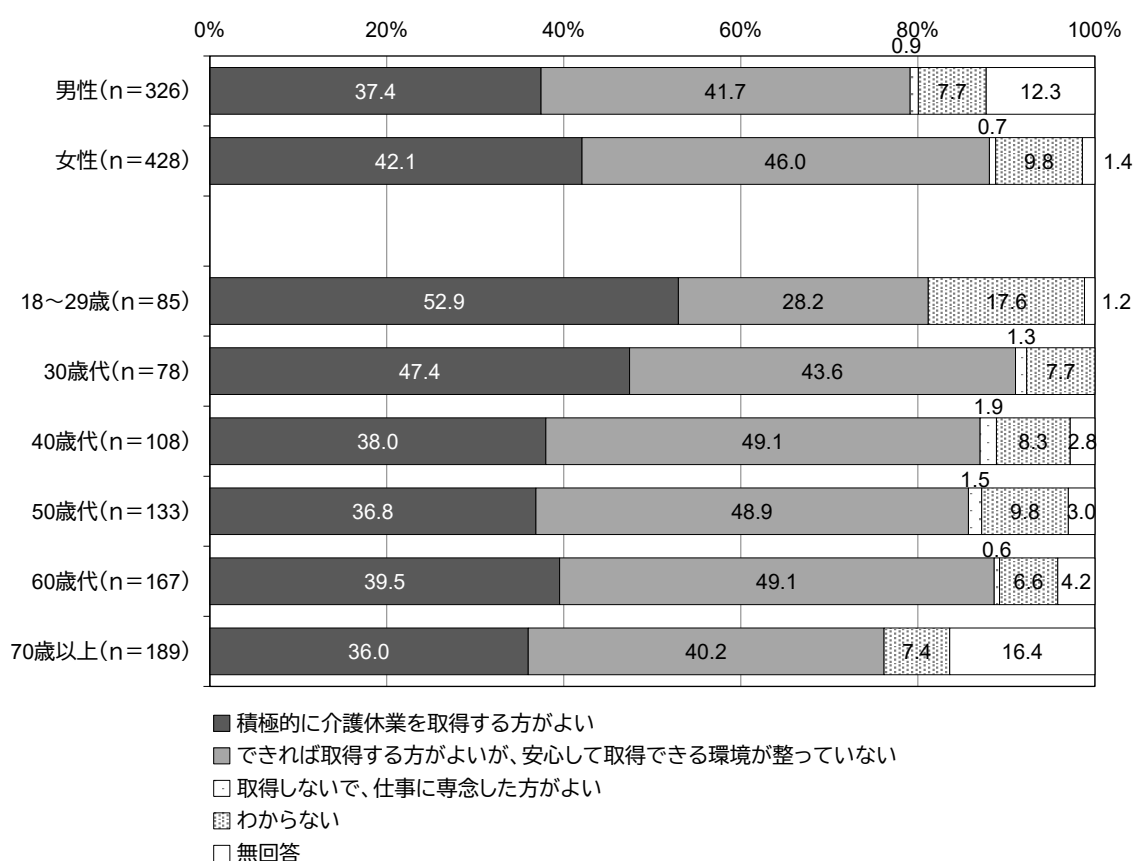


*県調査は、「男性も積極的に取得するほうがよい」「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」「男性は取得しないほうがよい」「その他」の4選択肢で設定

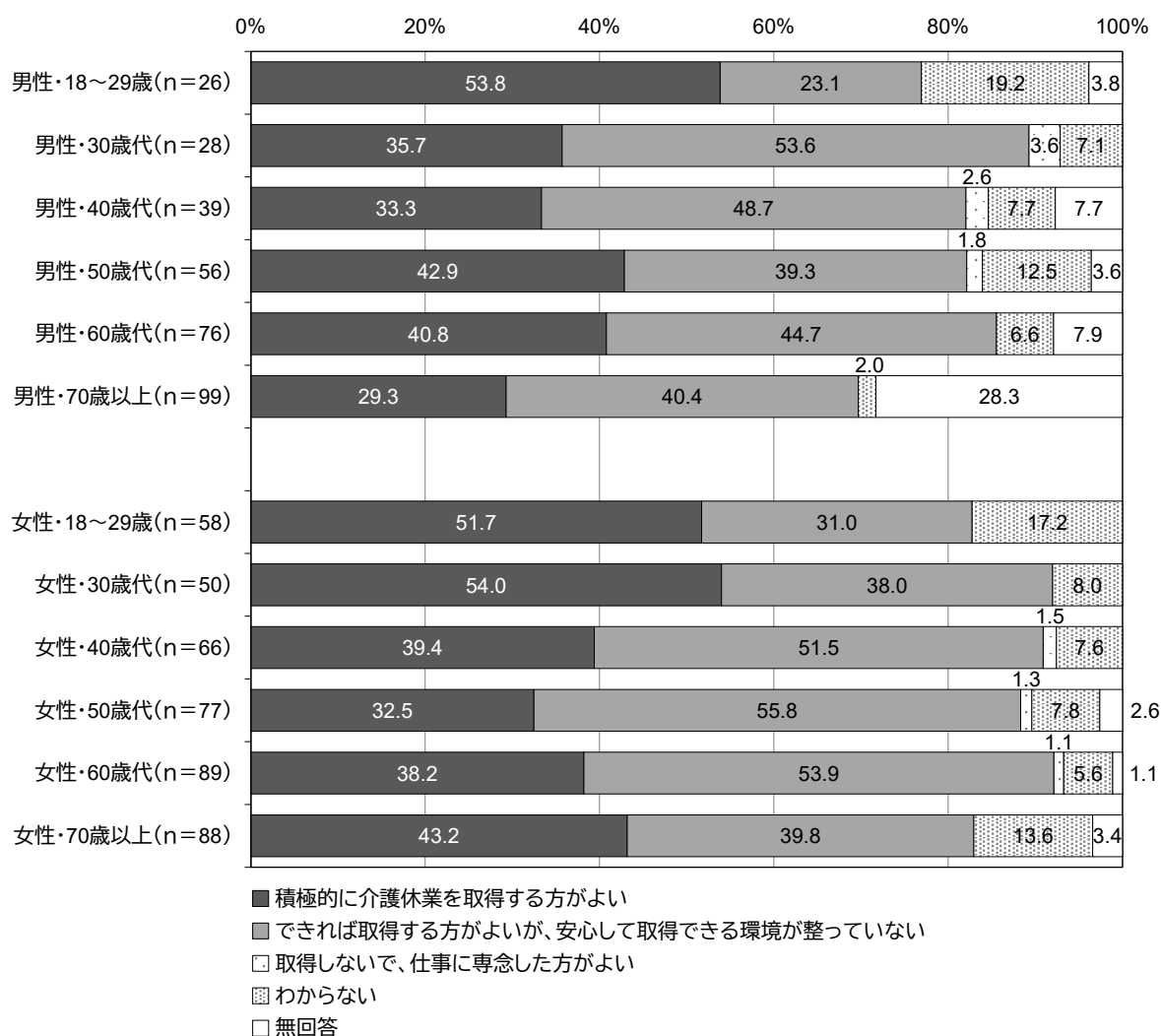
②女性の取得について

性別では、男女とも「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」（男性 41.7%、女性 46.0%）が4割以上で最も高くなっています。次いで男女とも「積極的に介護休業を取得する方がよい」が高く、男性（37.4%）は約4割、女性（42.1%）は4割以上となっています。

年代別では、30歳代以下は「積極的に介護休業を取得する方がよい」（18～29歳 52.9%、30歳代 47.4%）、40歳代以上は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性 18～29 歳、男性 50 歳代と女性 30 歳代以下、女性 70 歳以上は「積極的に介護休業を取得する方がよい」、それ以外は「できれば取得する方がよいが、安心して取得できる環境が整っていない」が最も高くなっています。

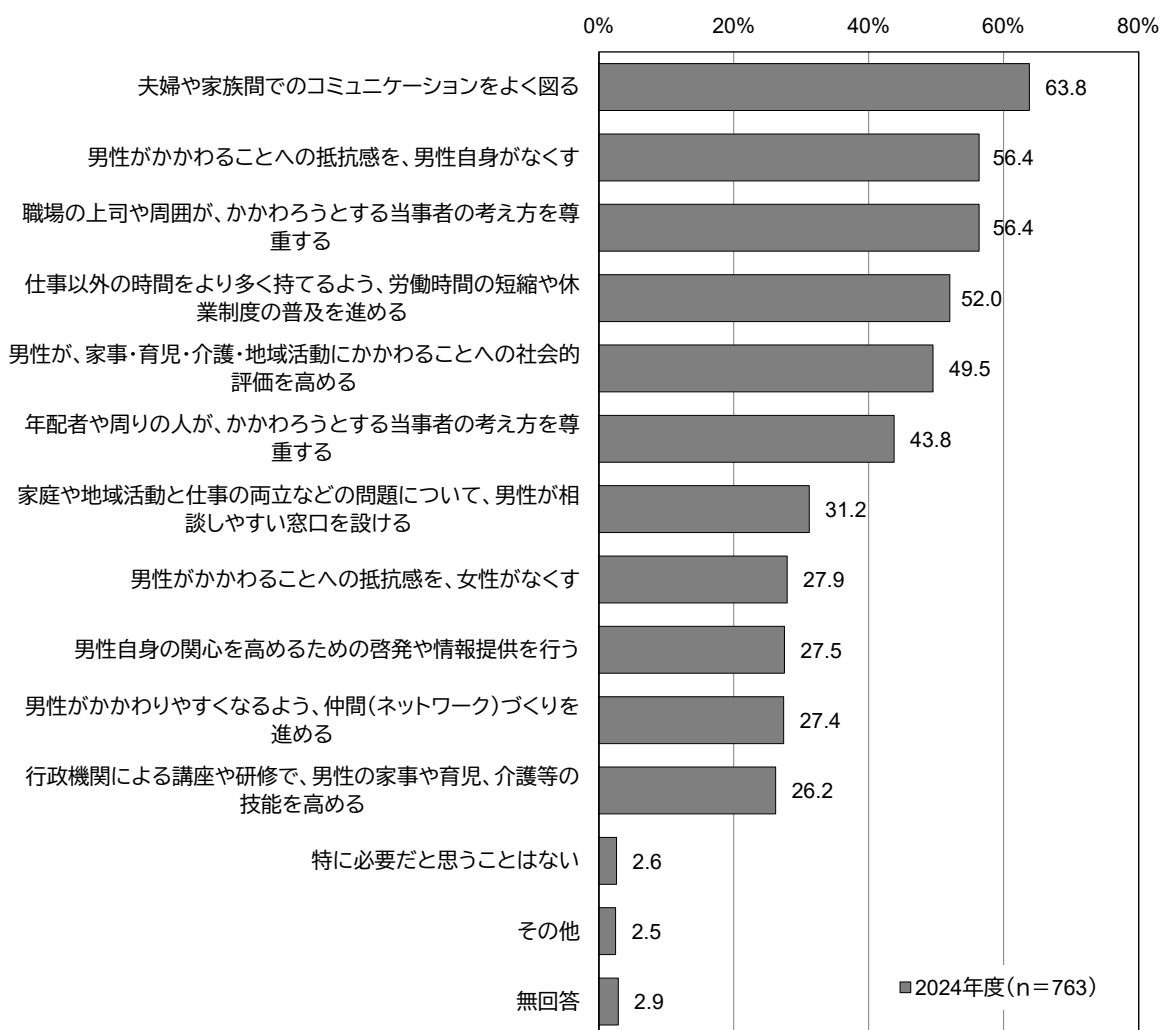


5 男性の家事・育児・介護・地域活動への参加について

問8 あなたは、今後男性が家事・育児・介護・地域活動に、さらに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

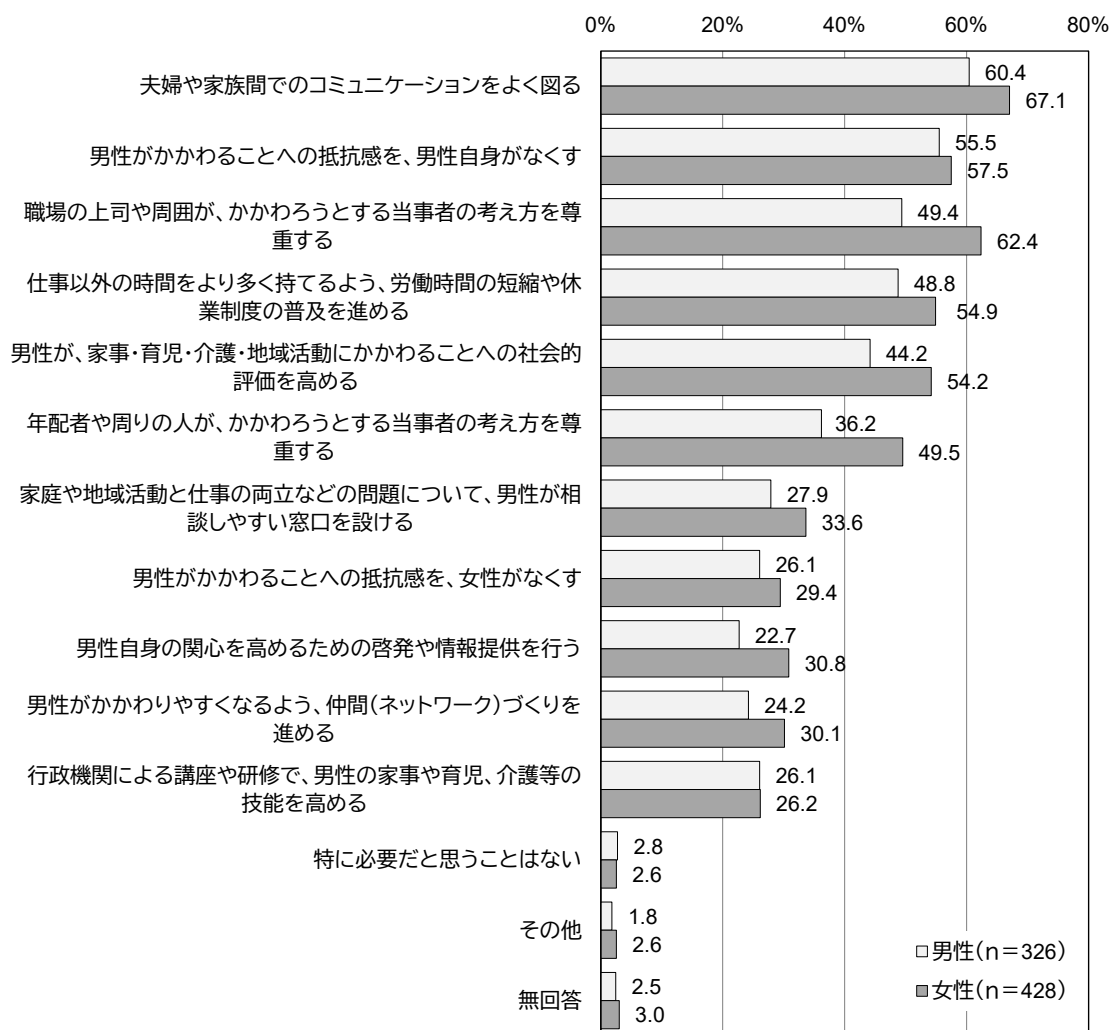
◆「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が6割以上で最も高く、次いで「男性がかかわることへの抵抗感を男性自身がなくす」「職場がかかわろうとする当事者の考えを尊重する」「労働時間の短縮や休業制度の普及」の3項目が5割以上

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」(63.8%)が6割以上で最も高く、次いで「男性がかかわることへの抵抗感を、男性自身がなくす」「職場の上司や周囲が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する」(56.4%で同値)、「仕事以外の時間をより多く持てるよう、労働時間の短縮や休業制度の普及を進める」(52.0%)の3項目が5割以上となっています。



性別では、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が最も高く、男性（60.4%）は6割以上、女性（67.1%）は約7割となっています。次いで男性は「男性がかかわることへの抵抗感を、男性自身がなくす」（55.5%）が5割以上、女性は「職場の上司や周囲が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する」（62.4%）が6割以上となっています。

また、男女でほぼ同値の「行政機関による講座や研修で、男性の家事や育児、介護等の技能を高める」「特に必要だと思うことはない」を除き、いずれの項目も女性が男性より高くなっています。



年代別では、30 歳代、50 歳代を除き「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」（60 歳代は「男性がかかわることへの抵抗感を、男性自身がなくす」と同値で 60.5%）が最も高く、30 歳代、50 歳代は「職場の上司や周囲が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する」（30 歳代 71.8%、50 歳代 60.2%）が最も高くなっています。

	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	85	78	108	133	167	189
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	68.2	69.2	61.1	59.4	60.5	68.3
男性がかかわることへの抵抗感を、男性自身がなくす	55.3	56.4	59.3	56.4	60.5	52.4
職場の上司や周囲が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する	58.8	71.8	60.2	60.2	58.7	42.3
仕事以外の時間をより多く持てるよう、労働時間の短縮や休業制度の普及を進める	61.2	67.9	50.0	52.6	51.5	42.9
男性が、家事・育児・介護・地域活動にかかわることへの社会的評価を高める	41.2	51.3	49.1	56.4	48.5	49.7
年配者や周りの人が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する	36.5	51.3	43.5	42.9	43.1	45.5
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	34.1	28.2	26.9	36.8	26.9	33.9
男性がかかわることへの抵抗感を、女性がなくす	31.8	39.7	22.2	30.8	28.7	22.2
男性自身の関心を高めるための啓発や情報提供を行う	30.6	29.5	28.7	26.3	25.7	27.0
男性がかかわりやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進める	31.8	37.2	20.4	29.3	22.8	28.6
行政機関による講座や研修で、男性の家事や育児、介護等の技能を高める	25.9	26.9	23.1	25.6	24.0	30.7
特に必要だと思うことはない	3.5	1.3	2.8	5.3	1.8	1.1
その他	1.2	9.0	1.9	3.0	2.4	0.5
無回答	1.2	2.6	2.8	0.8	0.6	6.9

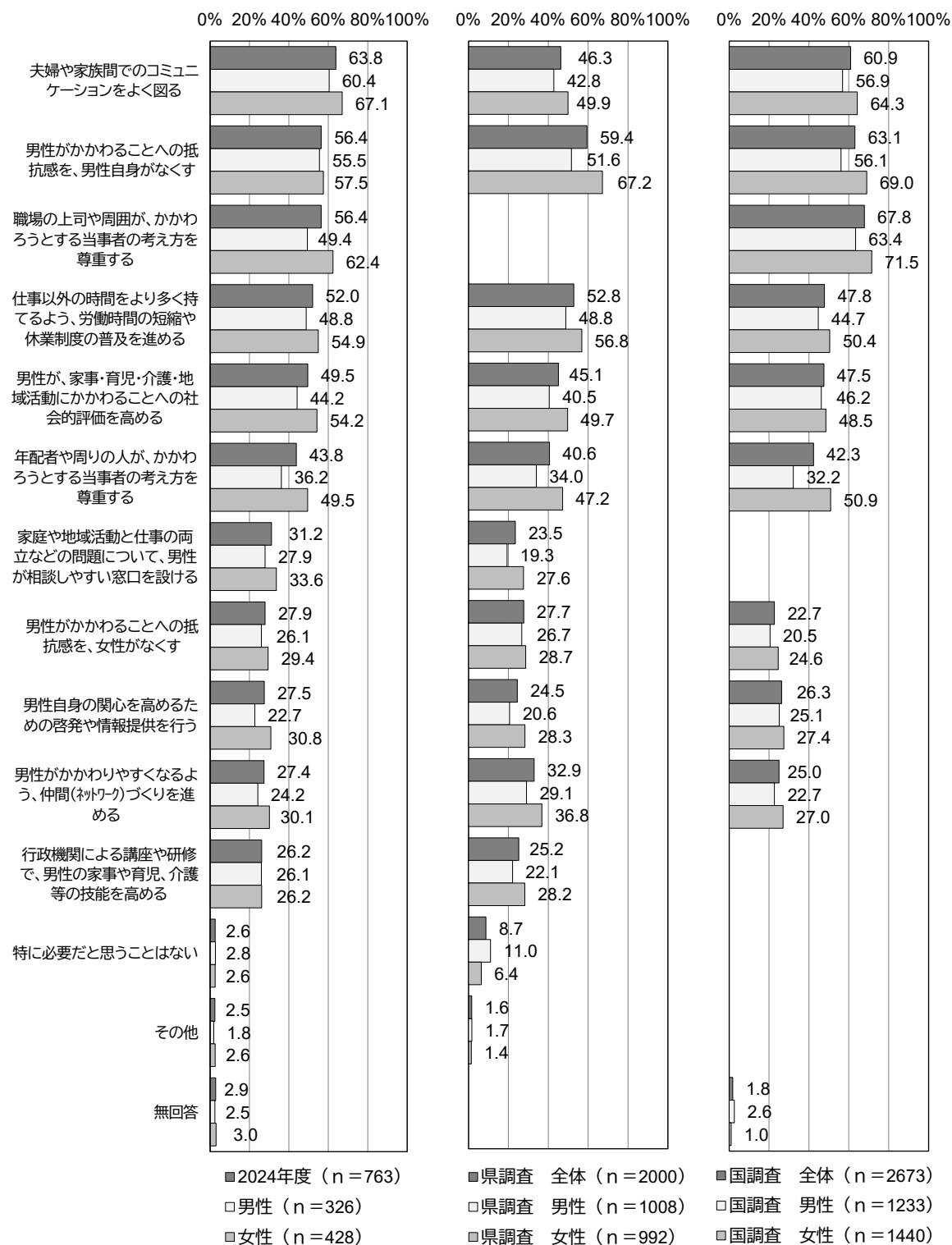
*各年代で最も高い値を網掛け表示

性別×年代別では、男女とも年代によって最も高い項目が異なっていますが、全体で上位の4項目のいずれかが最も高くなっています。

	男性						女性					
	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	18～ 29歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	26	28	39	56	76	99	58	50	66	77	89	88
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	53.8	67.9	51.3	51.8	61.8	68.7	74.1	70.0	68.2	64.9	60.7	68.2
男性がかかわることへの抵抗感を、男性自身がなくす	53.8	53.6	53.8	60.7	52.6	57.6	55.2	58.0	63.6	53.2	67.4	47.7
職場の上司や周囲が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する	34.6	67.9	48.7	50.0	56.6	42.4	69.0	74.0	68.2	67.5	61.8	43.2
仕事以外の時間をより多く持てるよう、労働時間の短縮や休業制度の普及を進める	46.2	71.4	38.5	50.0	57.9	39.4	67.2	66.0	59.1	54.5	46.1	46.6
男性が、家事・育児・介護・地域活動にかかわることへの社会的評価を高める	34.6	46.4	41.0	48.2	42.1	47.5	43.1	54.0	56.1	62.3	55.1	52.3
年配者や周りの人が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する	19.2	57.1	25.6	33.9	27.6	46.5	43.1	48.0	54.5	49.4	56.2	44.3
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	34.6	28.6	15.4	37.5	26.3	27.3	32.8	28.0	31.8	36.4	28.1	42.0
男性がかかわることへの抵抗感を、女性がなくす	26.9	57.1	15.4	32.1	21.1	22.2	32.8	30.0	27.3	29.9	36.0	21.6
男性自身の関心を高めるための啓発や情報提供を行う	23.1	25.0	17.9	16.1	23.7	26.3	32.8	32.0	34.8	33.8	28.1	26.1
男性がかかわりやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進める	15.4	35.7	12.8	26.8	23.7	27.3	37.9	38.0	25.8	31.2	22.5	30.7
行政機関による講座や研修で、男性の家事や育児、介護等の技能を高める	15.4	28.6	23.1	21.4	26.3	32.3	29.3	26.0	22.7	28.6	22.5	28.4
特に必要だと思うことはない	3.8	0.0	5.1	5.4	1.3	1.0	3.4	2.0	1.5	5.2	2.2	1.1
その他	0.0	10.7	0.0	3.6	0.0	1.0	1.7	8.0	1.5	2.6	3.4	0.0
無回答	3.8	0.0	7.7	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	1.3	1.1	10.2

*各年代で最も高い値を網掛け表示

県や国の調査と比較すると、選択肢が異なることを考慮する必要がありますが、男女とも本調査では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が最も高く、県調査は「男性がかかわることへの抵抗感を、男性自身がなくす」、国調査は「職場の上司や周囲が、かかわろうとする当事者の考え方を尊重する」が最も高くなっています。



* 国調査は9選択肢、県調査は12選択肢で設定。本調査の選択肢と同様の選択肢のみを表示

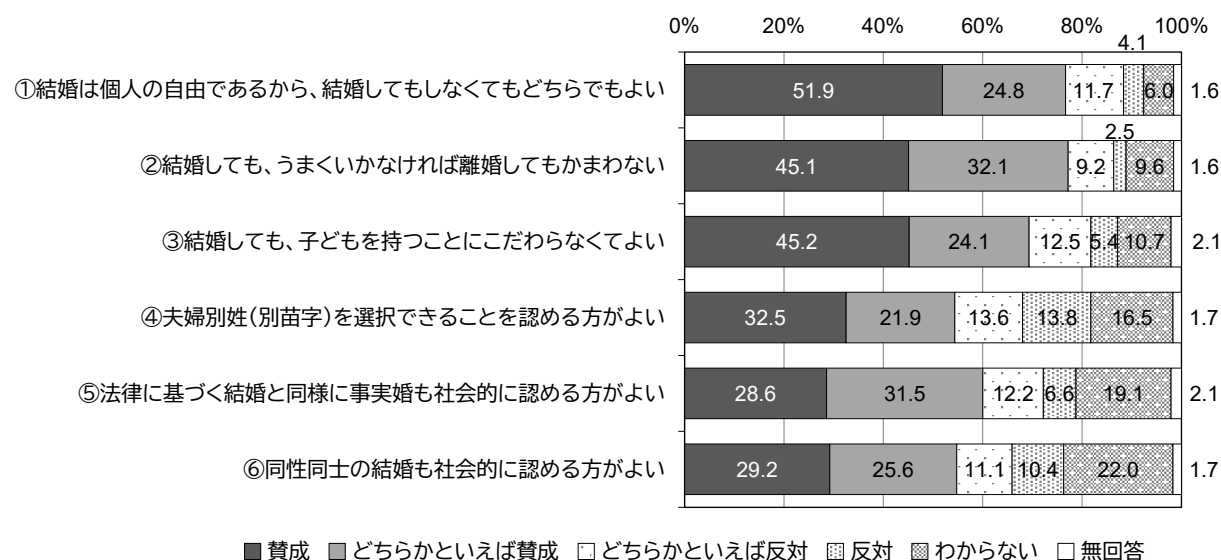
6 結婚・家庭生活や性別による役割分担について

問9 「結婚」や「家庭生活」に関する次の考え方について、どう思いますか。
あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ1つに○)

◆合計値『賛成である』は「結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよい」「結婚は個人の自由」が約8割で高い一方、「夫婦別姓の選択を認める」「同性同士の結婚も認める」は6割未満

全体では、「⑤法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認める方がよい」を除き「賛成」が最も高く、「⑤法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認める方がよい」は「どちらかといえば賛成」(31.5%)が3割以上で最も高くなっています。

「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計値『賛成である』は「②結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない」(77.2%)、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(76.7%)の2項目が約8割で高い一方、「④夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認める方がよい」(54.4%)、「⑥同性同士の結婚も社会的に認める方がよい」(54.8%)の2項目は6割未満で比較的低くなっています。



2024年度(n=763)

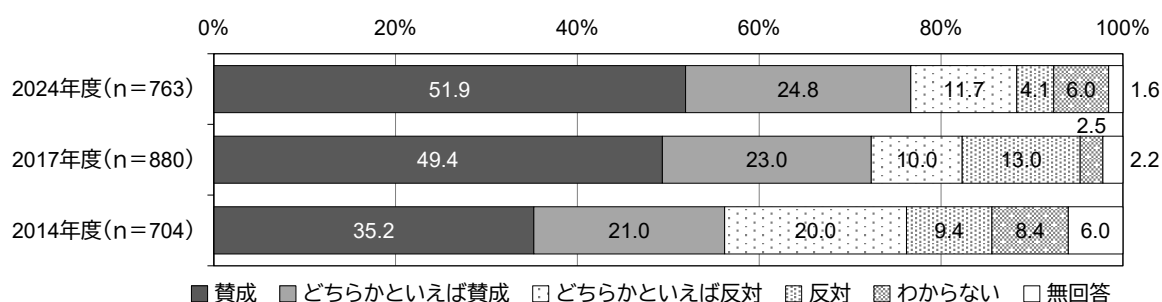
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

◆「賛成」が5割以上で最も高く、合計値『賛成である』は約8割で過去2回の調査より高くなる傾向

全体では、「賛成」(51.9%)が5割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(24.8%)が2割以上となっています。

合計値『賛成である』(76.7%)は約8割となっています。

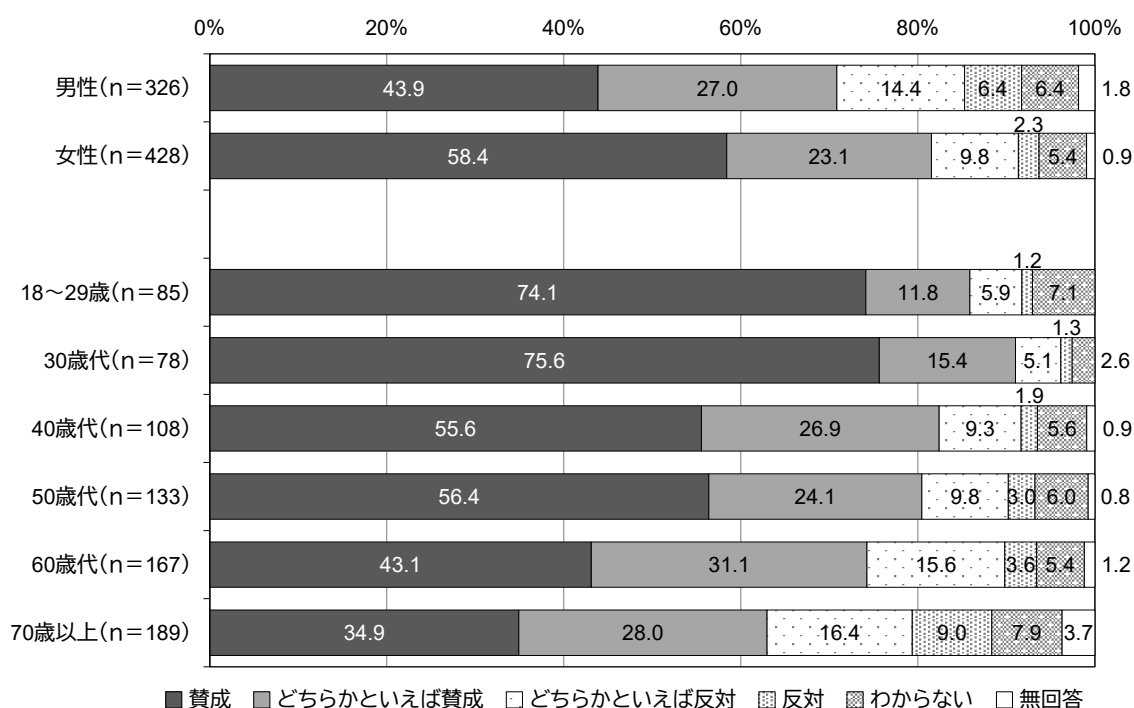
過去2回の調査と比較すると、『賛成である』は前回(72.4%)や前々回(56.2%)より高くなっています。



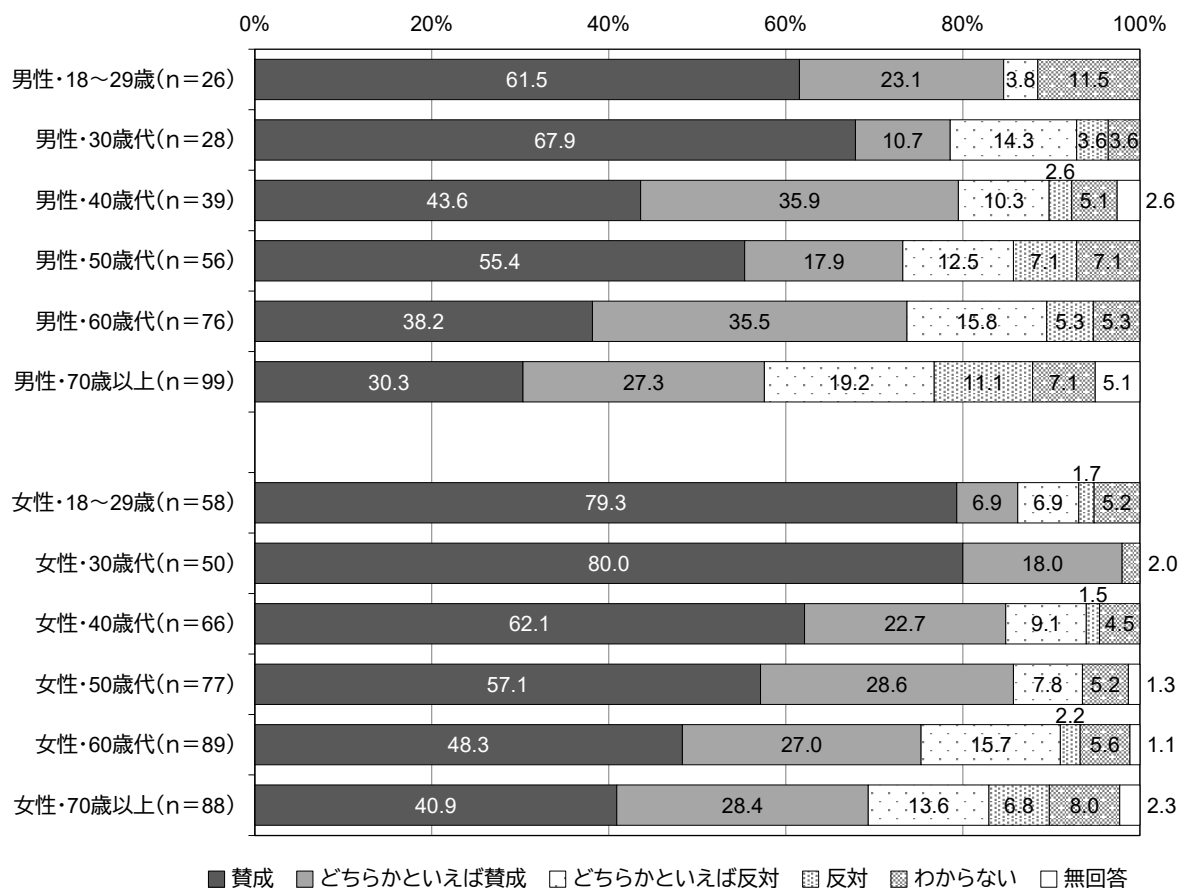
* 前回調査は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」の5選択肢で設定(以下⑥まで同じ)

性別では、男女とも「賛成」が最も高く、男性(43.9%)は4割以上、女性(58.4%)は約6割となっています。次いで「どちらかといえば賛成」が男性(27.0%)は約3割、女性(23.1%)は2割以上となっています。

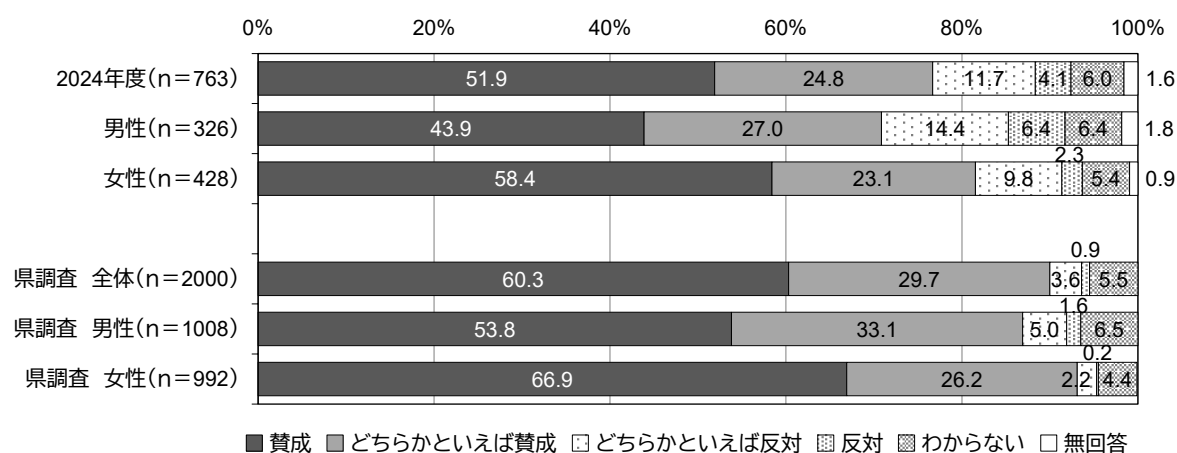
年代別では、いずれの年代も「賛成」が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が高くなっており、「賛成」は、概ね若い年代ほど高くなっています。



性別×年代別では、男女ともいずれの年代も「賛成」が最も高く、男女とも一部の年代を除き、概ね若い年代ほど高くなっています。



県調査と比較すると、『賛成である』（男性 70.9%、女性 81.5%）は、男女とも県調査（男性 86.9%、女性 93.1%）より低くなっています。



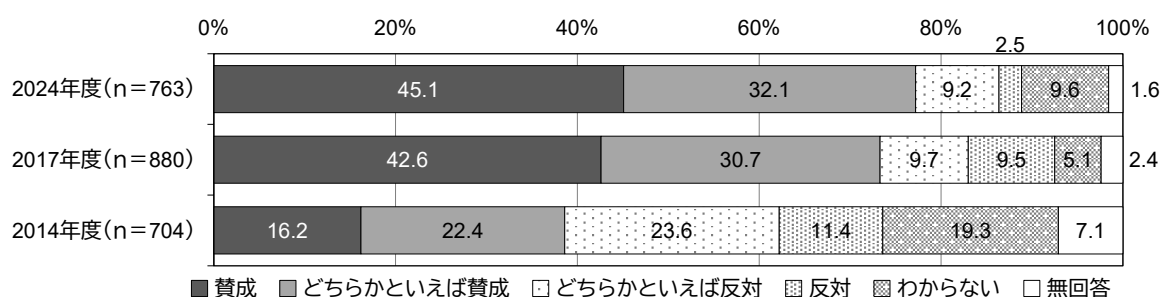
②結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない

◆「賛成」が4割以上で最も高く、合計値『賛成である』は約8割で前回と同程度、前々回より高い

全体では、「賛成」(45.1%)が4割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(32.1%)が3割以上となっています。

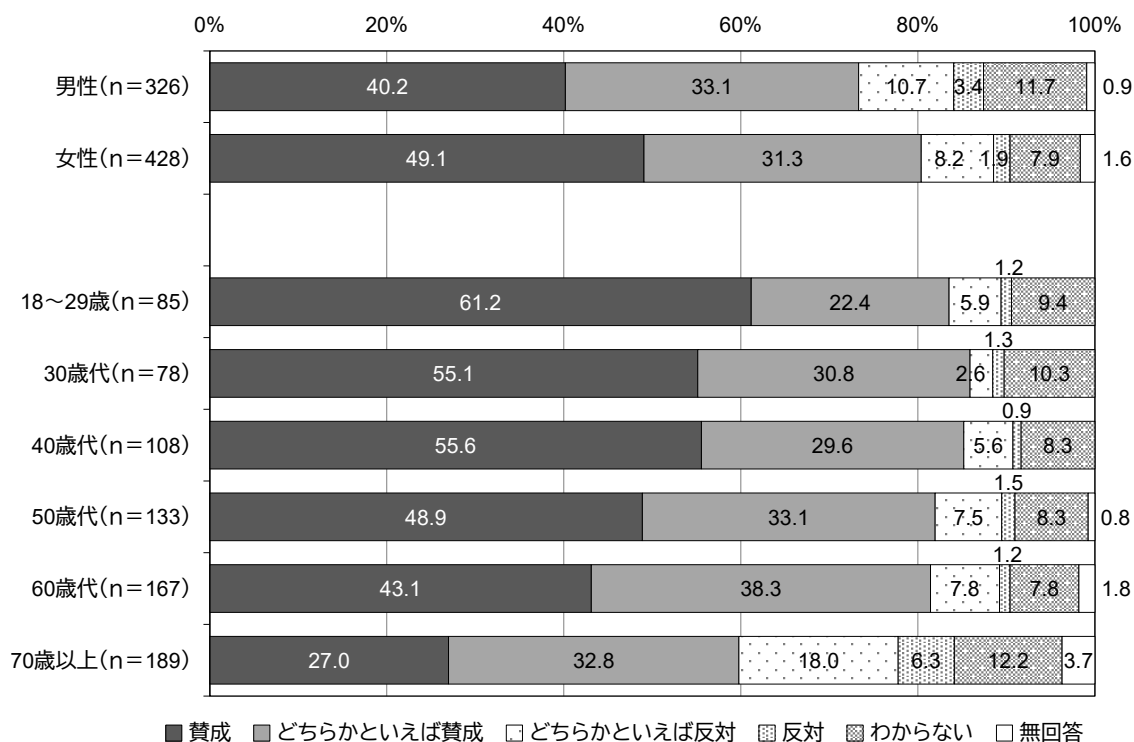
合計値『賛成である』(77.2%)は約8割となっています。

過去2回の調査と比較すると、『賛成である』は前回(73.3%)と同程度、前々回(38.6%)より高くなっています。

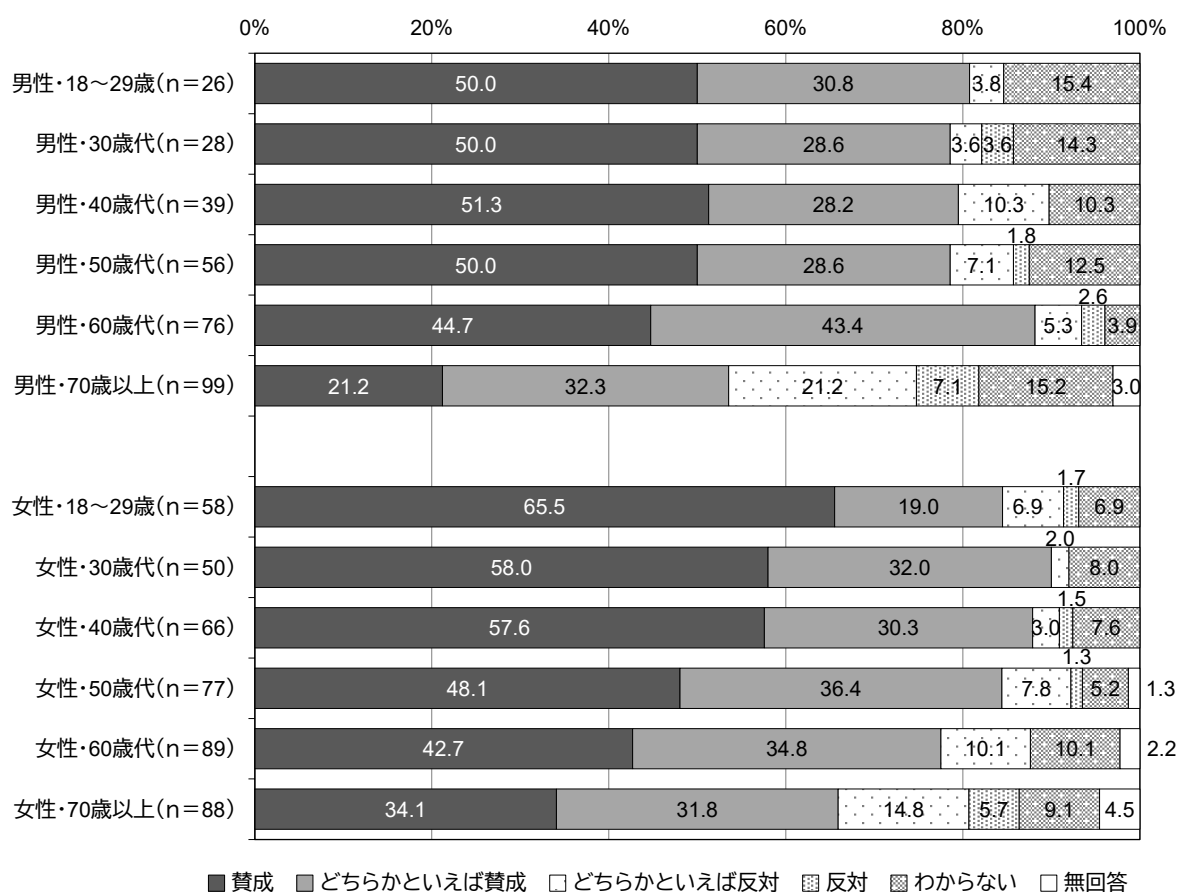


性別では、男女とも「賛成」が最も高く、男性(40.2%)は4割以上、女性(49.1%)は約5割となっています。次いで男女とも「どちらかといえば賛成」(男性33.1%、女性31.3%)が3割以上となっています。

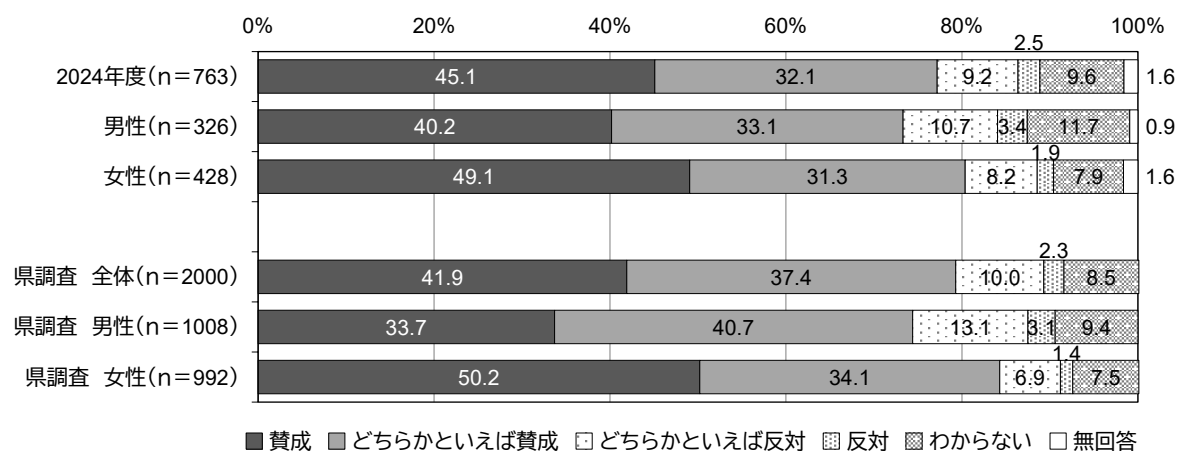
年代別では、70歳以上を除き「賛成」、70歳代は「どちらかといえば賛成」(32.8%)が最も高く、「賛成」は、概ね若い年代ほど高くなっています。



性別×年代別では、男性 70 歳以上を除き「賛成」、男性 70 歳以上は「どちらかといえば賛成」（32.3％）が 3 割以上で最も高く、「賛成」は、男性では 70 歳以上を除きいずれの年代も同程度となっていますが、女性は若い年代ほど高くなっています。



県調査と比較すると、『賛成である』（男性 73.3％、女性 80.4％）は、男女とも県調査（男性 74.4％、女性 84.3％）と同程度となっています。



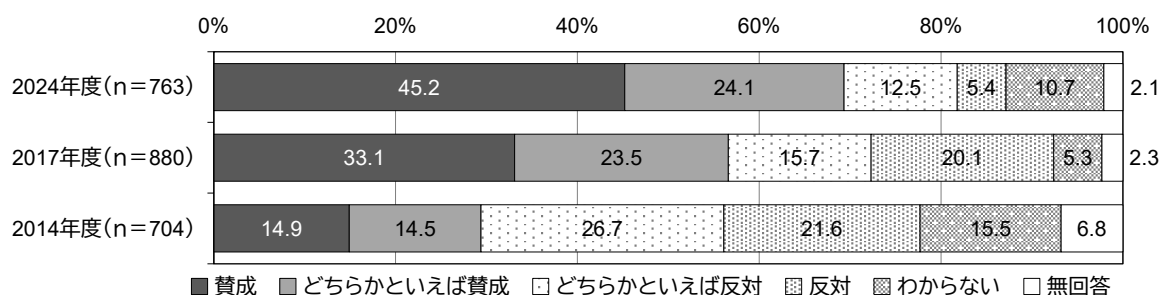
③結婚しても、子どもを持つことにこだわらなくてよい

◆「賛成」が4割以上で最も高く、合計値『賛成である』は約7割で過去2回の調査より高くなる傾向

全体では、「賛成」(45.2%)が4割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(24.1%)が2割以上となっています。

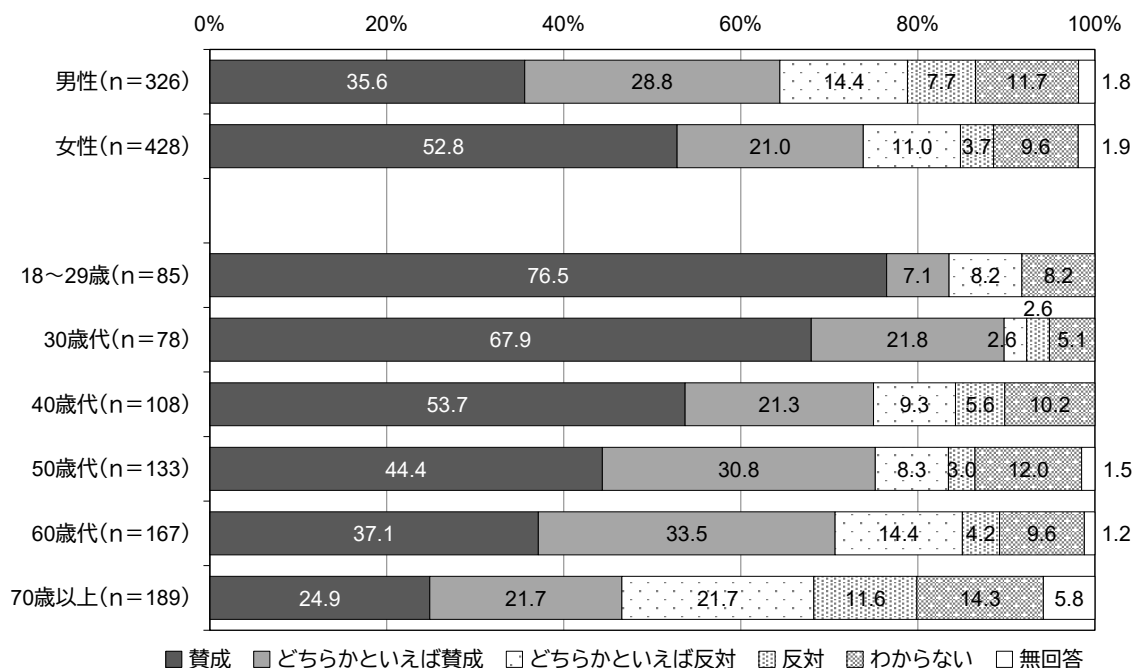
合計値『賛成である』(69.3%)は約7割となっています。

過去2回の調査と比較すると、『賛成である』は前回(56.6%)や前々回(29.4%)より高くなっています。

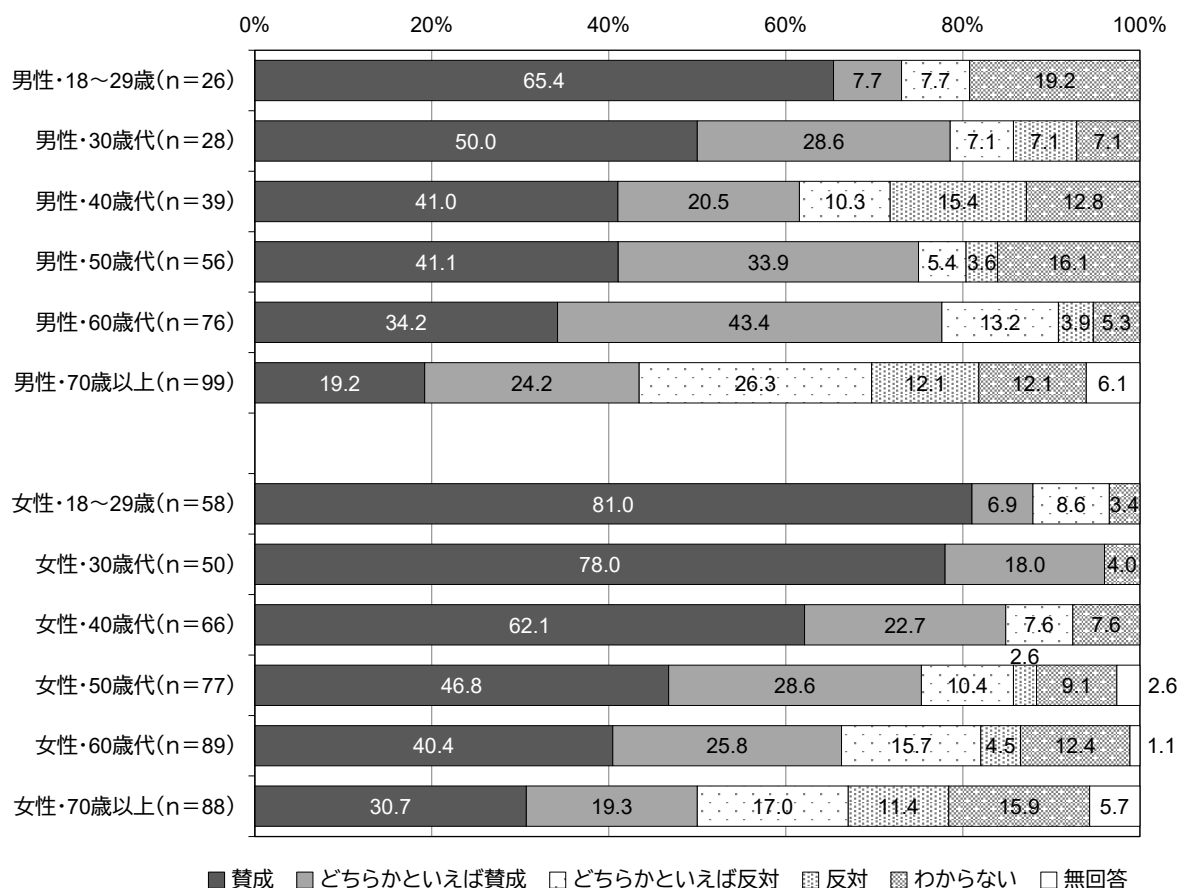


性別では、男女とも「賛成」が最も高く、男性(35.6%)は3割以上、女性(52.8%)は5割以上となっています。次いで男女とも「どちらかといえば賛成」が高く、男性(28.8%)は約3割、女性(21.0%)は2割以上となっています。

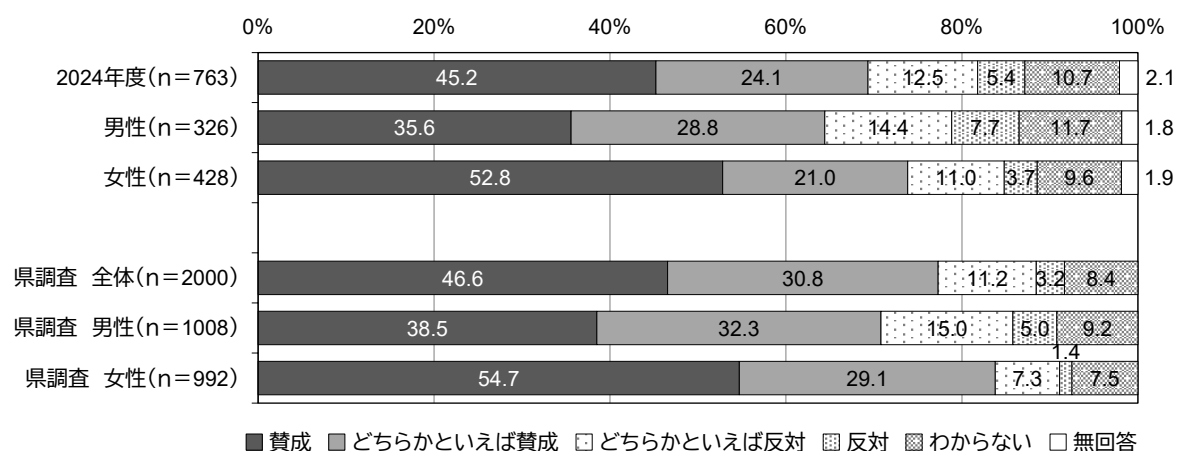
年代別では、いずれの年代も「賛成」が最も高く、次いで18~29歳を除き「どちらかといえば賛成」(70歳以上は「どちらかといえば反対」と同値で21.7%)、18~29歳は「どちらかといえば反対」「わからない」(8.2%で同値)が高くなっており、「賛成」は、若い年代ほど高くなっています。



性別×年代別では、男性は60歳代以上を除き「賛成」、60歳代は「どちらかといえば賛成」(43.4%)、70歳以上は「どちらかといえば反対」(26.3%)が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「賛成」が最も高くなっています。また、「賛成」は、男女とも概ね若い年代ほど高くなっています。



県調査と比較すると、『賛成である』(男性 64.4%、女性 73.8%)は、男女とも県調査(男性 70.8%、女性 83.8%)より低くなっています。

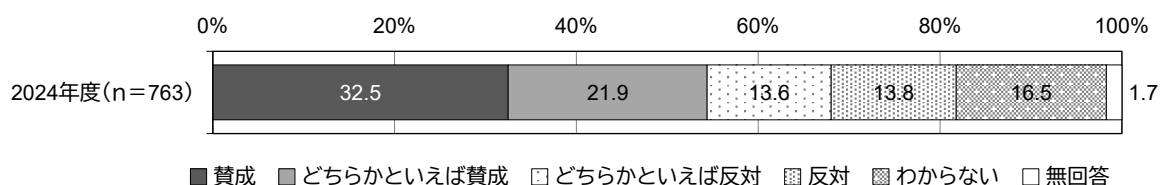


④夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認める方がよい

◆「賛成」が3割以上で最も高く、合計値『賛成である』は5割以上

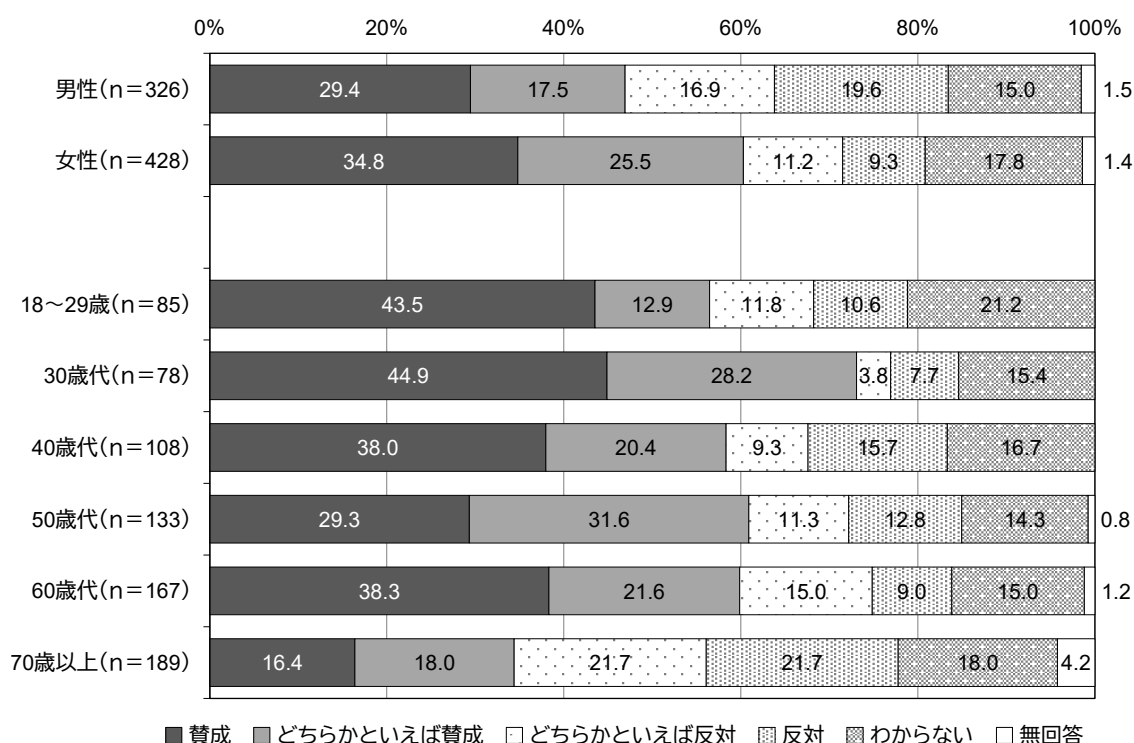
全体では、「賛成」(32.5%)が3割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(21.9%)が2割以上となっています。

合計値『賛成である』(54.4%)は5割以上となっています。

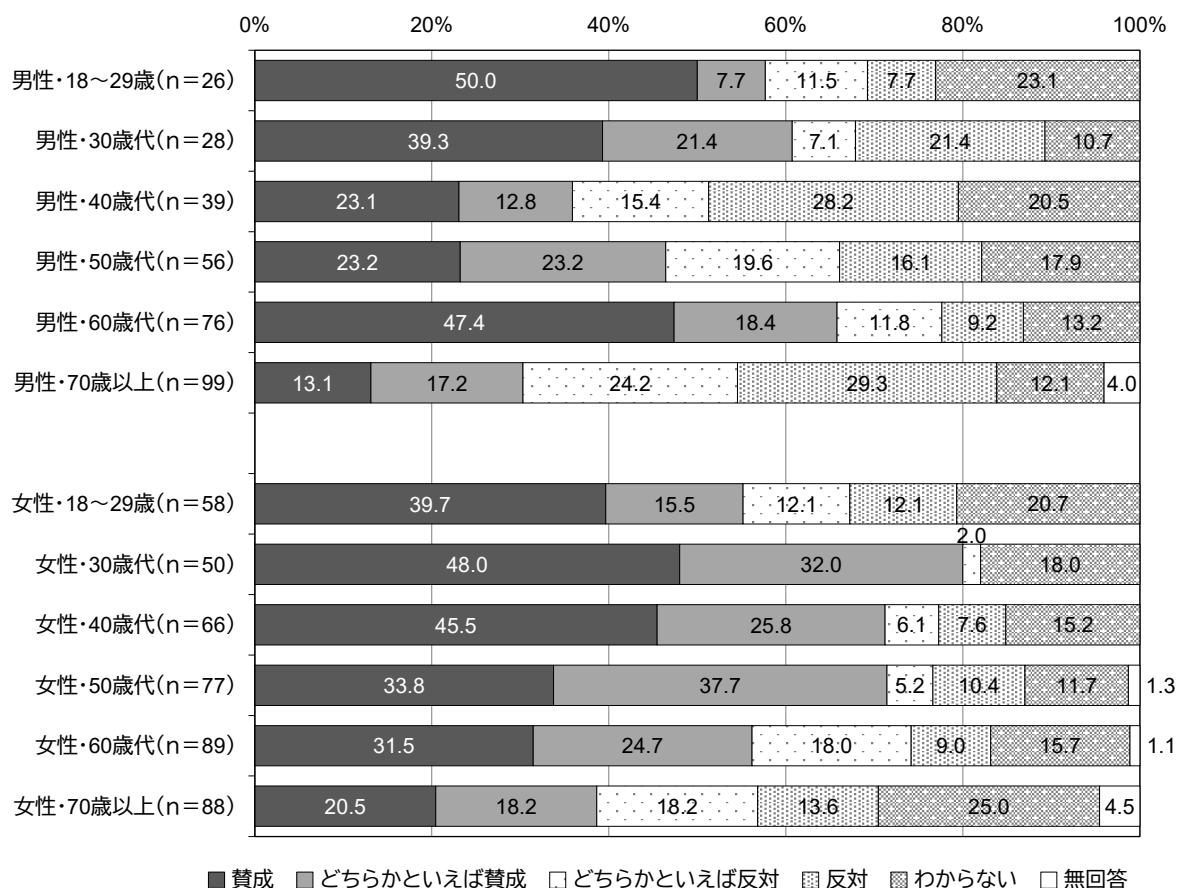


性別では、男女とも「賛成」が最も高く、男性(29.4%)は約3割、女性(34.8%)は3割以上となっています。次いで男性は「反対」(19.6%)が約2割、女性は「どちらかといえば賛成」(25.5%)が2割以上となっています。

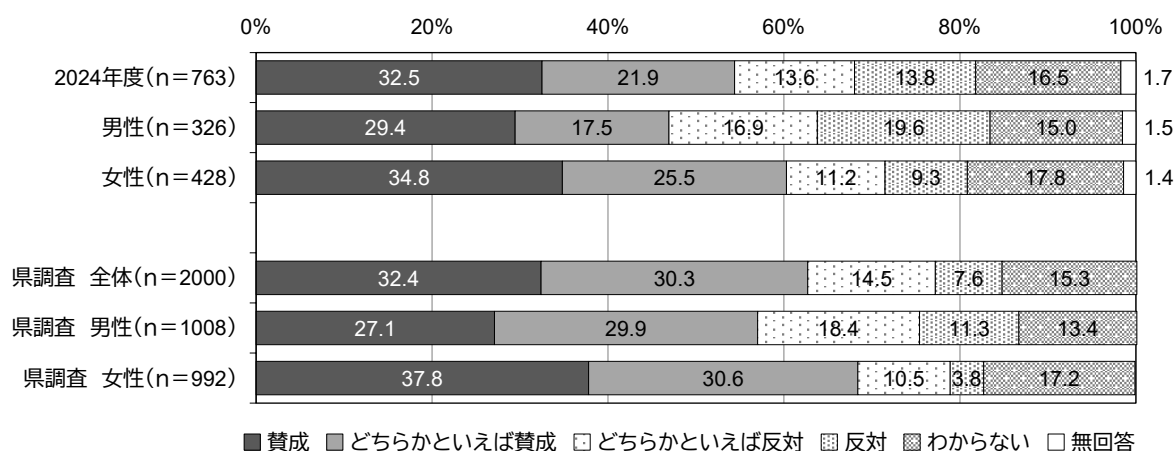
年代別では、50歳代、70歳以上を除き「賛成」、50歳代は「どちらかといえば賛成」(31.6%)、70歳以上は「どちらかといえば反対」「反対」(21.7%で同値)が最も高くなっており、「賛成」は、50歳代、70歳以上を除き約4割となっています。



性別×年代別では、男性は40歳代、70歳以上を除き「賛成」（50歳代は「どちらかといえば賛成」と同値で23.2%）、40歳代、70歳以上は「反対」（40歳代28.2%、70歳以上29.3%）が最も高くなっています。女性は、50歳代、70歳以上を除き「賛成」、50歳代は「どちらかといえば賛成」（37.7%）、70歳以上は「わからない」（25.0%）が最も高くなっています。



県調査と比較すると、『賛成である』（男性46.9%、女性60.3%）は、男女とも県調査（男性57.0%、女性68.4%）より低くなっています。

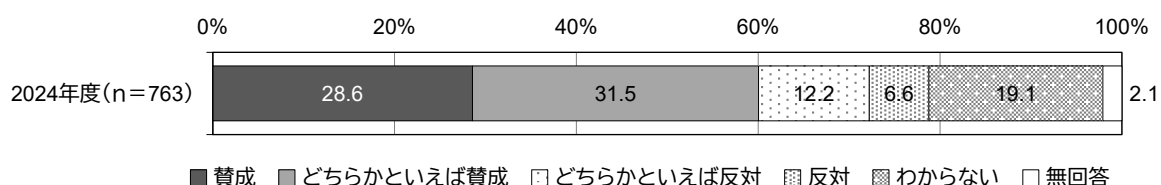


⑤法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認める方がよい

◆「賛成」「どちらかといえば賛成」が約3割で同程度に高く、合計値『賛成である』は6割以上

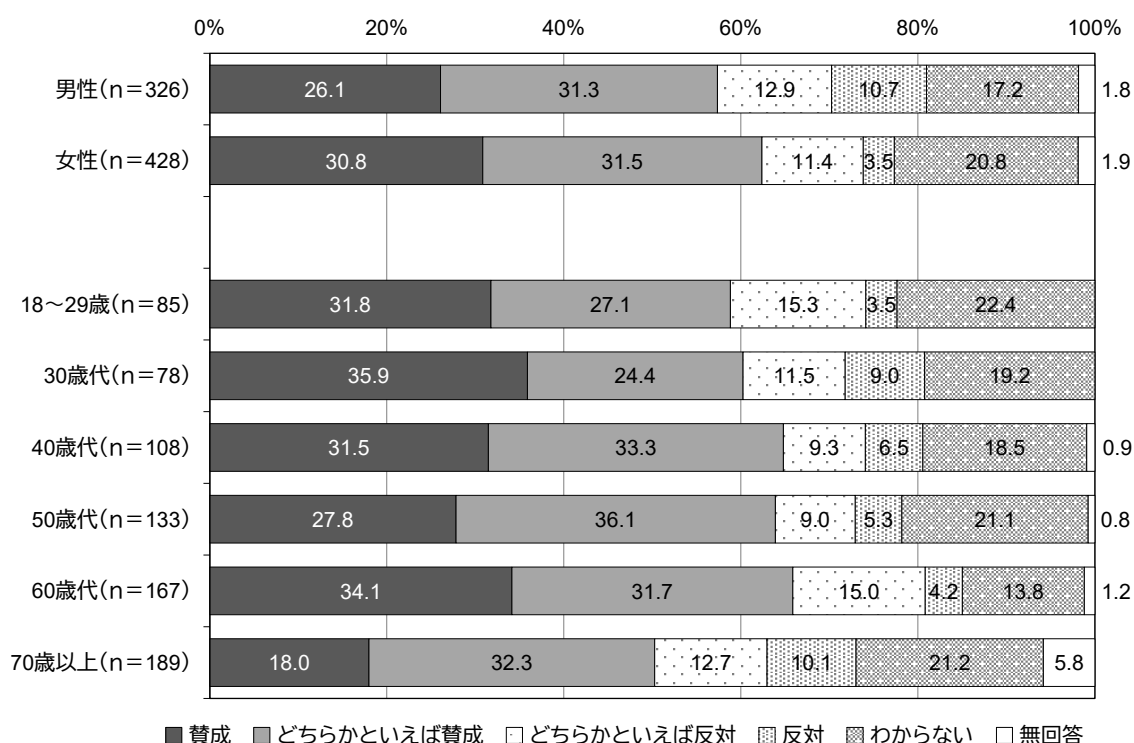
全体では、「どちらかといえば賛成」(31.5%)、「賛成」(28.6%) が約3割で同程度に高く、次いで「わからない」(19.1%) が約2割となっています。

合計値『賛成である』(60.1%) は6割以上となっています。

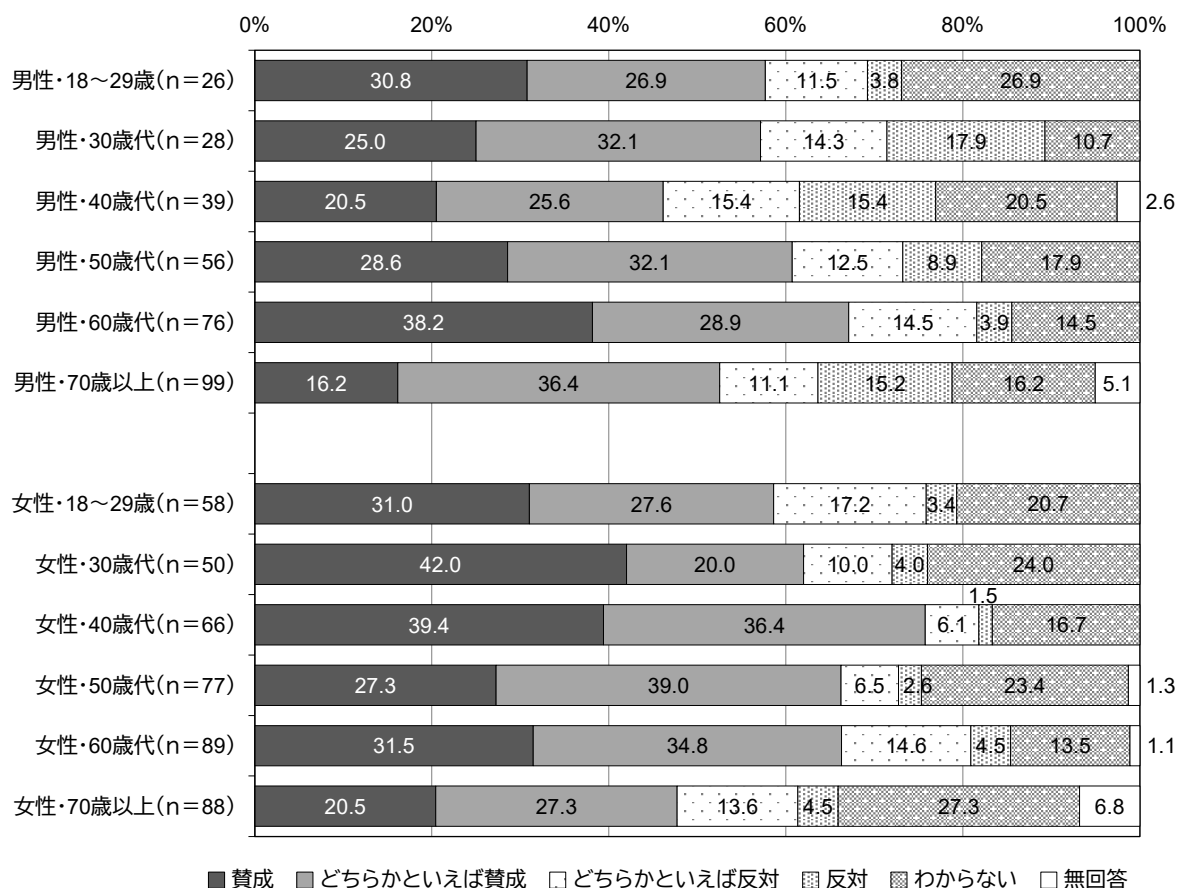


性別では、男女とも「賛成」(男性 26.1%、女性 30.8%)、「どちらかといえば賛成」(男性 31.3%、女性 31.5%) が約3割で同程度に高く、次いで「わからない」(男性 17.2%、女性 20.8%) が約2割となっています。

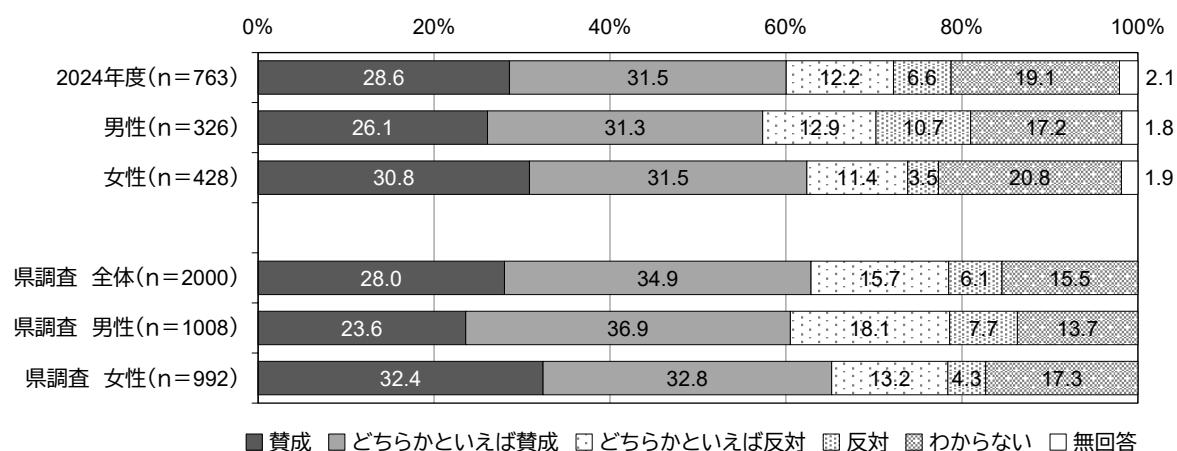
年代別では、30歳代以下、60歳代は「賛成」、40歳代、50歳代、70歳以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性は18～29歳、60歳代を除き「どちらかといえば賛成」、18～29歳、60歳代は「賛成」（18～29歳30.8%、60歳代38.2%）が最も高くなっています。女性は、40歳代以下は「賛成」、50歳代以上は「どちらかといえば賛成」（70歳以上は「わからない」と同値で27.3%）が最も高くなっています。



県調査と比較すると、『賛成である』（男性57.4%、女性62.3%）は、男女とも県調査（男性60.5%、女性65.2%）と同程度となっています。

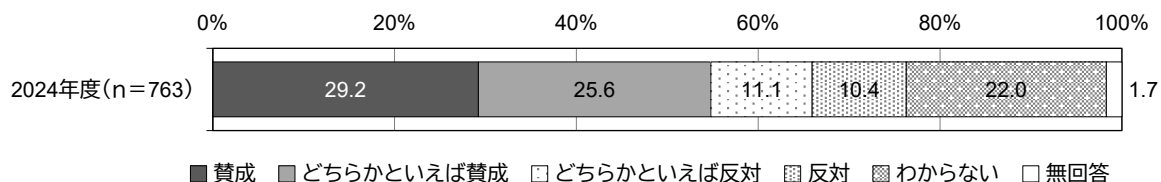


⑥同性同士の結婚も社会的に認める方がよい

◆「賛成」が約3割で最も高く、合計値『賛成である』は5割以上

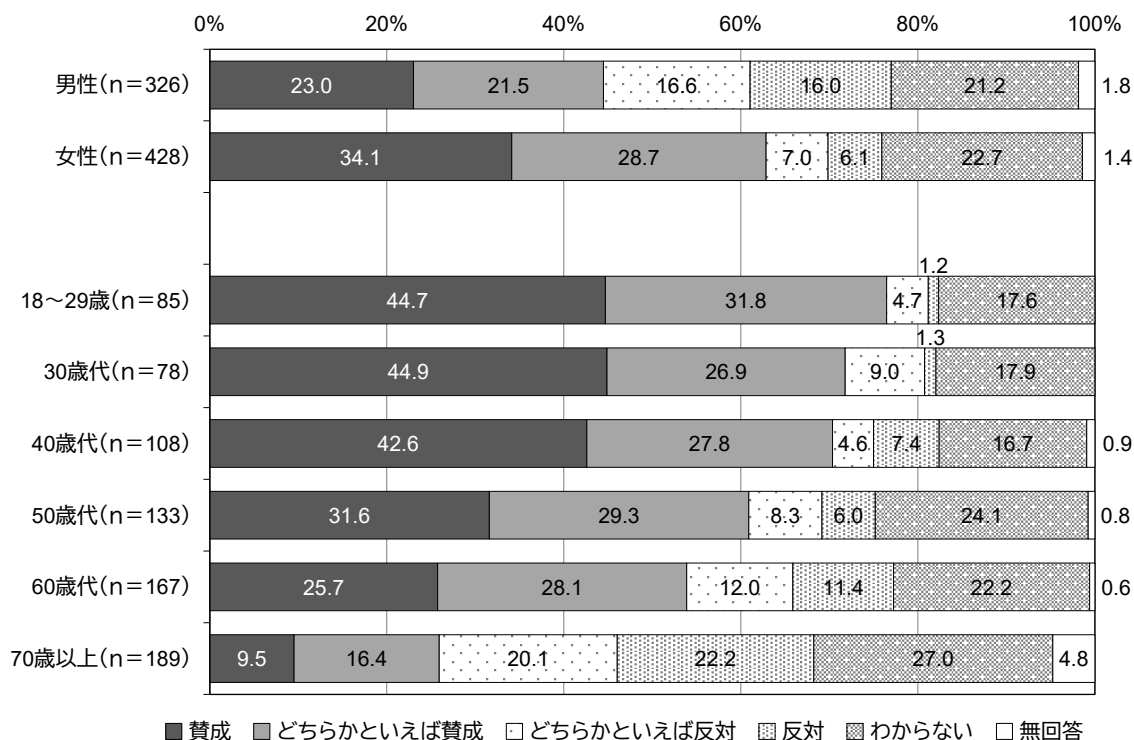
全体では、「賛成」(29.2%)が約3割で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(25.6%)、「わからない」(22.0%)が2割以上で同程度に高くなっています。

合計値『賛成である』(54.8%)は5割以上となっています。

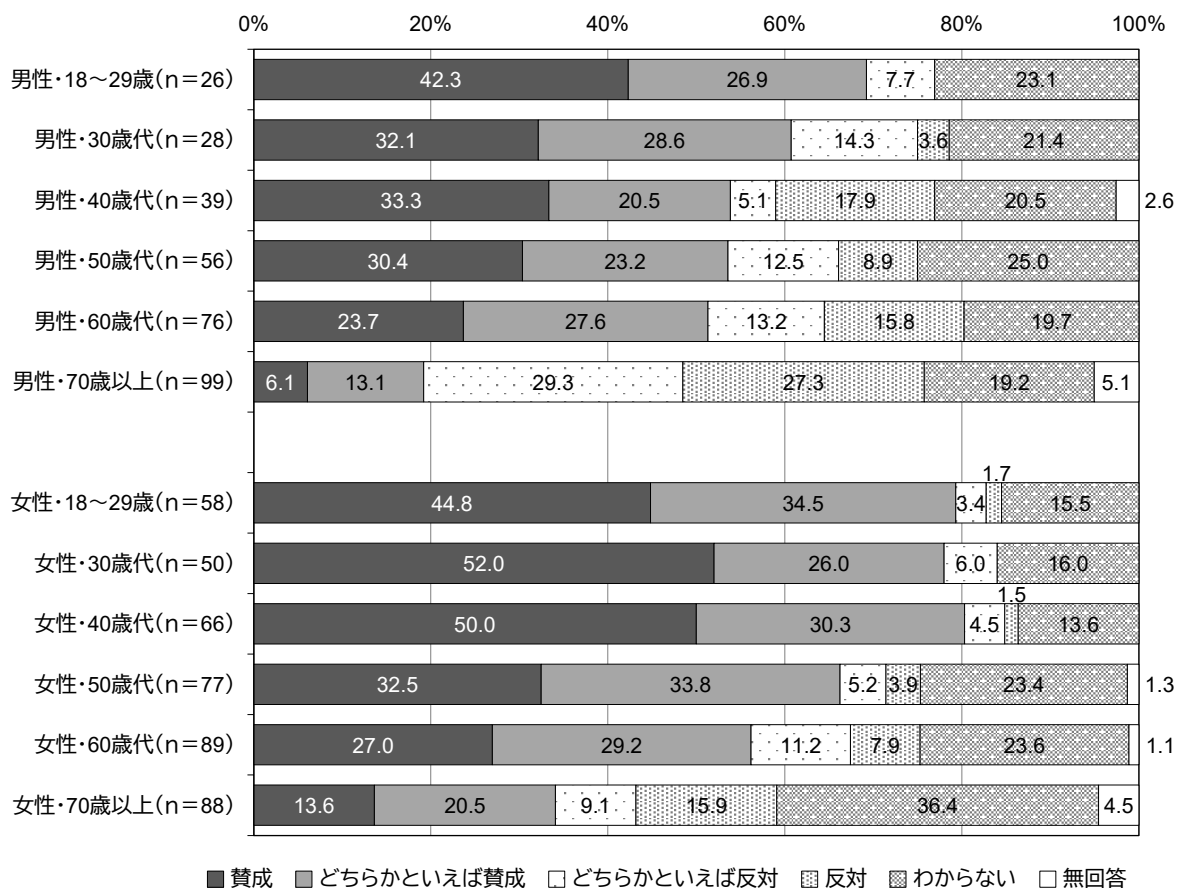


性別では、男性は「賛成」(23.0%)、「どちらかといえば賛成」(21.5%)、「わからない」(21.2%)の3項目が2割以上で同程度に高くなっています。女性は、「賛成」(34.1%)が3割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(28.7%)が約3割となっています。

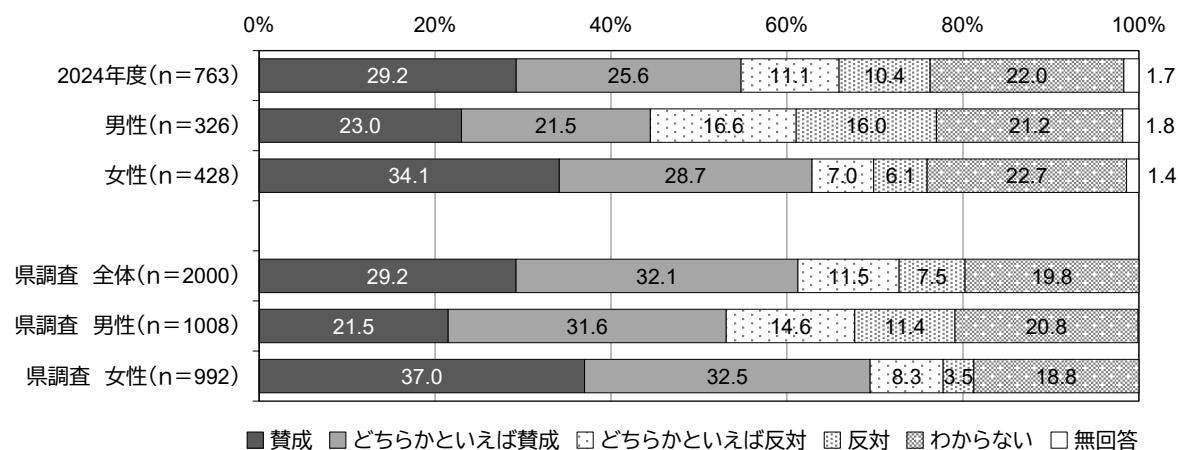
年代別では、60歳以上を除き「賛成」が最も高く、60歳代は「どちらかといえば賛成」(28.1%)、70歳以上は「わからない」(27.0%)が最も高くなっています。



性別×年代別では、男性は60歳代以上を除き「賛成」、60歳代は「どちらかといえば賛成」(27.6%)、70歳以上は「どちらかといえば反対」(29.3%)が最も高くなっています。女性は、40歳代以下は「賛成」、70歳以上は「わからない」(36.4%)が最も高く、50歳代、60歳代は「賛成」(50歳代32.5%、60歳代27.0%)、「どちらかといえば賛成」(50歳代33.8%、60歳代29.2%)が同程度に高くなっています。



県調査と比較すると、『賛成である』(男性44.5%、女性62.8%)は、男女とも県調査(男性53.1%、女性69.5%)より低くなっています。

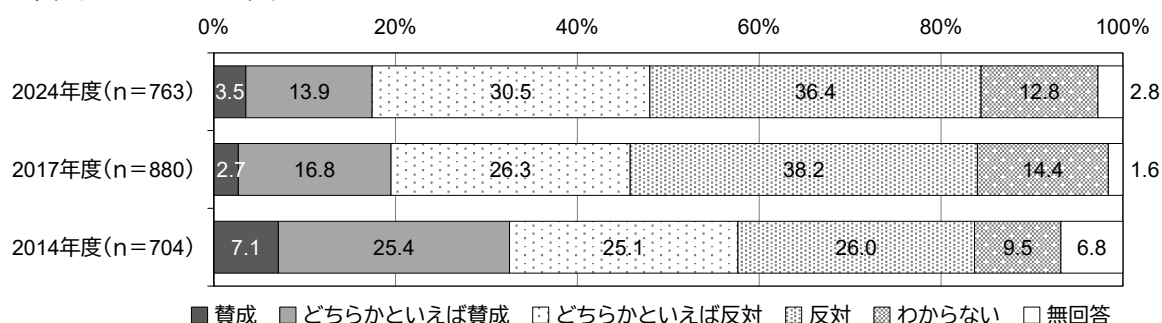


問 10 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。
(1つに○)

◆「反対」「どちらかといえば反対」の2項目が3割以上で高く、合計値『反対である』は約7割で前回と同程度、前々回より高い

全体では、「反対」(36.4%)、「どちらかといえば反対」(30.5%)が3割以上で高く、合計値『反対である』(66.9%)は約7割となっています。

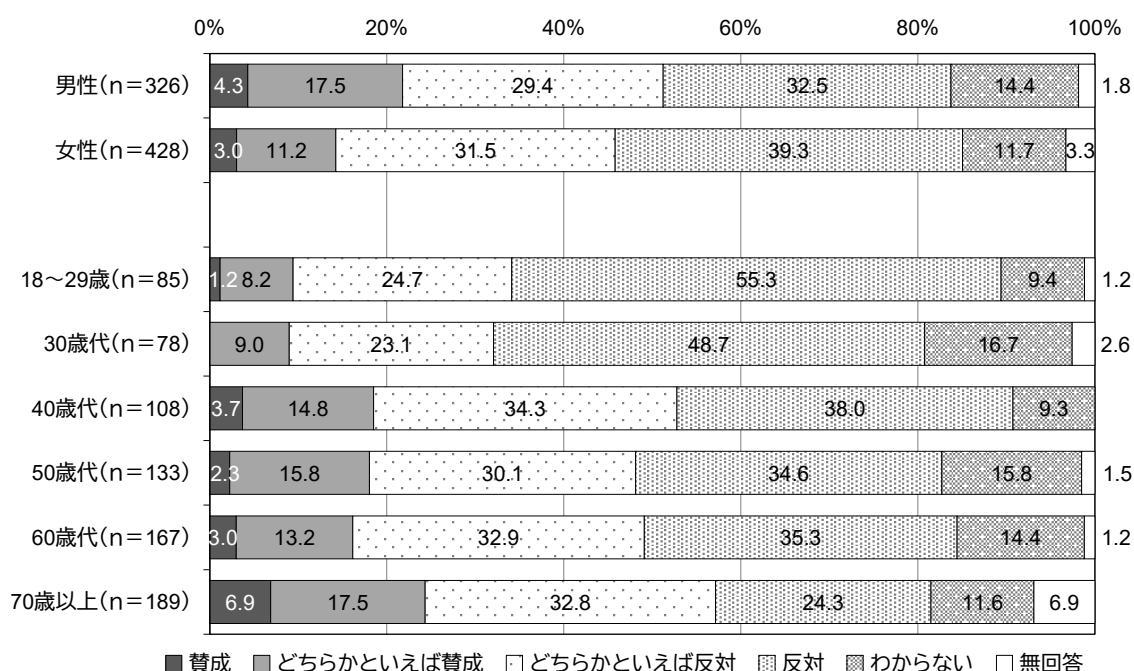
過去2回の調査と比較すると、『反対である』は前回(64.5%)と同程度、前々回(51.1%)より高くなっています。



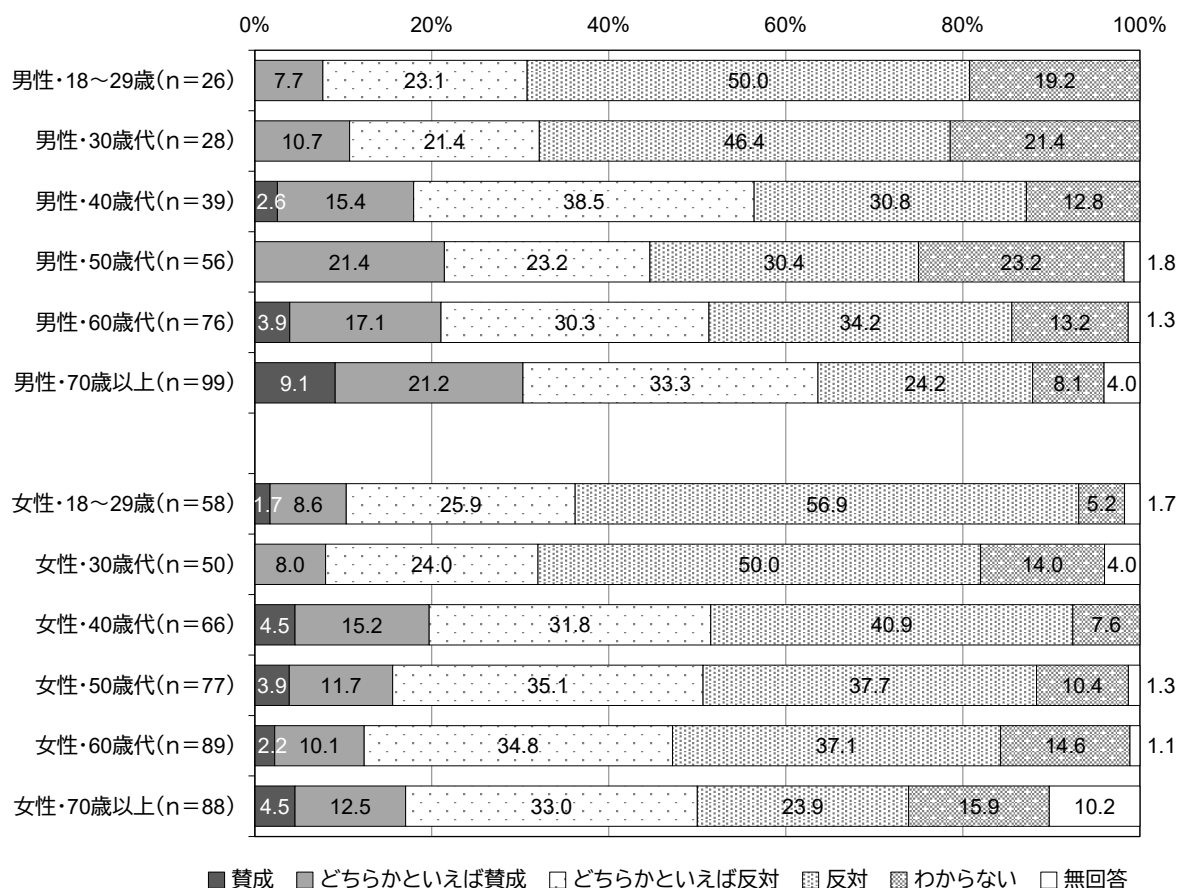
*前回調査は「そう思う」「ややそう思う」「そう思わない」「あまりそう思わない」「どちらともいえない」「わからない」の6選択肢で設定しており、「どちらともいえない」(12.6%)と「わからない」(1.8%)を合わせて表示
*前々回調査は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について設定

性別では、男性は「反対」(32.5%)、「どちらかといえば反対」(29.4%)が約3割で同程度に高く、女性は「反対」(39.3%)が約4割で最も高くなっています。

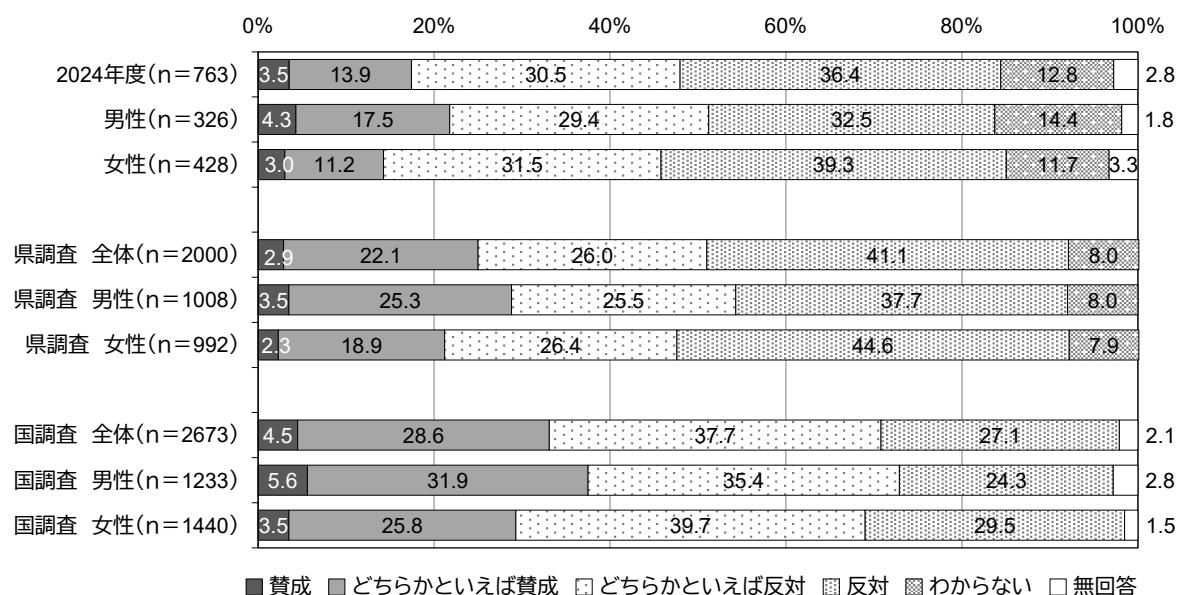
年代別では、70歳以上を除き「反対」、70歳以上は「どちらかといえば反対」(32.8%)が最も高くなっており、「反対」は、概ね若い年代ほど高くなっています。



性別×年代別では、男性は40歳代、70歳以上を除き「反対」、40歳代、70歳以上は「どちらかといえば反対」（40歳代38.5%、70歳以上33.3%）が最も高くなっています。女性は、70歳以上を除き「反対」、70歳以上は「どちらかといえば反対」（33.0%）が最も高く、「反対」は、男女とも概ね若い年代ほど高くなっています。



県や国の調査と比較すると、選択肢が異なることを考慮する必要がありますが、『反対である』（男性 61.9%、女性 70.8%）は、県調査（男性 63.2%、71.0%）や国調査（男性 59.7%、女性 69.2%）と同程度となっています。



* 県調査は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」の5選択肢で設定

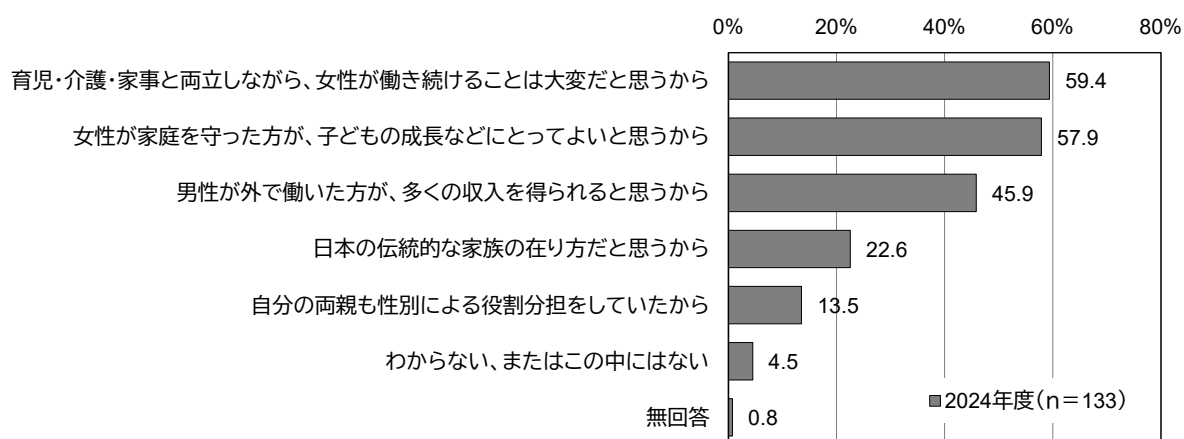
* 国調査は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」の4選択肢で設定

**問 11 「男は仕事、女は家庭」という考え方について賛成と思うのはなぜですか。
(あてはまるもの全てに○)**

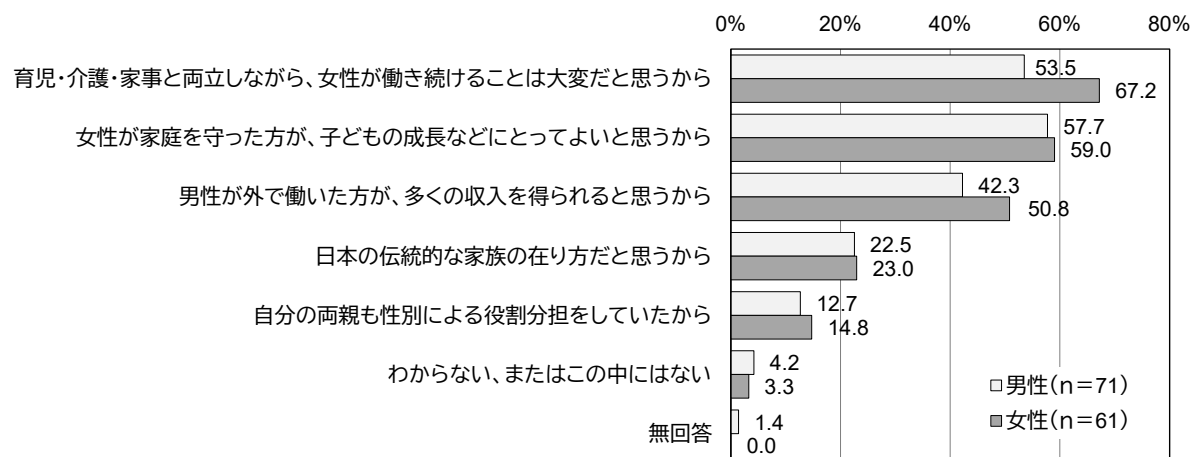
(問 10 で「男は仕事、女は家庭」について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した場合限定)

◆「育児・介護・家事と両立しながら女性が働き続けることは大変」「女性が家庭を守った方が子どもの成長などにとってよい」が約6割で同程度に高い

全体では、「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(59.4%)、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」(57.9%)が約6割で同程度に高く、次いで「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(45.9%)が4割以上となっています。



性別では、男性は「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」(57.7%)が約6割、女性は「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(67.2%)が約7割で最も高くなっています。次いで男性は「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(53.5%)が5割以上、女性は「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」(59.0%)が約6割となっています。



年代別では、30 歳以下の回答者数が少ないため、40 歳以上で見ると、60 歳代を除き「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」（40 歳代は「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」と同値で 60.0%）、60 歳代は「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」（77.8%）が最も高くなっています。

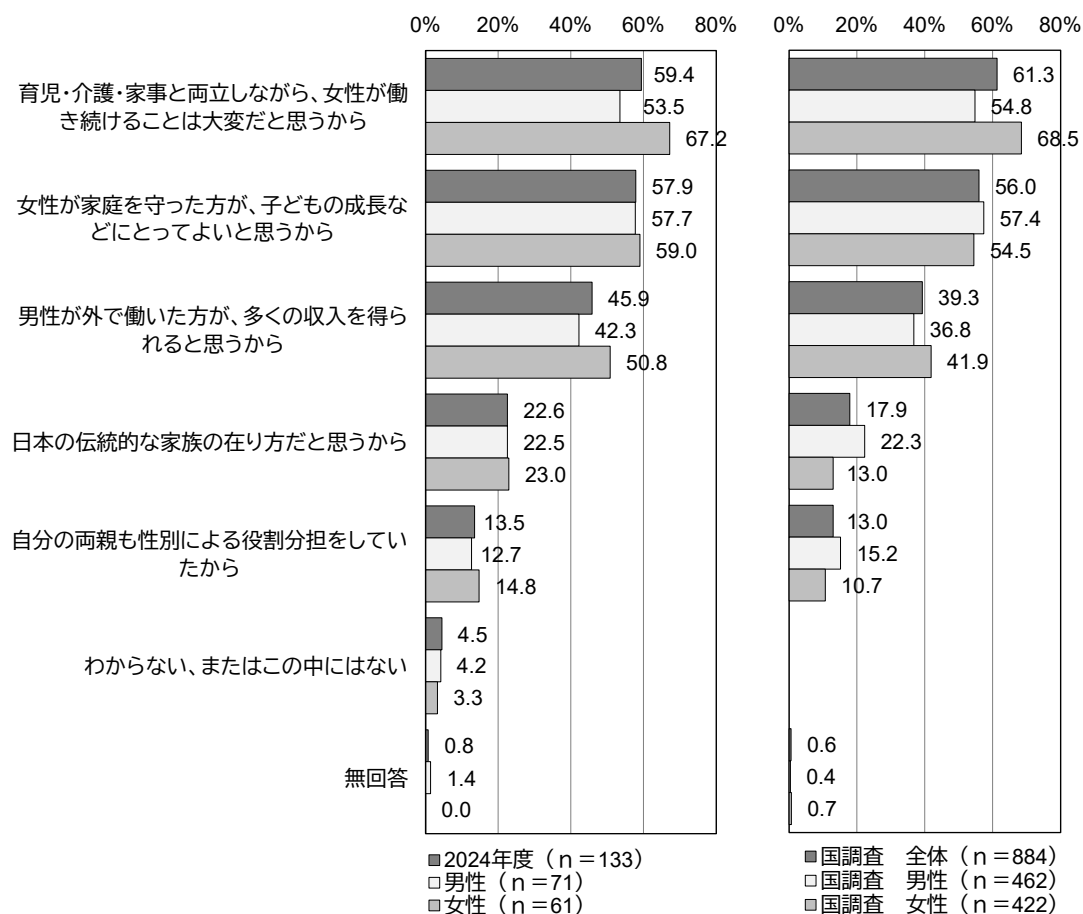
	【参考】 18～ 29 歳	【参考】 30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	8	7	20	24	27	46
育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	62.5	71.4	60.0	58.3	51.9	63.0
女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから	50.0	57.1	55.0	54.2	77.8	52.2
男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	50.0	42.9	60.0	45.8	51.9	34.8
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	12.5	14.3	15.0	8.3	22.2	37.0
自分の両親も性別による役割分担をしていたから	12.5	28.6	15.0	4.2	7.4	19.6
わからない、またはこの中にはない	12.5	0.0	10.0	4.2	3.7	2.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2

*各年代で最も高い値を網掛け表示

性別×年代別では、年代によって回答者数が少ないため、参考に表示します。

【参考】	男性						女性					
	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	2	3	7	12	16	30	6	4	13	12	11	15
育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	100.0	66.7	71.4	41.7	50.0	53.3	50.0	75.0	53.8	75.0	54.5	86.7
女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから	0.0	100.0	28.6	50.0	81.3	56.7	66.7	25.0	69.2	58.3	72.7	46.7
男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	50.0	0.0	42.9	66.7	43.8	33.3	50.0	75.0	69.2	25.0	63.6	40.0
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	0.0	33.3	14.3	8.3	25.0	30.0	16.7	0.0	15.4	8.3	18.2	53.3
自分の両親も性別による役割分担をしていたから	0.0	66.7	14.3	8.3	6.3	13.3	16.7	0.0	15.4	0.0	9.1	33.3
わからない、またはこの中にはない	0.0	0.0	14.3	8.3	6.3	0.0	16.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

国調査と比較すると、本調査と同様に、男性は「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」（本調査 57.7%、国調査 57.4%）、女性は「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」（本調査 67.2%、国調査 68.5%）が最も高くなっています。



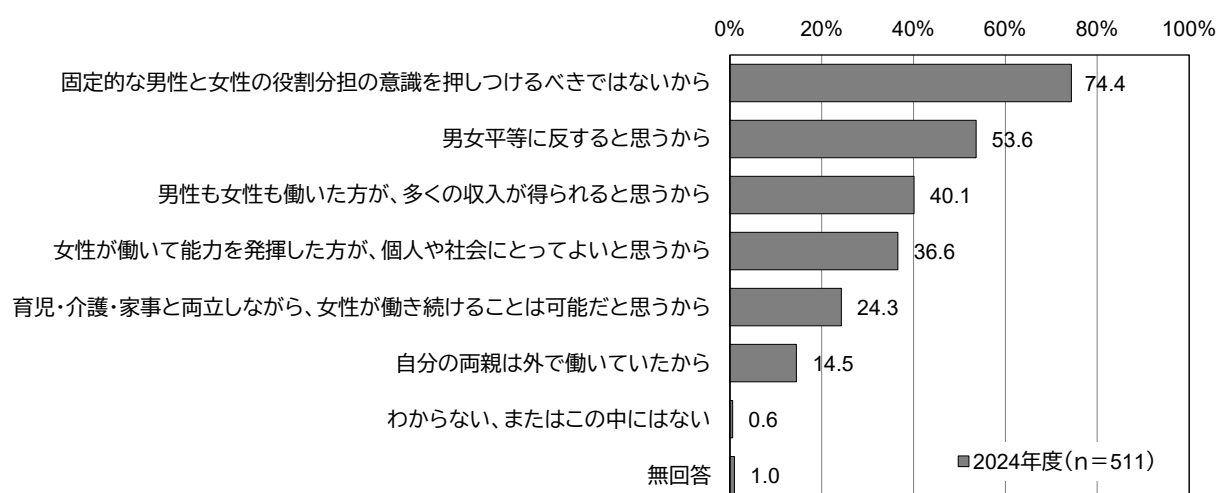
* 国調査は5選択肢で設定。本調査の選択肢と同様の選択肢のみを表示

**問 12 「男は仕事、女は家庭」という考え方について反対と思うのはなぜですか。
(あてはまるもの全てに○)**

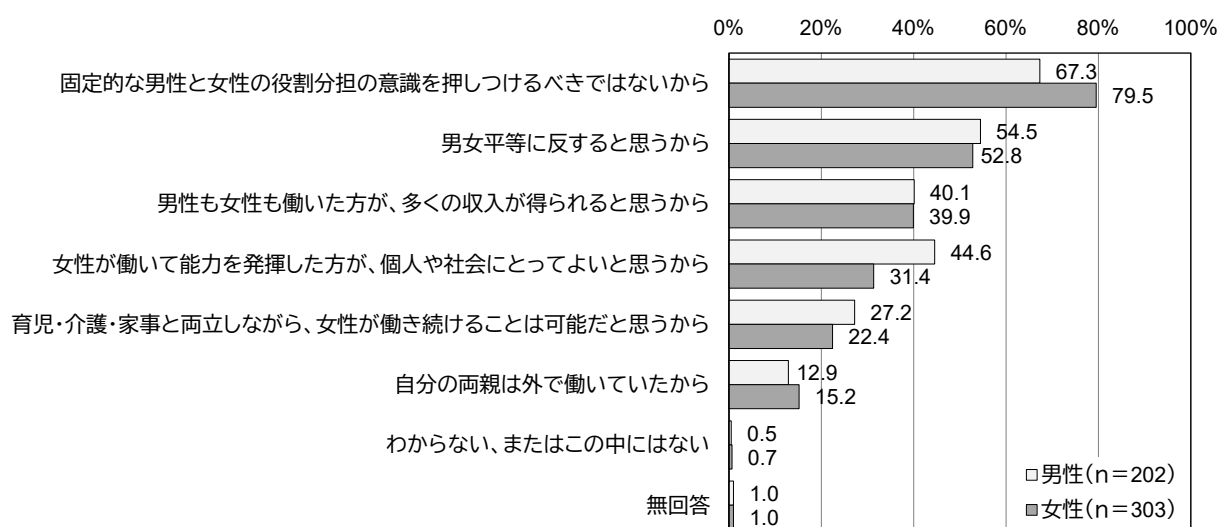
(問 10 で「男は仕事、女は家庭」について「どちらかといえば反対」または「反対」と回答した場合限定)

◆「**固定的な男性・女性の役割分担意識を押し付けるべきでないから**」が7割以上で最も高く、次いで「**男女平等に反するから**」が5割以上

全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」(74.4%)が7割以上で最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」(53.6%)が5割以上となっています。



性別では、男女とも「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も高く、男性 (67.3%) は約7割、女性 (79.5%) は約8割となっています。次いで男女とも「男女平等に反すると思うから」(男性 54.5%、女性 52.8%) が5割以上となっています。



年代別では、いずれの年代も「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も高くなっています。

	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	68	56	78	86	114	108
固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	82.4	83.9	66.7	79.1	77.2	63.0
男女平等に反すると思うから	55.9	53.6	46.2	53.5	56.1	55.6
男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	39.7	35.7	47.4	43.0	31.6	44.4
女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから	25.0	25.0	28.2	37.2	43.9	48.1
育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	20.6	21.4	19.2	26.7	26.3	27.8
自分の両親は外で働いていたから	23.5	19.6	19.2	15.1	11.4	5.6
わからない、またはこの中にはない	1.5	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9
無回答	0.0	1.8	1.3	0.0	1.8	0.9

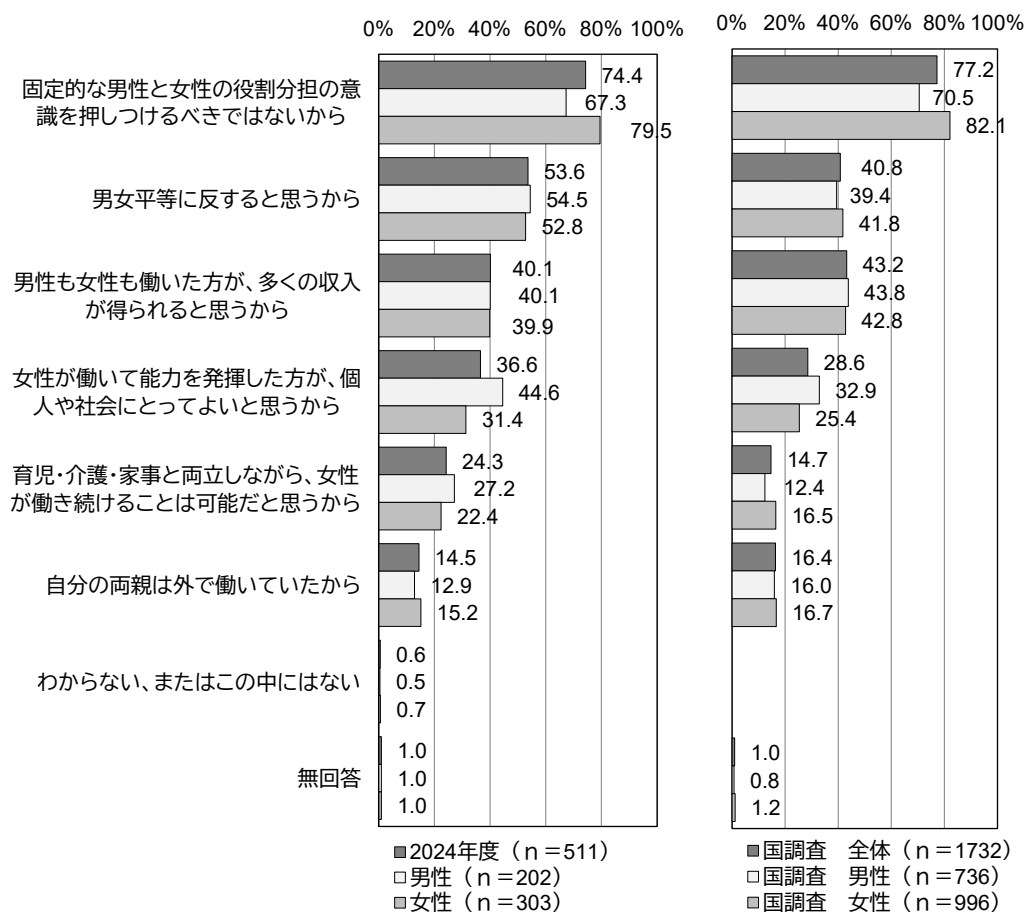
*各年代で最も高い値を網掛け表示

性別×年代別では、男性 40 歳代を除き「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、男性 40 歳代は「男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」（55.6%）が最も高くなっています。

	男性						女性					
	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	19	19	27	30	49	57	48	37	48	56	64	50
固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	84.2	68.4	51.9	70.0	69.4	64.9	81.3	91.9	77.1	83.9	82.8	62.0
男女平等に反すると思うから	52.6	57.9	29.6	56.7	67.3	54.4	56.3	51.4	54.2	51.8	48.4	56.0
男性も女性も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	42.1	42.1	55.6	50.0	24.5	40.4	37.5	32.4	41.7	39.3	37.5	50.0
女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから	31.6	36.8	44.4	36.7	49.0	52.6	20.8	18.9	20.8	37.5	39.1	44.0
育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	26.3	10.5	22.2	33.3	26.5	33.3	18.8	27.0	16.7	23.2	26.6	22.0
自分の両親は外で働いていたから	31.6	10.5	14.8	23.3	10.2	3.5	20.8	24.3	18.8	10.7	12.5	8.0
わからない、またはこの中にはない	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
無回答	0.0	5.3	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	2.0

*各年代で最も高い値を網掛け表示

国調査と比較すると、本調査と同様に、男女とも「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」（本調査：男性 67.3%、女性 79.5%、国調査：男性 70.5%、女性 82.1%）が最も高くなっています。



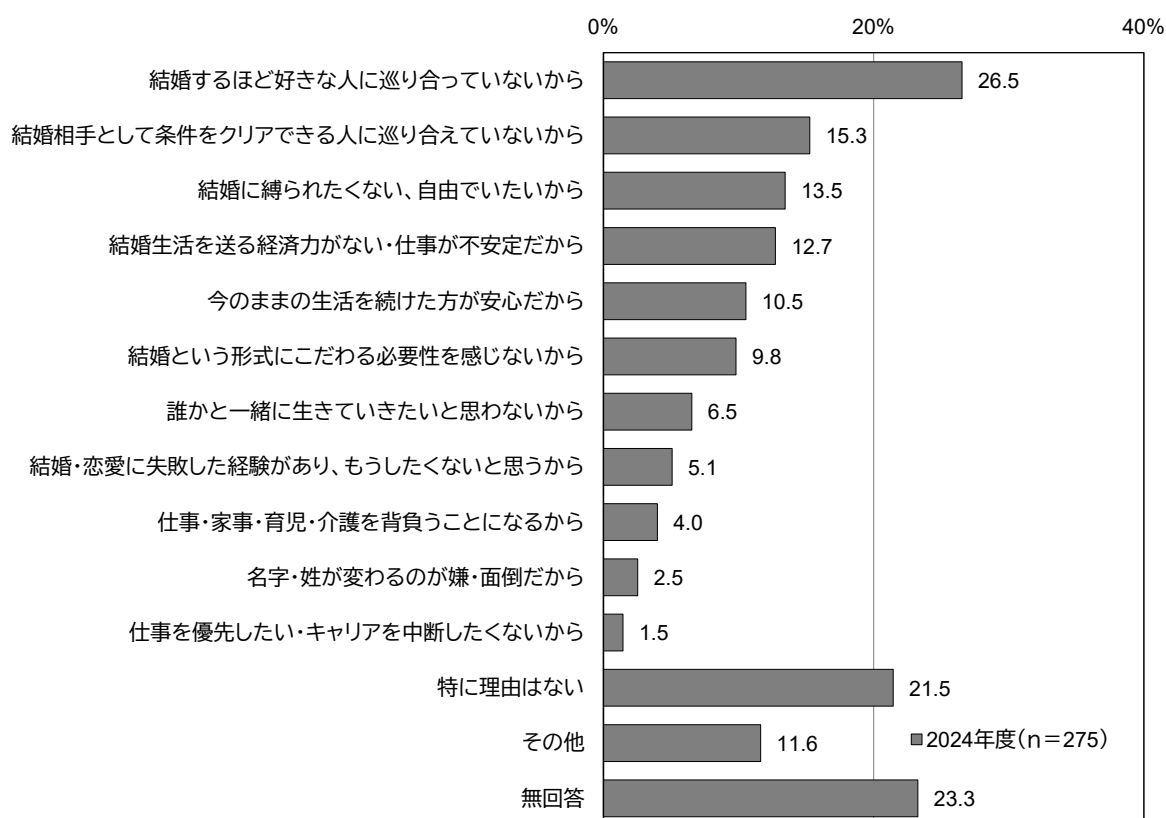
* 国調査は6選択肢で設定。本調査の選択肢と同様の選択肢のみを表示

**問 13 結婚をしていない理由として、あてはまるものはどれですか。
(あてはまるもの全てに○)**

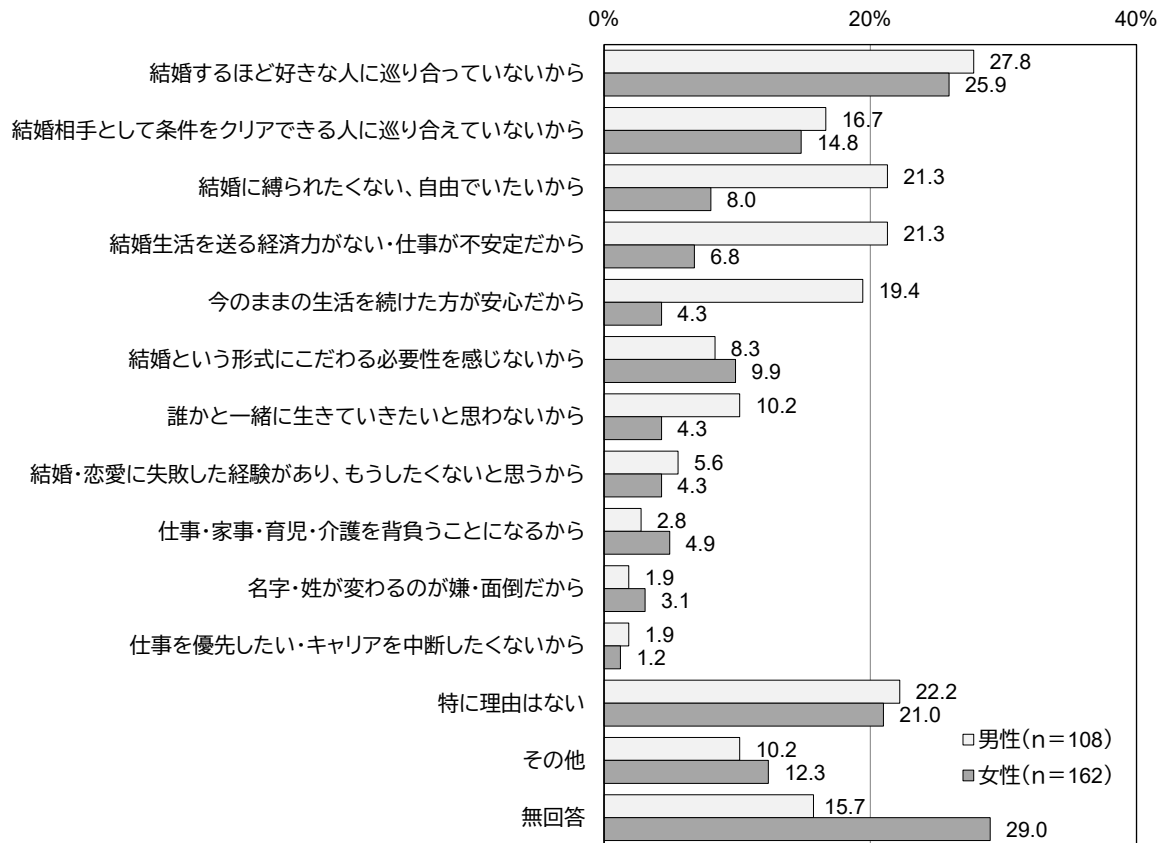
(問 1(6)で「以前は結婚していたが、現在はしていない(離別・死別)」または「結婚していない」と回答した場合限定)

◆「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」「特に理由はない」の2項目が2割以上で比較的高い

全体では、「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」(26.5%)が約3割で最も高く、次いで「特に理由はない」(21.5%)が2割以上となっています。



性別では、男女とも「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」が最も高く、男性（27.8%）は約3割、女性（25.9%）は2割以上となっています。次いで男性は「特に理由はない」（22.2%）、「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」（21.3%で同値）、「今のままの生活が続けた方が安心だから」（19.4%）の4項目が約2割で同程度、女性は「特に理由はない」（21.0%）が2割以上となっています。



年代別では、無回答が特に多い70歳以上を除き、50歳代以下は「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」、60歳代は「特に理由はない」（25.6%）が最も高くなっています。

	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	75	27	33	38	39	61
結婚するほど好きな人に巡り合っていないから	38.7	40.7	30.3	28.9	17.9	8.2
結婚相手として条件をクリアできる人に巡り合えていないから	20.0	33.3	18.2	7.9	10.3	8.2
結婚に縛られたくない、自由でいたいから	17.3	33.3	9.1	23.7	5.1	1.6
結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから	16.0	25.9	15.2	15.8	2.6	6.6
今のままの生活が続けた方が安心だから	10.7	22.2	15.2	10.5	2.6	8.2
結婚という形式にこだわる必要性を感じないから	8.0	18.5	27.3	18.4	0.0	0.0
誰かと一緒に生きていきたいと思わないから	8.0	11.1	6.1	10.5	2.6	3.3
結婚・恋愛に失敗した経験があり、もうしたくないと思うから	5.3	7.4	9.1	7.9	0.0	3.3
仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから	6.7	11.1	6.1	0.0	2.6	0.0
名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから	1.3	3.7	9.1	2.6	2.6	0.0
仕事を優先したい・キャリアを中断したくないから	2.7	3.7	3.0	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	26.7	18.5	21.2	18.4	25.6	13.1
その他	21.3	11.1	15.2	15.8	5.1	0.0
無回答	2.7	3.7	3.0	7.9	41.0	67.2

*各年代（70歳以上を除く）で最も高い値を網掛け表示

性別×年代別では、無回答が特に多い男性 70 歳以上、女性 60 歳以上と回答者が少ない男性 40 歳代を除き、男女とも「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」（男性 18～29 歳は「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」「特に理由はない」と同値で 29.2%、男性 30 歳代は「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」と同値で 38.5%）が最も高くなっています。

	男性						女性					
	18～ 29 歳	30 歳代	【参考】 40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	18～ 29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
n	24	13	9	17	17	26	50	14	22	21	21	34
結婚するほど好きな 人に巡り合っていない から	29.2	38.5	22.2	35.3	35.3	15.4	44.0	42.9	31.8	23.8	4.8	2.9
結婚相手として条件を クリアできる人に巡り 合えていないから	12.5	30.8	11.1	11.8	17.6	19.2	24.0	35.7	22.7	4.8	4.8	0.0
結婚に縛られたく ない、自由でいたいから	29.2	38.5	33.3	29.4	11.8	3.8	10.0	28.6	0.0	19.0	0.0	0.0
結婚生活を送る経済 力がない・仕事が不安 定だから	25.0	38.5	33.3	23.5	5.9	15.4	10.0	14.3	9.1	9.5	0.0	0.0
今のままの生活を続 けた方が安心だから	20.8	23.1	44.4	17.6	5.9	19.2	4.0	21.4	4.5	4.8	0.0	0.0
結婚という形式にこだ わる必要性を感じな いから	12.5	7.7	22.2	17.6	0.0	0.0	4.0	28.6	27.3	19.0	0.0	0.0
誰かと一緒に生きて いきたいと思わない から	16.7	23.1	0.0	5.9	5.9	7.7	4.0	0.0	9.1	14.3	0.0	0.0
結婚・恋愛に失敗した 経験があり、もうした くないと思うから	12.5	7.7	11.1	5.9	0.0	0.0	2.0	7.1	9.1	9.5	0.0	2.9
仕事・家事・育児・介護を 背負うことになるから	4.2	7.7	11.1	0.0	0.0	0.0	8.0	14.3	4.5	0.0	4.8	0.0
名字・姓が変わるのが 嫌・面倒だから	0.0	0.0	11.1	5.9	0.0	0.0	2.0	7.1	9.1	0.0	4.8	0.0
仕事を優先したい・キ ャリアを中断したくな いから	4.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	2.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	29.2	15.4	11.1	23.5	23.5	15.4	26.0	21.4	22.7	14.3	28.6	11.8
その他	12.5	15.4	11.1	23.5	5.9	0.0	26.0	7.1	18.2	9.5	0.0	0.0
無回答	4.2	0.0	0.0	0.0	17.6	50.0	2.0	7.1	4.5	14.3	61.9	82.4

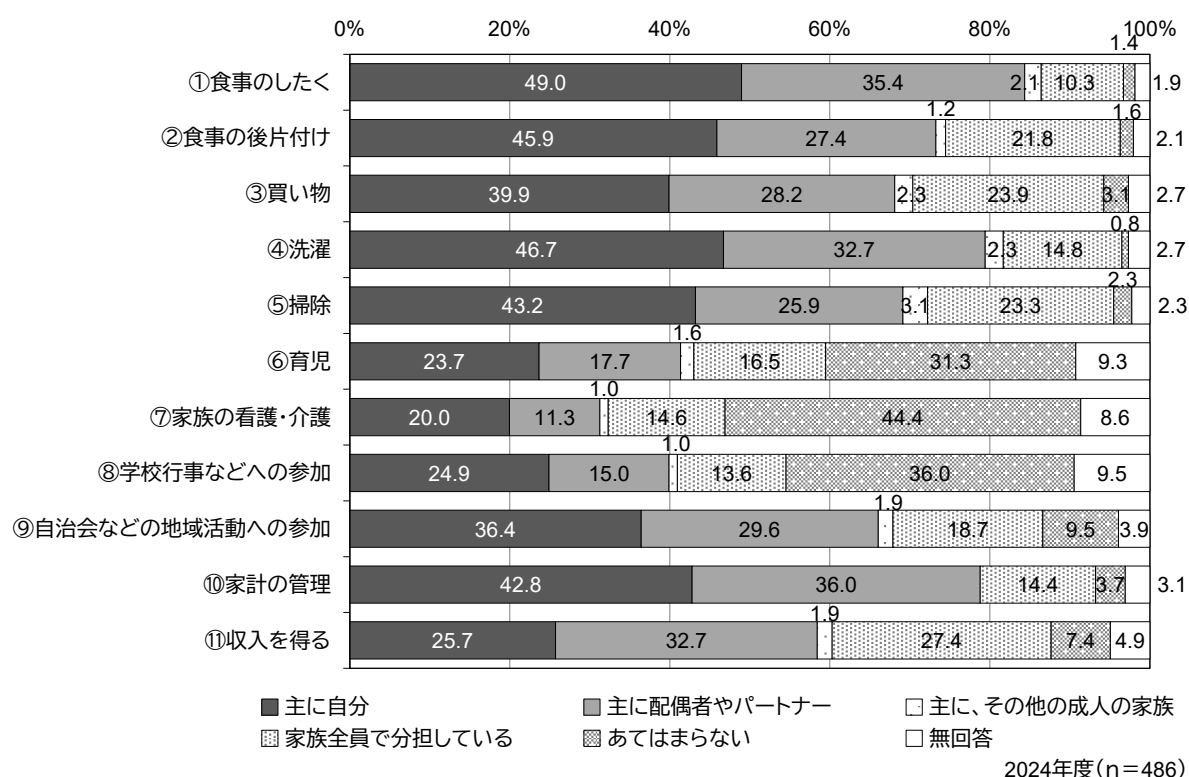
*各年代（男女 70 歳以上を除く）で最も高い値を網掛け表示

問 14 現在あなたの家庭では、次のような役割を主に誰が担っていますか。
(それぞれ1つに○)

(問 1(6)で「結婚している(事実婚を含む)」と回答した場合限定)

◆「育児」「家族の看護・介護」「学校行事などへの参加」は「あてはまらない」、
「収入を得る」は「主に配偶者やパートナー」、他の項目はいずれも「主に自分」
が最も高い

全体では、「⑥育児」「⑦家族の看護・介護」「⑧学校行事などへの参加」「⑪収入を得る」の
4項目を除き「主に自分」、「⑥育児」「⑦家族の看護・介護」「⑧学校行事などへの参加」は
「あてはまらない」(それぞれ31.3%、44.4%、36.0%)、「⑪収入を得る」は「主に配偶者や
パートナー」(32.7%)が最も高くなっています。



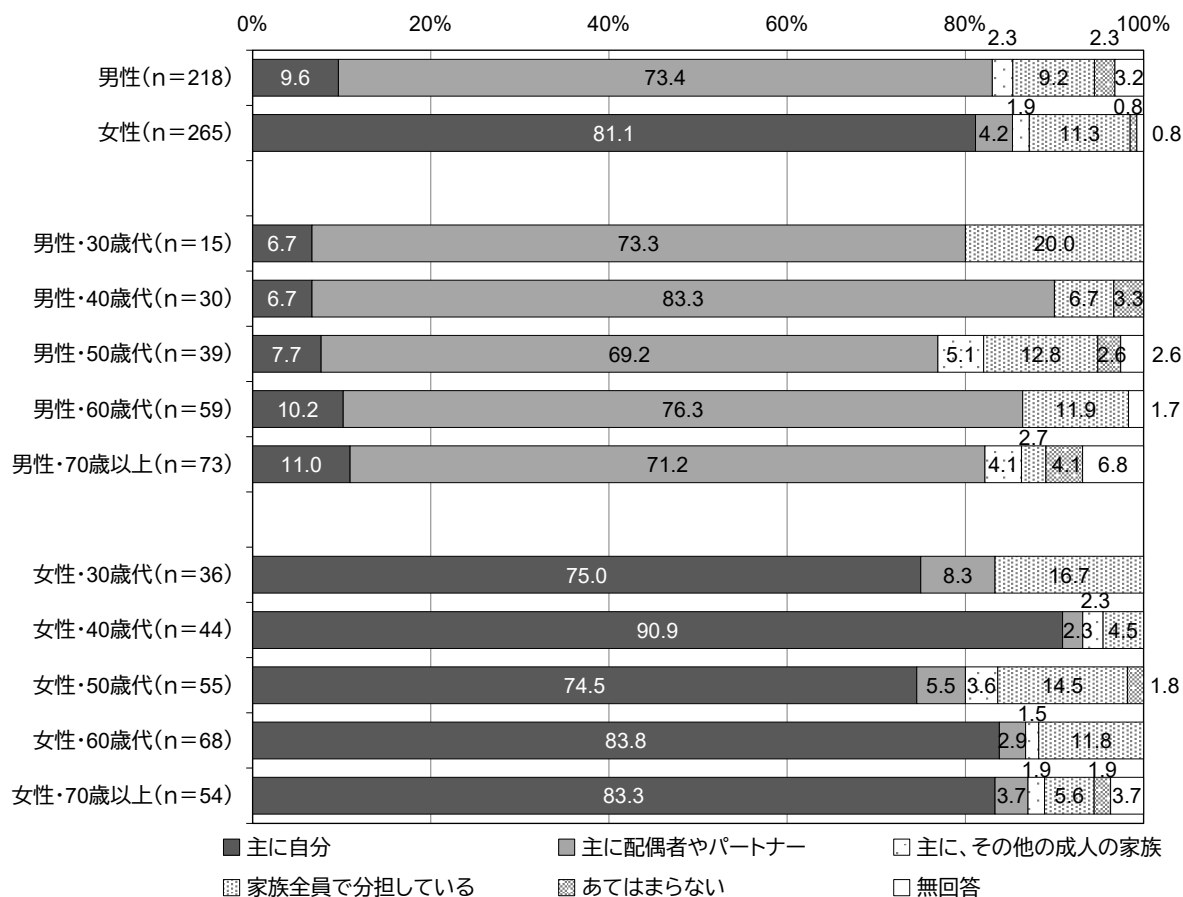
家庭での役割①～⑪について、性別及び性別×年代別による分担の状況を見えます。

①食事のしたく

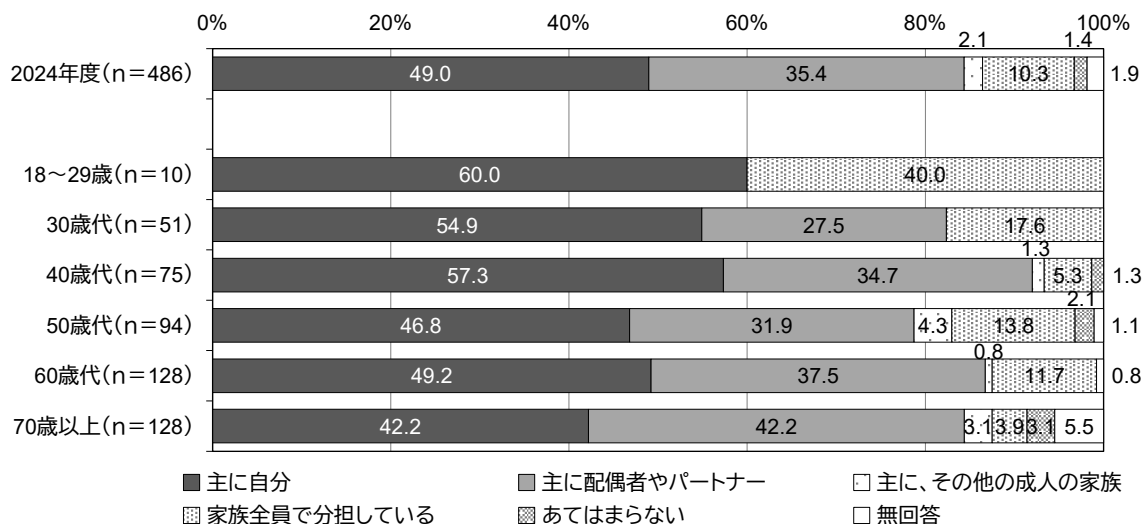
◆男性は「主に配偶者やパートナー」が7割以上、女性は「主に自分」が8割以上で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」（73.4%）が7割以上、女性は「主に自分」（81.1%）が8割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、いずれの年代も男性は「主に配偶者やパートナー」、女性は「主に自分」が高くなっています。



*男女とも18～29歳は回答者数が10人未満のため非表示（⑩まで同じ）

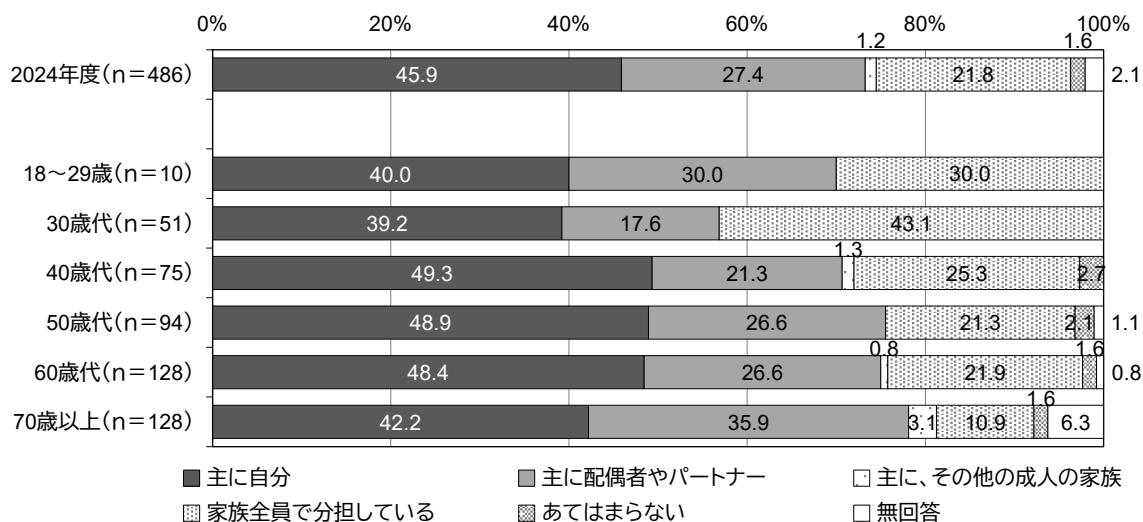
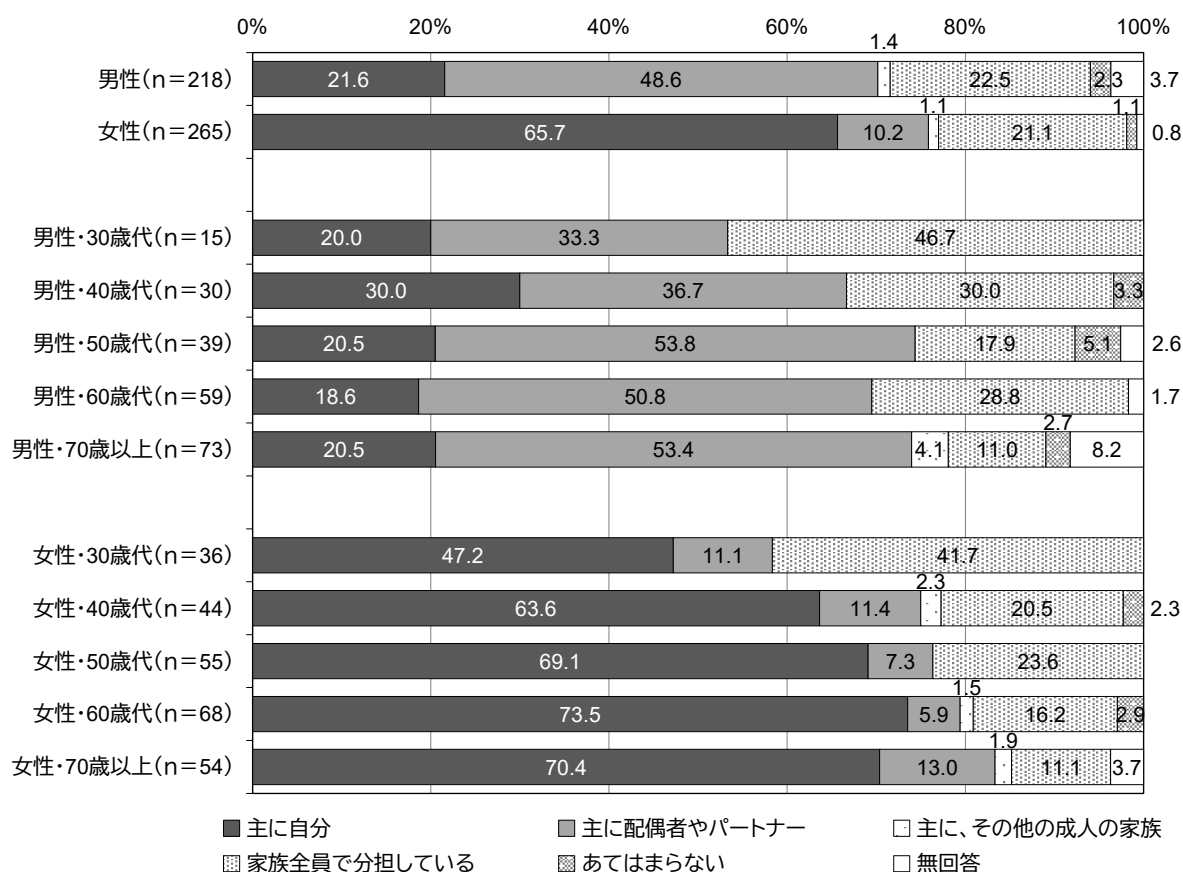


②食事の後片付け

◆男性は「主に配偶者やパートナー」が約5割、女性は「主に自分」が6割以上で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」(48.6%)が約5割、女性は「主に自分」(65.7%)が6割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、男性は30歳代を除き「主に配偶者やパートナー」、30歳代は「家族全員で分担している」(46.7%)が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「主に自分」が最も高くなっています。

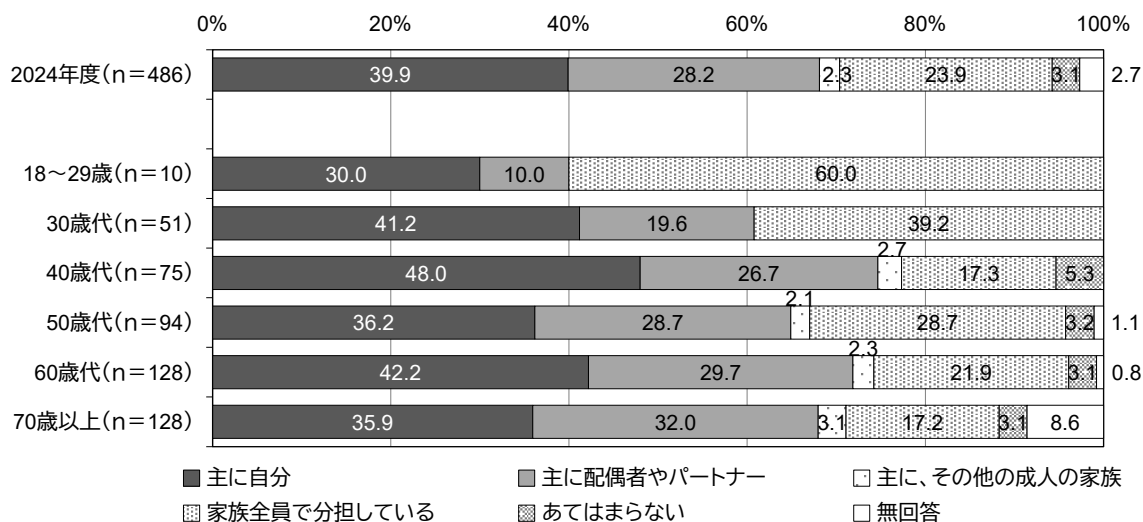
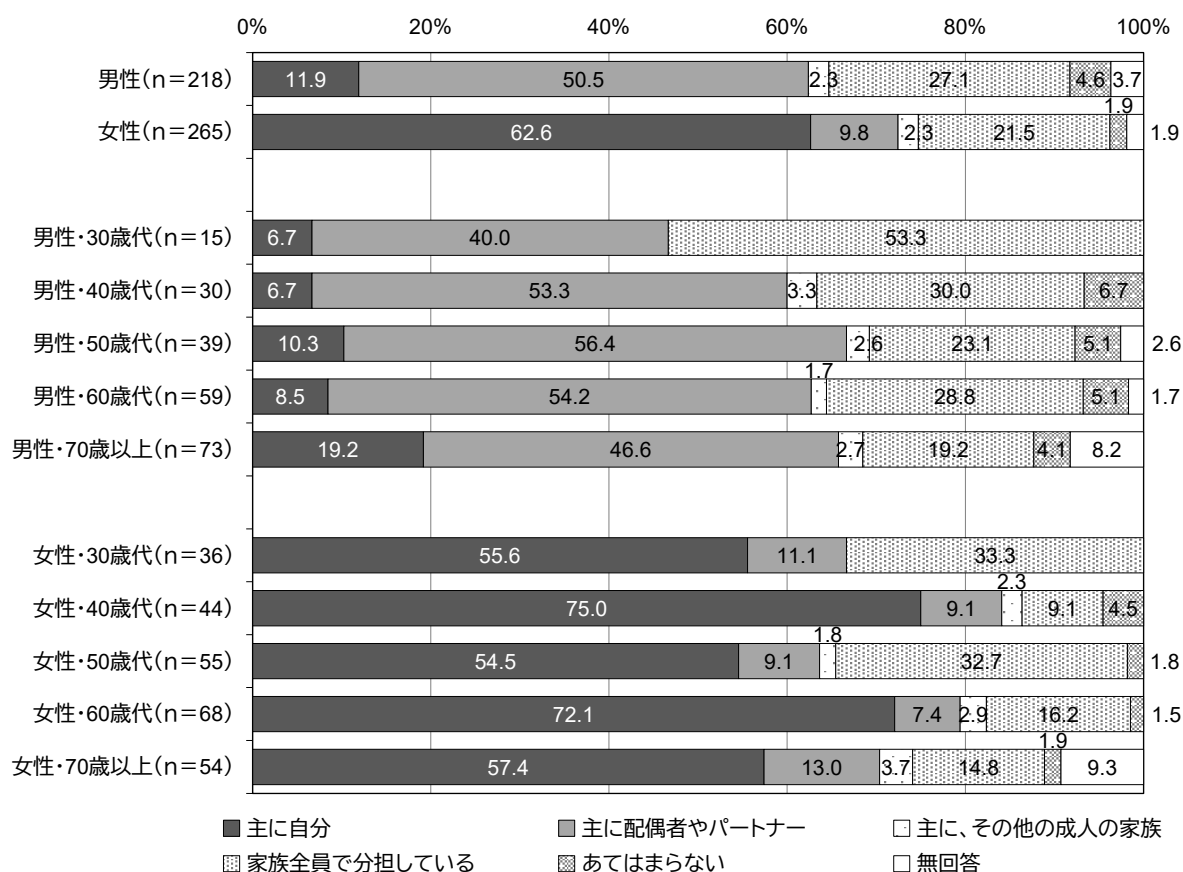


③買い物

◆男性は「主に配偶者やパートナー」が5割以上、女性は「主に自分」が6割以上で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」（50.5％）が5割以上、女性は「主に自分」（62.6％）が6割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、男性は30歳代を除き「主に配偶者やパートナー」、30歳代は「家族全員で分担している」（53.3％）が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「主に自分」が最も高くなっています。

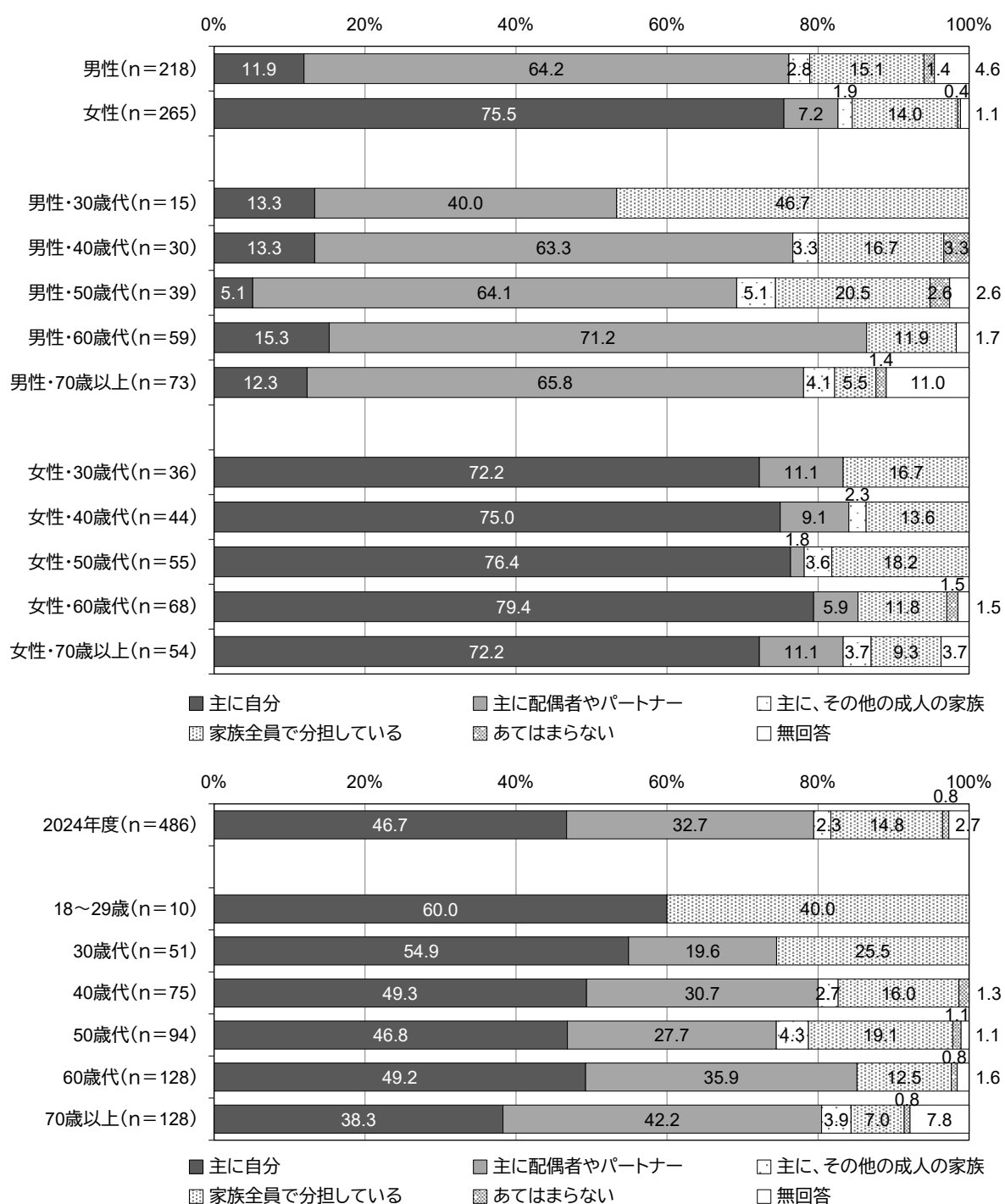


④洗濯

◆男性は「主に配偶者やパートナー」が6割以上、女性は「主に自分」が7割以上で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」（64.2%）が6割以上、女性は「主に自分」（75.5%）が7割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、男性は30歳代を除き「主に配偶者やパートナー」、30歳代は「家族全員で分担している」（46.7%）が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「主に自分」が最も高くなっています。

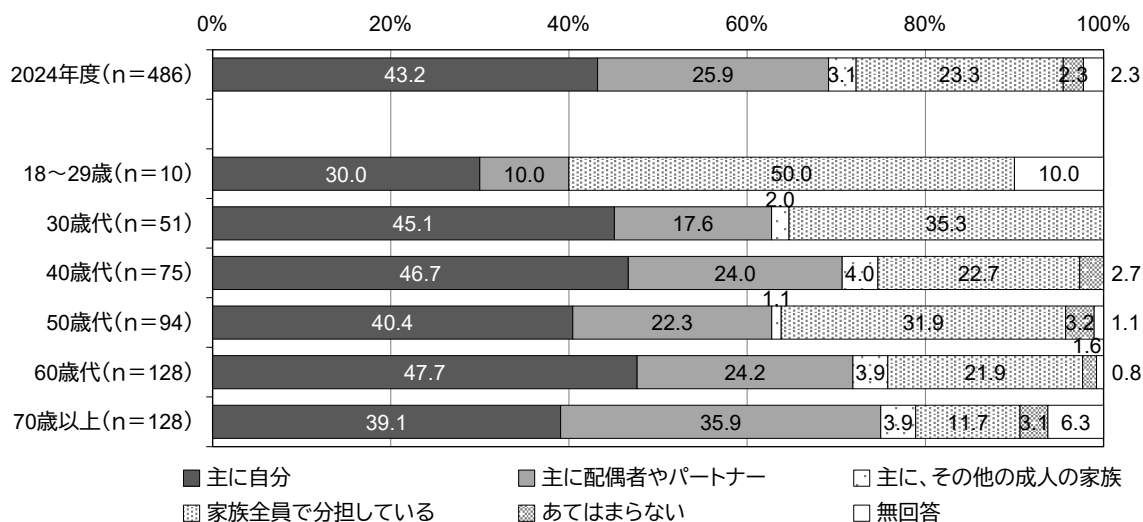
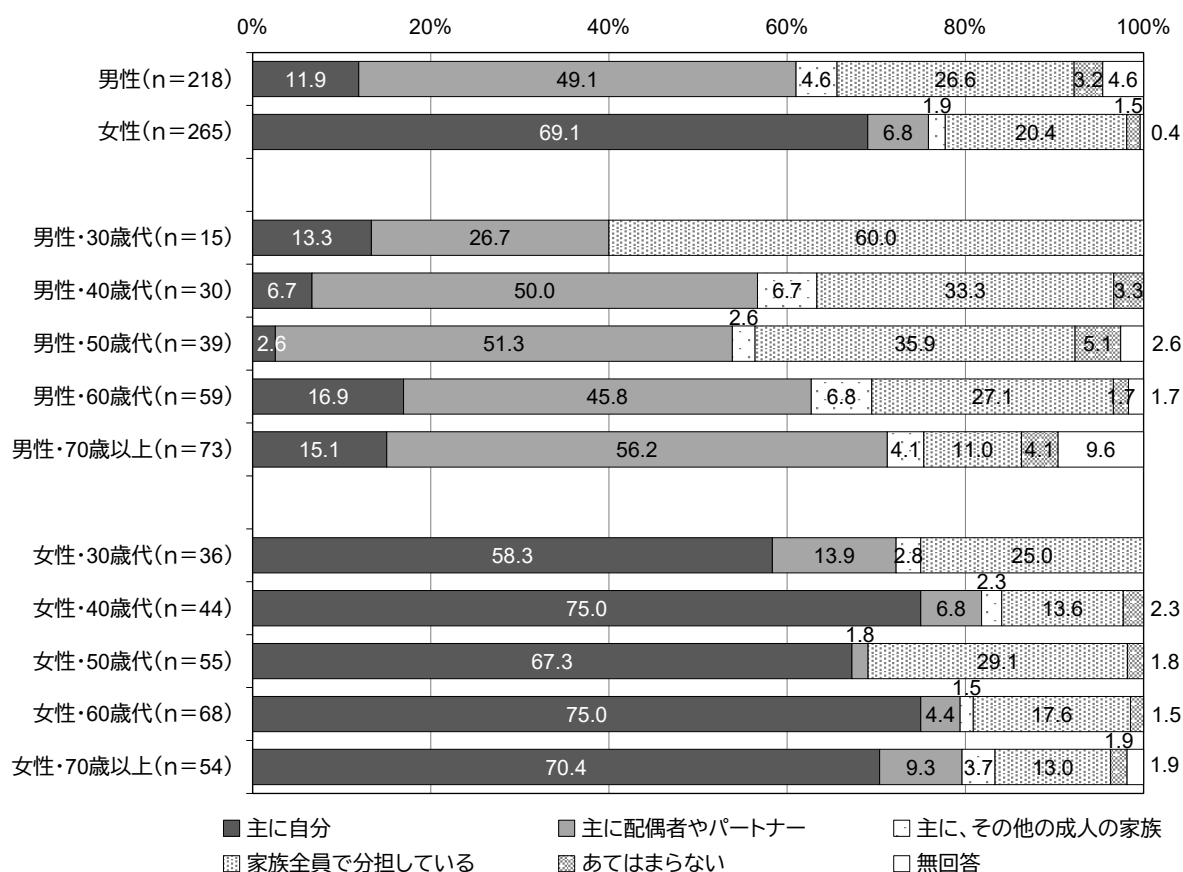


⑤掃除

◆男性は「主に配偶者やパートナー」が約5割、女性は「主に自分」が約7割で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」(49.1%)が約5割、女性は「主に自分」(69.1%)が約7割で最も高くなっています。

性別×年代別では、男性は30歳代を除き「主に配偶者やパートナー」、30歳代は「家族全員で分担している」(60.0%)が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「主に自分」が最も高くなっています。

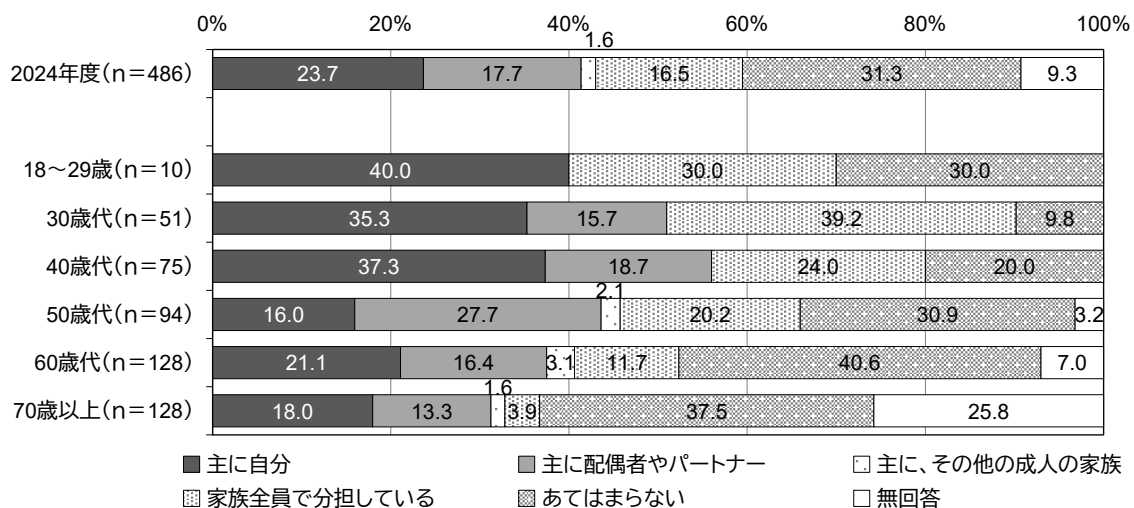
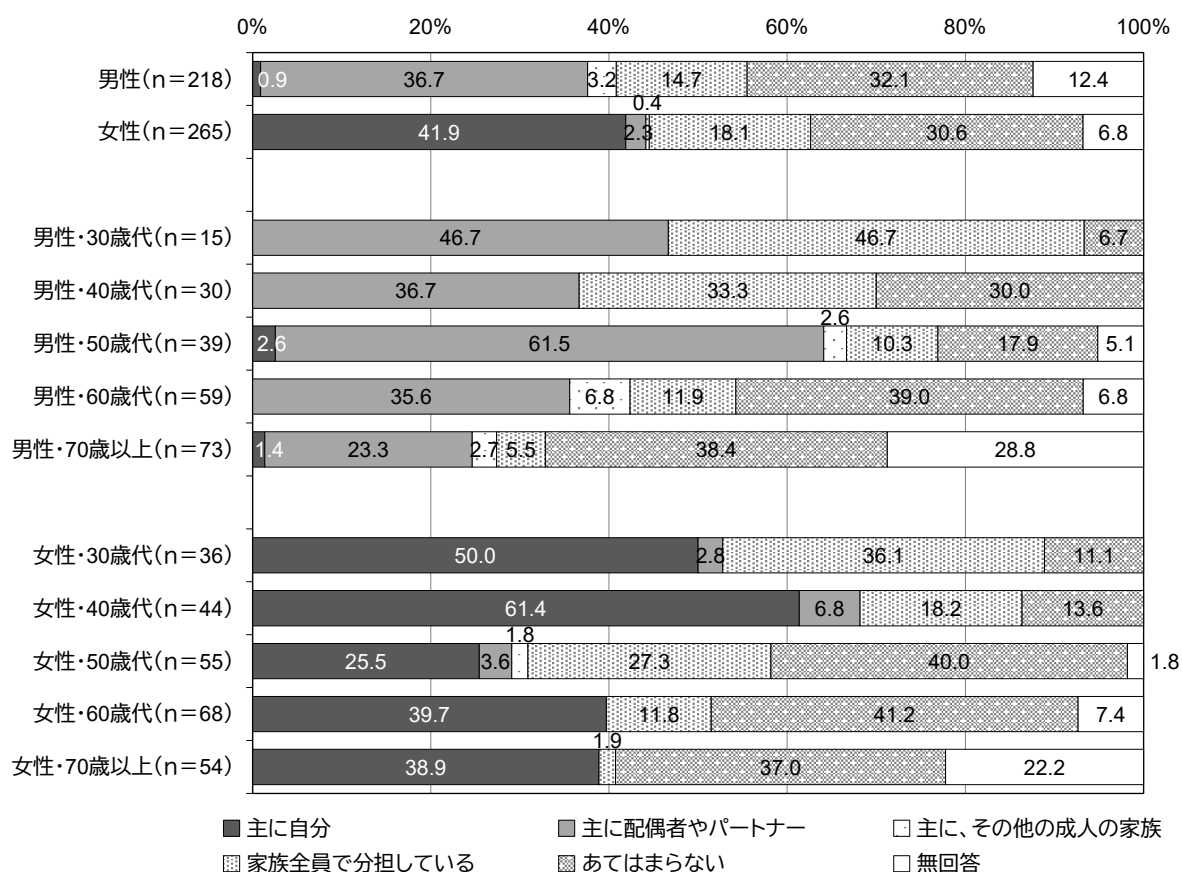


⑥育児

◆男性は「主に配偶者やパートナー」が約4割、女性は「主に自分」が4割以上で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」(36.7%)が約4割、女性は「主に自分」(41.9%)が4割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、「あてはまらない」を除くと、いずれの年代も、男性は「主に配偶者やパートナー」(30歳代は「家族全員で分担している」と同値で46.7%)、女性は50歳代を除き「主に自分」、50歳代は「家族全員で分担している」(27.3%)が最も高くなっています。

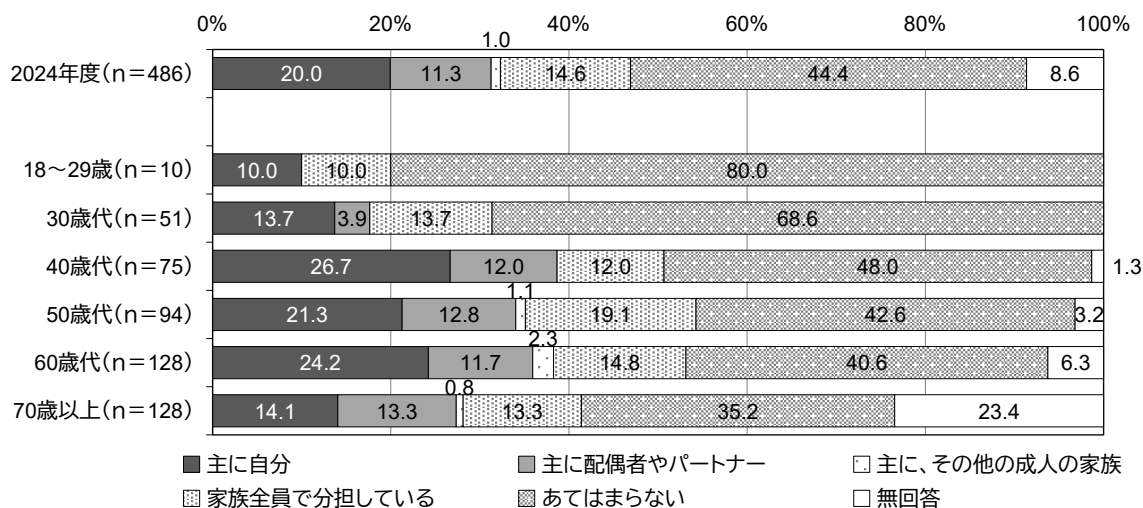
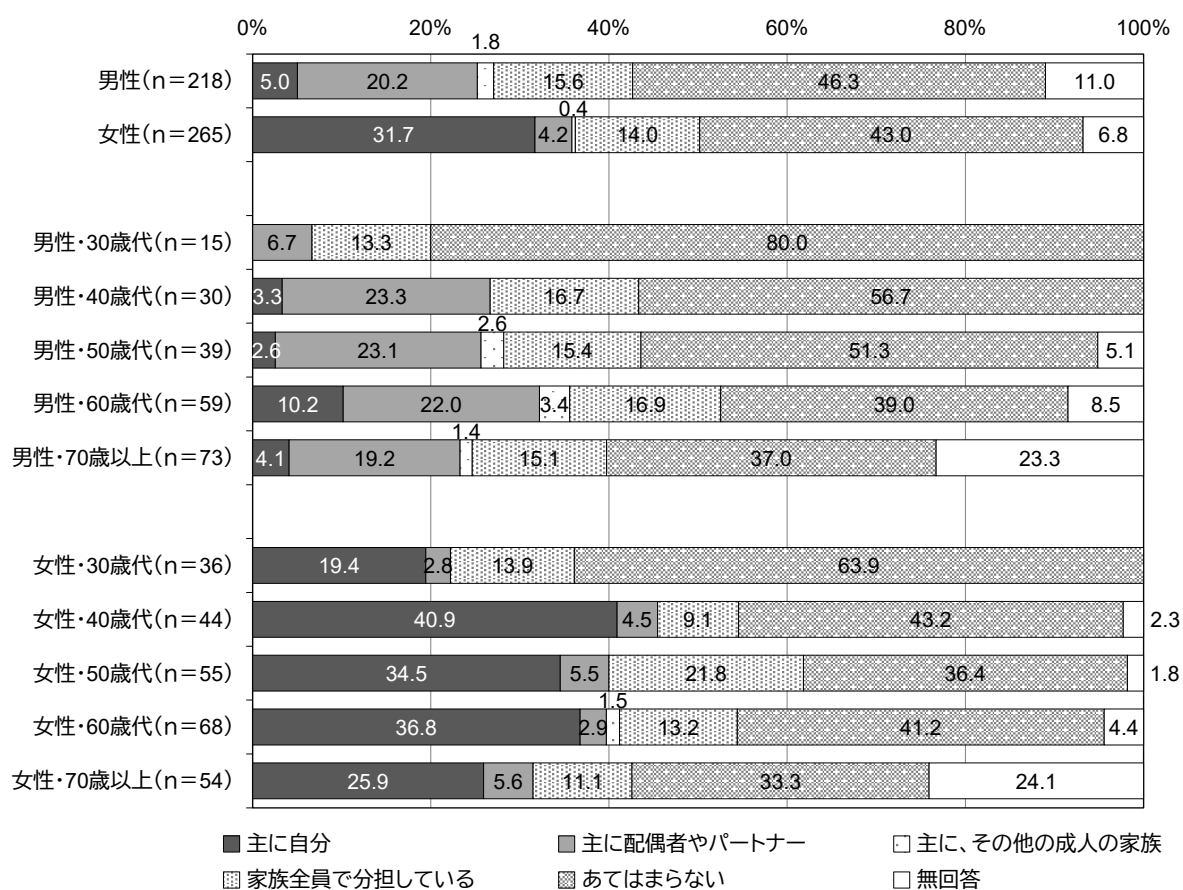


⑦家族の看護・介護

◆「あてはまらない」を除き、男性は「主に配偶者やパートナー」が2割以上、女性は「主に自分」が3割以上で最も高い

性別では、「あてはまらない」を除くと、男性は「主に配偶者やパートナー」(20.2%)が2割以上、女性は「主に自分」(31.7%)が3割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、「あてはまらない」を除くと、男性は40歳代以上では「主に配偶者やパートナー」、30歳代は「家族全員で分担している」(13.3%)が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「主に自分」が最も高くなっています。

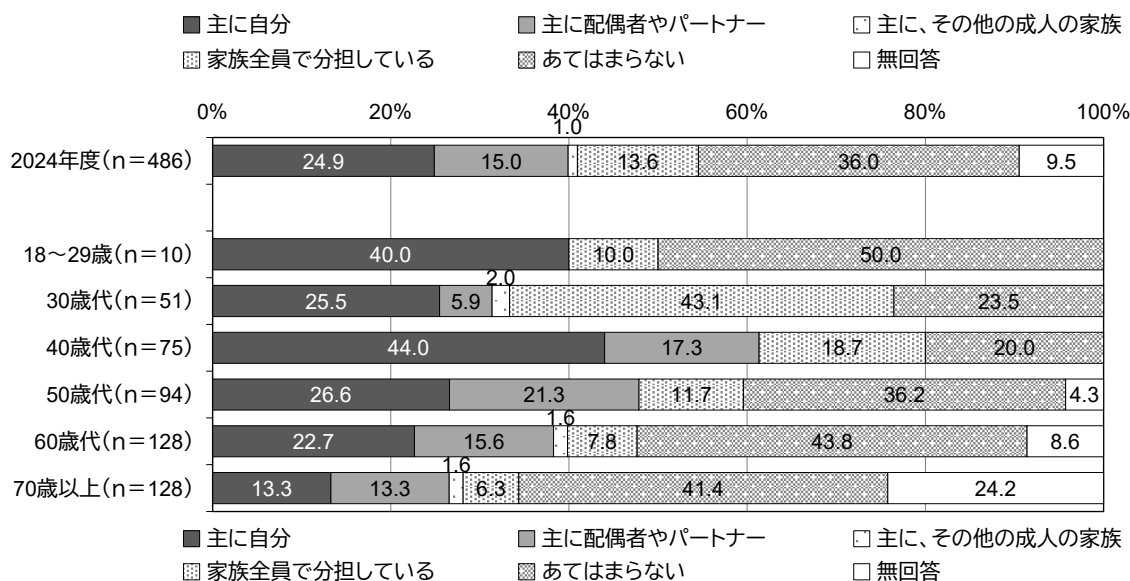
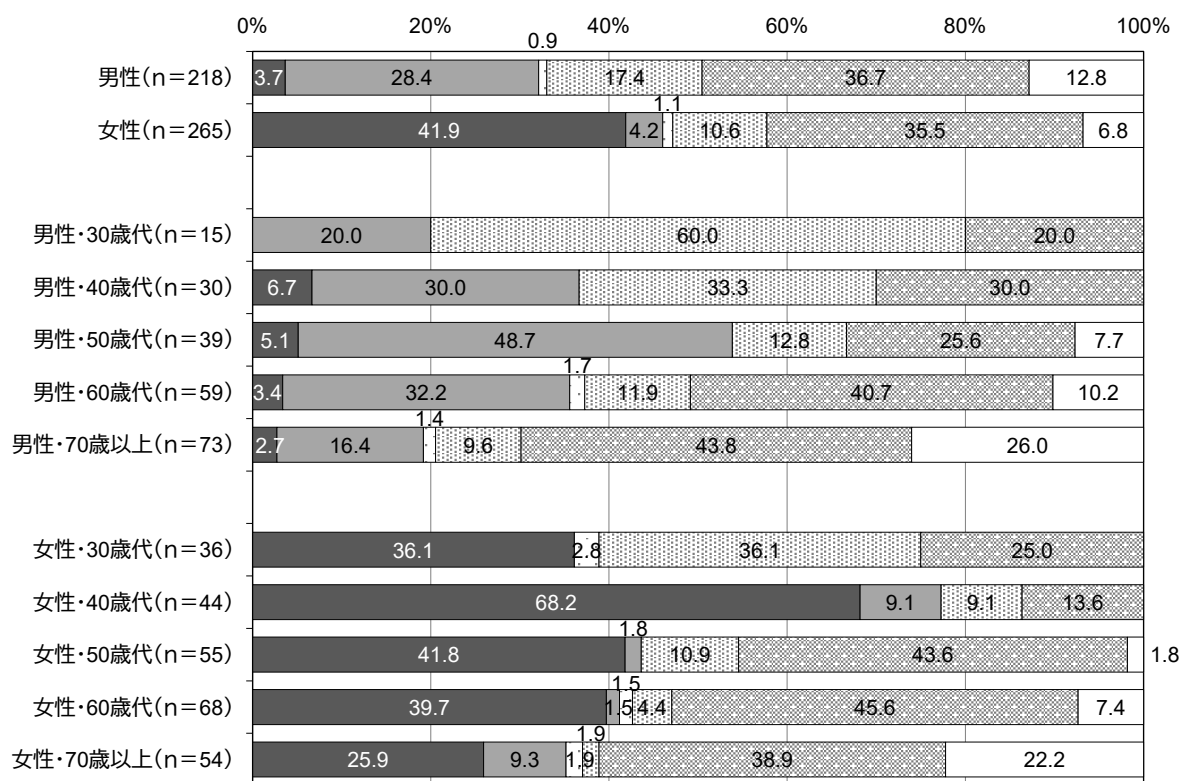


⑧学校行事などへの参加

◆「あてはまらない」を除き、男性は「主に配偶者やパートナー」が約3割、女性は「主に自分」が4割以上で最も高い

性別では、「あてはまらない」を除くと、男性は「主に配偶者やパートナー」（28.4％）が約3割、女性は「主に自分」（41.9％）が4割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、「あてはまらない」を除くと、男性は40歳代以下では家族全員で分担している」（30歳代60.0％、40歳代33.3％）、50歳代以上は「主に配偶者やパートナー」が最も高くなっています。女性はいずれの年代も「主に自分」が最も高く（30歳代は「家族全員で分担している」と同値で36.1％）なっています。

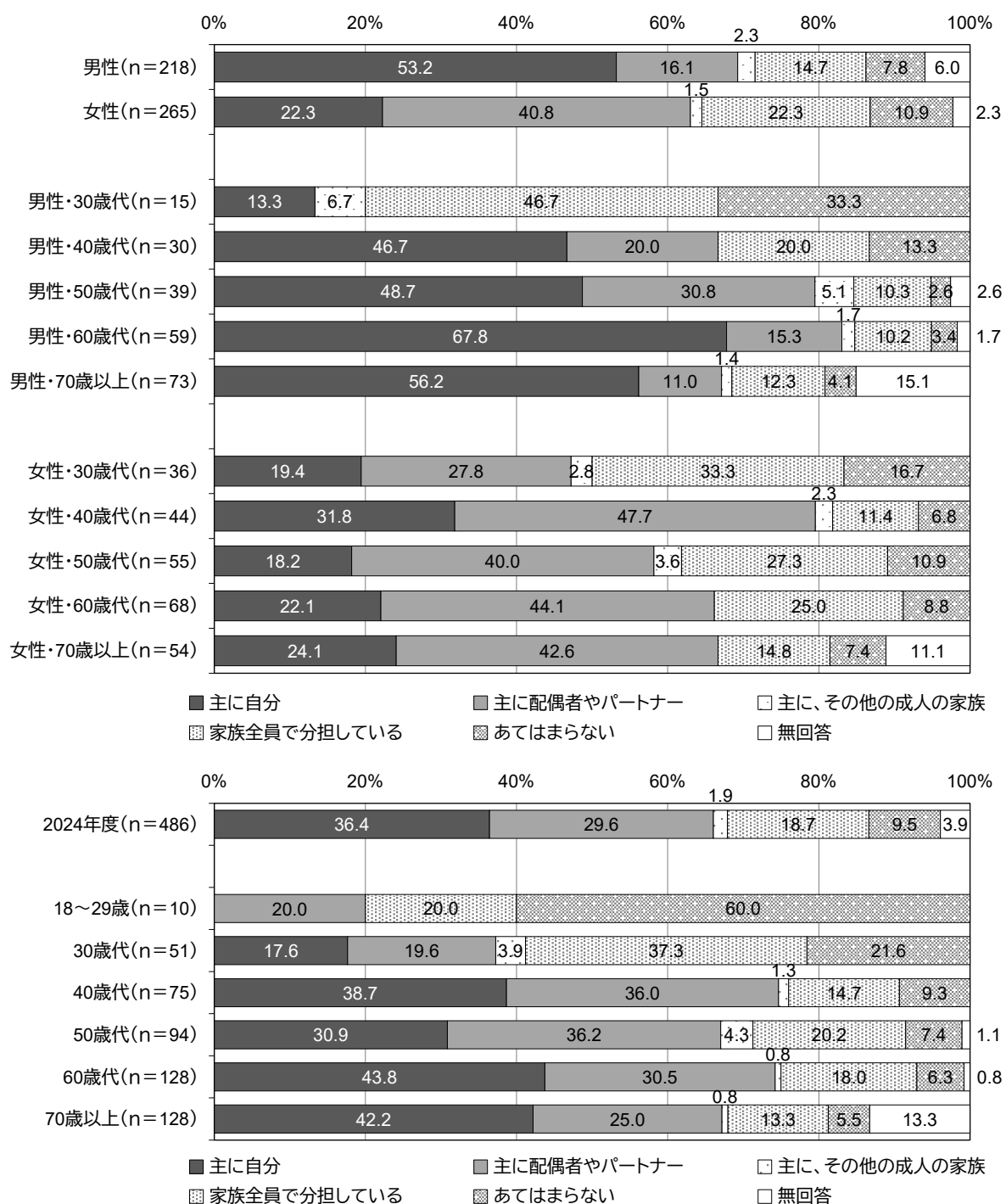


⑨自治会などの地域活動への参加

◆男性は「主に自分」が5割以上、女性は「主に配偶者やパートナー」が4割以上で最も高い

性別では、男性は「主に自分」(53.2%)が5割以上、女性は「主に配偶者やパートナー」(40.8%)が4割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、男性は30歳代を除き「主に自分」、30歳代は「家族全員で分担している」(46.7%)が最も高くなっています。女性は30歳代を除き「主に配偶者やパートナー」、30歳代は「家族全員で分担している」(33.3%)が最も高くなっています。

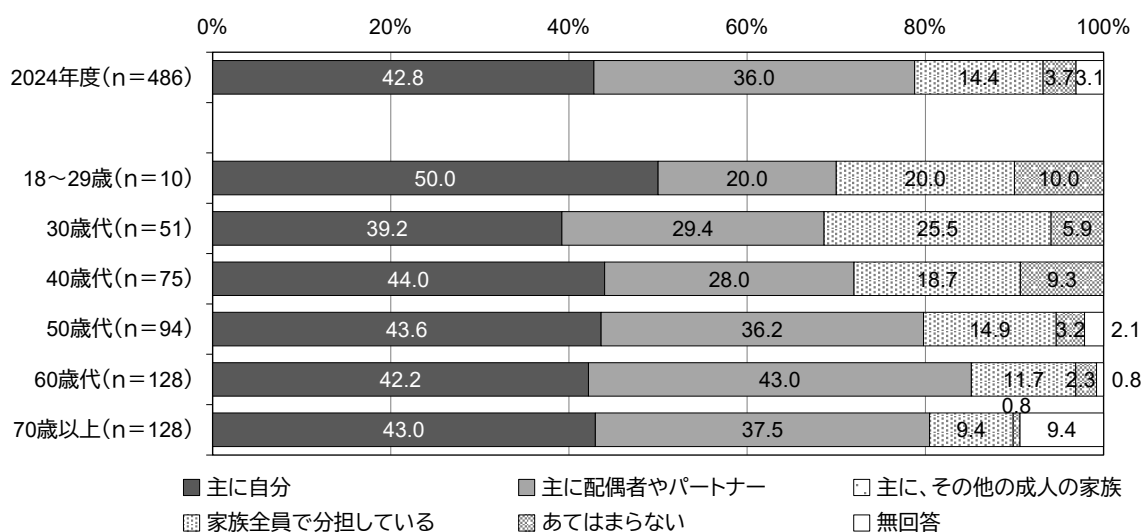
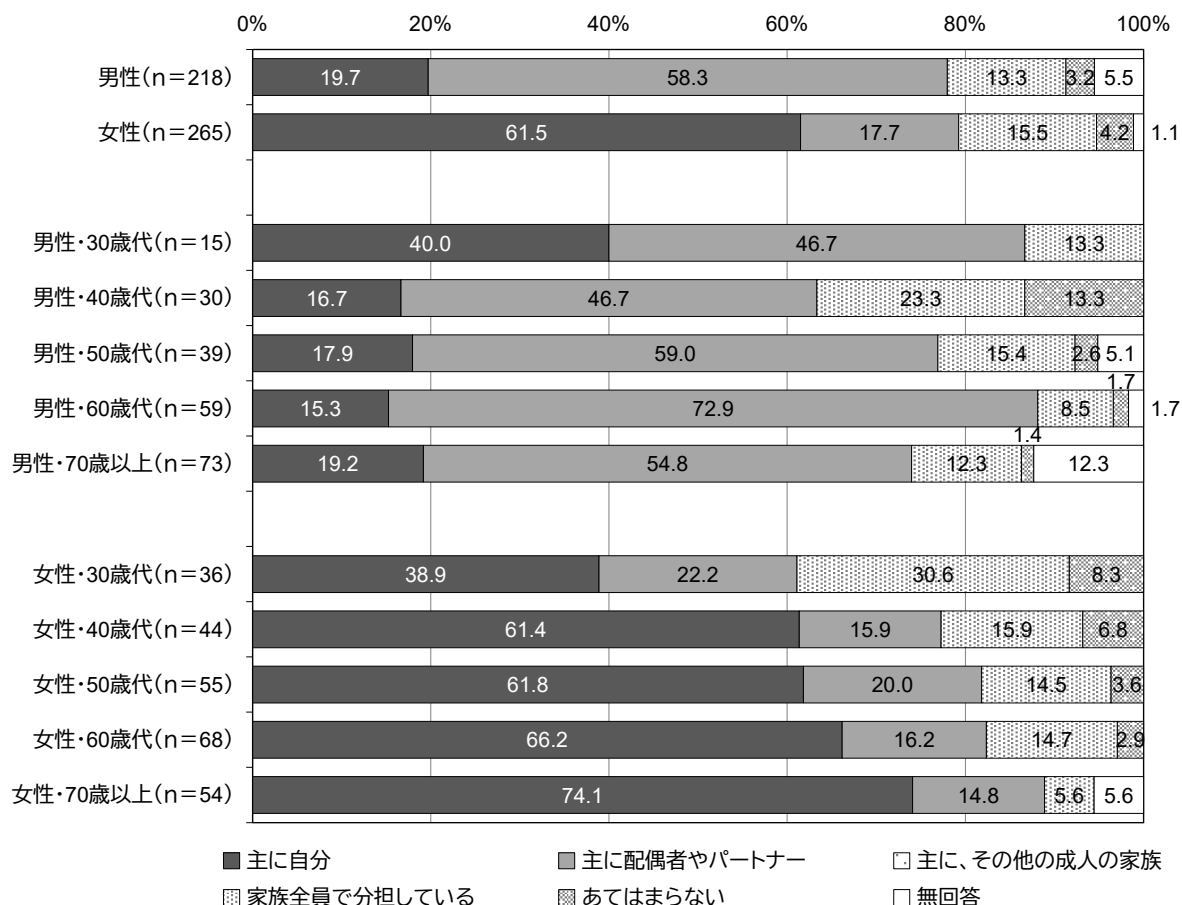


⑩家計の管理

◆男性は「主に配偶者やパートナー」が約6割、女性は「主に自分」が6割以上で最も高い

性別では、男性は「主に配偶者やパートナー」(58.3%)が約6割、女性は「主に自分」(61.5%)が6割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、いずれの年代も男性は「主に配偶者やパートナー」、女性は「主に自分」が最も高く、女性の「主に自分」は高い年代ほど高くなっています。



⑪収入を得る

◆男性は「主に自分」、女性は「主に配偶者やパートナー」が5割以上で最も高い

性別では、男性は「主に自分」(50.9%)、女性は「主に配偶者やパートナー」(55.5%)が5割以上で最も高くなっています。

性別×年代別では、いずれの年代も男性は「主に自分」、女性は「主に配偶者やパートナー」が最も高くなっています。

